

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-34618
(P2017-34618A)

(43) 公開日 平成29年2月9日(2017.2.9)

(51) Int.Cl.
H04N 21/431 (2011.01)

F I
H04N 21/431

テーマコード (参考)
5C164

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 70 頁)

(21) 出願番号 特願2015-155658 (P2015-155658)
(22) 出願日 平成27年8月6日 (2015.8.6)

(71) 出願人 00005810
日立マクセル株式会社
大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号
(74) 代理人 110002066
特許業務法人筒井国際特許事務所
(72) 発明者 橋本 康宣
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
(72) 発明者 吉澤 和彦
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
(72) 発明者 清水 拓也
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内

最終頁に続く

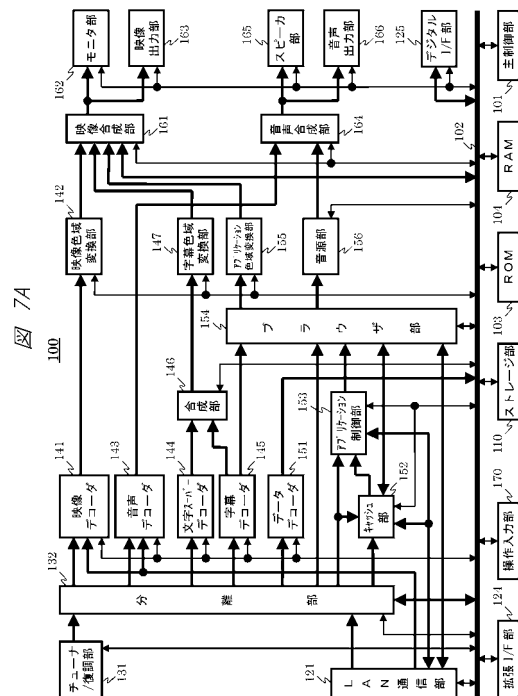
(54) 【発明の名称】 放送受信装置及び出力映像情報生成方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 より付加価値の高い機能を実行可能なデジタル放送受信機を提供する。

【解決手段】 デジタル放送番組の映像データと番組連携データと画面レイアウト制御情報を受信する受信部と、複数の領域を合成した映像情報を出力映像情報として生成する映像生成部と、出力映像情報を表示する表示部と、制御部と、を備える。有効な画面レイアウト制御情報がない場合、制御部は、映像表示領域の分割を行わずに番組映像情報を出力映像情報として生成するように映像生成部を制御する。有効な画面レイアウト制御情報を取得した後は、有効な画面レイアウト制御情報に基づいて、映像表示領域を複数の領域に分割し、受信したデジタル放送番組の映像データに基づいて生成した番組映像情報と、受信した番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、又は映像情報の何れかを配置するように映像生成部を制御する。

【選択図】 図7A



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

デジタル放送番組の映像データと前記デジタル放送番組についての番組連携データと画面レイアウト制御情報とを受信可能な放送受信装置であって、

前記デジタル放送番組の映像データと前記番組連携データと前記画面レイアウト制御情報を受信する受信部と、

出力する映像の映像表示領域を、前記画面レイアウト制御情報に基づいて複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づいて生成した番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、画像情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を出力映像情報として生成することが可能な映像生成部と、

前記出力映像情報を表示する表示部と、

制御部と、

を備え、

有効な前記画面レイアウト制御情報がない場合、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得するまでは、前記制御部は、前記映像表示領域の分割を行わずに前記番組映像情報を出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御し、

有効な前記画面レイアウト制御情報を取得した後は、前記制御部は、有効な前記画面レイアウト制御情報に基づいて、前記映像表示領域を複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づいて生成した前記番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を前記出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御する、放送受信装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の放送受信装置において、

電源投入時に有効な前記画面レイアウト制御情報がない場合、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得するまでは、前記制御部は、前記映像表示領域の分割を行わずに前記番組映像情報を前記出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御する、放送受信装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の放送受信装置において、

チャンネル変更時に有効な前記画面レイアウト制御情報がない場合、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得するまでは、前記制御部は、前記映像表示領域の分割を行わずに前記番組映像情報を前記出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御する、放送受信装置。

【請求項 4】

デジタル放送番組の映像データと前記デジタル放送番組についての番組連携データと画面レイアウト制御情報とを受信可能な放送受信装置における出力映像情報生成方法であって、

前記デジタル放送番組の映像データと前記番組連携データと前記画面レイアウト制御情報を受信する受信ステップと、

出力する映像の映像表示領域を、前記画面レイアウト制御情報に基づいて複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づいて生成した番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を出力映像情報として生成することが可能な出力映像生成ステップと、

を備え、

有効な前記画面レイアウト制御情報がない場合、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得するまでは、前記映像表示領域の分割を行わずに前記番組映像情報を前記出力映像情報として生成し、

10

20

30

40

50

有効な前記画面レイアウト制御情報を取得した後は、有効な前記画面レイアウト制御情報に基づいて、前記映像表示領域を複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づいて生成した前記番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を前記出力映像情報として生成する、出力映像情報生成方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、放送受信技術及び出力映像情報生成技術に関する。

10

【背景技術】

【0002】

デジタル放送サービスの拡張機能の1つに、放送波でデジタルデータを送信し、天気予報やニュース、おすすめ番組等の各種情報を表示するデータ放送がある。データ放送を受信可能なテレビ受信機は既に多数市販されており、また、データ放送受信に関する技術も下記特許文献1をはじめ多数が公表されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2001-186486号公報

20

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

近年のコンテンツ配信に関する環境変化に対して、テレビ受信機も様々な機能拡張を求められている。特にインターネット等のブロードバンドネットワーク環境を利用したコンテンツや連携アプリケーションの配信に対する要求、及び、映像コンテンツの高解像度化/高精細化に対する要求、等が多い。しかしながら、現行のテレビ受信機が備えるデータ放送受信機能等のみの流用、或いは、前記データ放送受信機能等の機能拡張のみでは、前記要求に応え得る高付加価値のテレビ受信機を提供することは難しい。

【0005】

30

本発明の目的は、より付加価値の高い機能を実行可能な放送受信装置を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記課題を解決するための手段として、特許請求の範囲に記載の技術を用いる。

【0007】

一例を挙げるならば、デジタル放送番組の映像データと前記デジタル放送番組についての番組連携データと画面レイアウト制御情報とを受信可能な放送受信装置であって、前記デジタル放送番組の映像データと前記番組連携データと前記画面レイアウト制御情報を受信する受信部と、出力する映像の映像表示領域を、前記画面レイアウト制御情報に基づいて複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づいて生成した番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、画像情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を出力映像情報として生成することが可能な映像生成部と、前記出力映像情報を表示する表示部と、制御部と、を備え、有効な前記画面レイアウト制御情報がない場合、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得するまでは、前記制御部は、前記映像表示領域の分割を行わずに前記番組映像情報を出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御し、有効な前記画面レイアウト制御情報を取得した後は、前記制御部は、有効な前記画面レイアウト制御情報に基づいて、前記映像表示領域を複数の領域に分割し、前記複数の領域のそれぞれに、受信した前記デジタル放送番組の映像データに基づ

40

50

いて生成した前記番組映像情報と、受信した前記番組連携データに基づいて生成した文字情報、図形情報、又は映像情報の何れかを配置し、前記複数の領域を合成した映像情報を前記出力映像情報として生成するように前記映像生成部を制御するように構成する。

【発明の効果】

【0008】

本発明の技術を用いることにより、より付加価値の高い機能を実行可能な放送受信装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】実施例1に係る放送受信装置を含む放送通信システムの一例を示すシステム構成図である。 10

【図2A】MMTにおける符号化信号の概要の説明図である。

【図2B】MMTにおけるMPUの構成図である。

【図2C】MMTにおけるMMTPパケットの構成図である。

【図3】MMTを用いる放送システムのプロトコルスタックの概念図である。

【図4】放送システムで用いる制御情報の階層構成図である。

【図5A】放送システムのTLV-SIで使用されるテーブルの一覧である。

【図5B】放送システムのTLV-SIで使用される記述子の一覧である。

【図6A】放送システムのMMT-SIで使用されるメッセージの一覧である。

【図6B】放送システムのMMT-SIで使用されるテーブルの一覧である。 20

【図6C】放送システムのMMT-SIで使用される記述子の一覧(その1)である。

【図6D】放送システムのMMT-SIで使用される記述子の一覧(その2)である。

【図6E】放送システムのデータ伝送と各テーブルの関係を示す図である。

【図7A】実施例1に係る放送受信装置のブロック図である。

【図7B】実施例1に係る放送受信装置の提示機能の論理的プレーン構造の構成図である。

【図7C】実施例1に係る放送受信装置のクロック同期/提示同期のシステム構成図である。

【図7D】実施例1に係る放送受信装置のソフトウェア構成図である。

【図8】実施例1に係る放送局サーバのブロック図である。 30

【図9】実施例1に係るサービス事業者サーバのブロック図である。

【図10A】実施例1に係る携帯情報端末のブロック図である。

【図10B】実施例1に係る携帯情報端末のソフトウェア構成図である。

【図11A】放送システムのMH-TOTのデータ構造を示す図である。

【図11B】放送システムのJST_timeパラメータのフォーマットを示す図である。

【図12】実施例1に係る放送受信装置のMJDからの現在日付の算出方法を示す図である。

【図13A】放送システムのNTP形式の構成を示す図である。

【図13B】放送システムのMPUタイムスタンプ記述子のデータ構造を示す図である。 40

【図13C】放送システムのTMCC拡張情報領域の時刻情報のデータ構造を示す図である。

【図14】実施例1に係る放送受信装置のチャンネルスキャン時の動作シーケンス図である。

【図15A】放送システムのTLV-NITのデータ構造を示す図である。

【図15B】放送システムの衛星分配システム記述子のデータ構造を示す図である。

【図15C】放送システムのサービスリスト記述子のデータ構造を示す図である。

【図15D】放送システムのAMTのデータ構造を示す図である。

【図16】実施例1に係る放送受信装置の選局時の動作シーケンス図である。

【図17】放送システムのMPTのデータ構造を示す図である。 50

- 【図18】放送システムのLC Tのデータ構造を示す図である。
- 【図19A】LC Tに基づくレイアウト番号へのレイアウトの割当の例を示す図である。
- 【図19B】LC Tに基づくレイアウト番号へのレイアウトの割当の例を示す図である。
- 【図19C】LC Tに基づくレイアウト番号へのレイアウトの割当の例を示す図である。
- 【図19D】LC Tに基づくレイアウト番号へのレイアウトの割当の例を示す図である。
- 【図20A】LC Tに基づく画面レイアウト制御の例外処理の動作を説明する図である。
- 【図20B】LC Tに基づく画面レイアウト制御の例外処理の動作を説明する図である。
- 【図21】放送システムのMH - EITのデータ構造を示す図である。
- 【図22A】実施例1に係る放送受信装置のEPG画面の画面表示図である。
- 【図22B】実施例1に係る放送受信装置のEPG画面の画面表示図である。
- 【図22C】実施例1に係る放送受信装置のEPG画面の画面表示図である。
- 【図23】実施例1に係る放送受信装置の緊急警報放送表示時の画面表示図である。
- 【図24】実施例2に係る放送受信装置のブロック図である。
- 【図25】放送サービス切り替え時の現在時刻表示の不整合を説明する図である。
- 【図26】実施例2に係る現在時刻情報参照元の選択制御の動作を説明する図である。
- 【図27A】実施例2に係る放送受信装置のEPG画面の画面表示図である。
- 【図27B】実施例2に係る放送受信装置のEPG画面の画面表示図である。
- 【図28】番組データの構造図である。
- 【図29】アセットデータの構造図である。
- 【図30】PAメッセージのデータ構造を示す図である。
- 【図31】MMT_general_location_infoのデータ構造を示す図である。
- 【図32】PLTのデータ構造を示す図である。
- 【図33】ロケーションタイプの意味を示す図である。
- 【図34】MPU提示領域指定記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図35A】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【図35B】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【図36A】LC T有効期限記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図36B】レイアウト有効期限記述子のデータ構造を説明する図である。
- 【図36C】提示領域有効期限記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図37】共通提示領域情報記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図38】full_set_flagの意味を示す図である。
- 【図39】重複提示領域指定記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図40】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【図41】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【図42】依存関係記述子のデータ構造を示す図である。
- 【図43】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【図44】依存関係記述子の変形例のデータ構造を示す図である。
- 【図45】dependency_typeの意味を示す図である。
- 【図46】実施例3に係る提示動作を説明する図である。
- 【発明を実施するための形態】
- 【0010】
- 以下、本発明の実施形態の例を、図面を用いて説明する。
- (実施例1)
- 【0011】
- [システム構成]
- 図1は、本実施例の放送受信装置を含む放送通信システムの一例を示すシステム構成図である。本実施例の放送通信システムは、放送受信装置100とアンテナ100a、インターネット200等のブロードバンドネットワーク及びルータ装置200rとアクセスポイント200a、放送局の電波塔300tと放送衛星(又は通信衛星)300s、放送局

10

20

30

40

50

サーバ300、サービス事業者サーバ400、その他のアプリケーションサーバ500、移動体電話通信サーバ600と移動体電話通信網の基地局600b、携帯情報端末700、で構成される。

【0012】

放送受信装置100は、電波塔300tから送出された放送波を、放送衛星（又は通信衛星）300s及びアンテナ100aを介して受信する。或いは、電波塔300tから送出された放送波を、放送衛星（又は通信衛星）300sを介さずに、直接アンテナ100aから受信しても良い。また、放送受信装置100は、ルータ装置200rを介してインターネット200と接続可能であり、インターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器との通信によるデータの送受信が可能である。

10

【0013】

ルータ装置200rは、インターネット200と有線通信により接続され、また、放送受信装置100とは有線通信又は無線通信で、携帯情報端末700とは無線通信で接続される。前記無線通信は、Wi-Fi（登録商標）等の方式が使用されて良い。これにより、インターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器と放送受信装置100と携帯情報端末700とが、ルータ装置200rを介して、データの送受信を相互に行うことが可能となる。なお、放送受信装置100と携帯情報端末700との通信は、ルータ装置200rを介さずに、Bluetooth（登録商標）やNFC（Near Field Communication）等の方式で直接通信を行っても良い。

20

【0014】

電波塔300tは、放送局の放送設備であり、放送番組の符号化データや字幕情報、その他のアプリケーション、汎用データ、等を含む放送波を送出する。放送衛星（又は通信衛星）300sは、放送局の電波塔300tから送信された放送波を受信し、適宜周波数変換等を行った後に、放送受信装置100に接続されたアンテナ100aに対して前記放送波を再送信する中継器である。また、前記放送局は放送局サーバ300を備えるものとする。放送局サーバ300は、放送番組（動画コンテンツ等）及び各放送番組の番組タイトル、番組ID、番組概要、出演者情報、放送日時、等のメタデータを記憶し、前記動画コンテンツや各メタデータを、契約に基づいて、サービス事業者に対して提供することが可能であるものとする。なお、サービス事業者に対する前記動画コンテンツ及び各メタデータの提供は、放送局サーバ300が備えるAPI（Application Programming Interface）を通して行われるものであって良い。

30

【0015】

サービス事業者サーバ400は、サービス事業者が用意するサーバ装置であり、放送局から配信される放送番組に連携した各種サービスを提供することが可能であるものとする。また、サービス事業者サーバ400は、放送局サーバ300から提供された動画コンテンツ及びメタデータや、放送番組に連携する各種コンテンツ及びアプリケーション等の記憶、管理及び配信等を行う。また、テレビ受信機等からの問い合わせに対して、提供可能なコンテンツやアプリケーション等の検索や一覧の提供を行う機能も有するものとする。なお、前記コンテンツ及びメタデータの記憶、管理及び配信と、前記アプリケーションの記憶、管理及び配信は、異なるサーバ装置が行うものであっても良い。前記放送局と前記サービス事業者は同一であって良いし、異なっても良い。サービス事業者サーバ400は、異なるサービス毎に複数用意されても良い。また、サービス事業者サーバ400の機能は、放送局サーバ300が兼ね備えるものであっても良い。

40

【0016】

その他のアプリケーションサーバ500は、その他の一般的なアプリケーションや動作プログラム、コンテンツ、データ、等の記憶、管理及び配信等を行う公知のサーバ装置である。その他のアプリケーションサーバ500は、インターネット200上に複数あっても良い。

【0017】

移動体電話通信サーバ600は、インターネット200と接続され、一方、基地局600

50

0 bを介して携帯情報端末700と接続される。移動体電話通信サーバ600は、携帯情報端末700の移動体電話通信網を介した電話通信（通話）及びデータ送受信を管理し、携帯情報端末700とインターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器との通信によるデータの送受信を可能とする。基地局600bと携帯情報端末700との通信は、W-CDMA（Wideband Code Division Multiple Access）（登録商標）方式やGSM（Global System for Mobile communications）（登録商標）方式、LTE（Long Term Evolution）方式、或いはその他の通信方式によって行われるものであって良い。

【0018】

携帯情報端末700は、移動体電話通信網を介した電話通信（通話）及びデータ送受信の機能やWi-Fi（登録商標）等による無線通信の機能を有するものとする。携帯情報端末700は、ルータ装置200rやアクセスポイント200aを介して、或いは、移動体電話通信網の基地局600b及び移動体電話通信サーバ600を介して、インターネット200と接続可能であり、インターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器との通信によるデータの送受信が可能である。アクセスポイント200aは、インターネット200と有線通信により接続され、また、携帯情報端末700とは無線通信で接続される。前記無線通信は、Wi-Fi（登録商標）等の方式が使用されて良い。なお、携帯情報端末700と放送受信装置100との通信は、アクセスポイント200a及びインターネット200とルータ装置200rを介して、或いは、基地局600bと移動体電話通信サーバ600及びインターネット200とルータ装置200rを介して行われるものであっても良い。

【0019】

[MMT方式の概要]

図1に示した放送受信装置100は、映像や音声等のデータを伝送するメディアトランスポート方式として、従来のデジタル放送システムで多く採用されているMPEG（Moving Picture Experts Group）-2システムで規定されたTS（Transport Stream）（以下、MPEG2-TSと記述する。）に代替して、MMT（MPEG Media Transport）に対応可能なテレビ受信機であるものとする。MPEG2-TSとMMTの双方に対応可能なテレビ受信機であって

【0020】

MPEG2-TSは、番組を構成する映像や音声等のコンポーネントを、制御信号やクロックと共に1つのストリームに多重することを特徴とする。クロックも含めて1つのストリームとして扱うため、伝送品質が確保された1つの伝送路で1つのコンテンツを伝送するのに適しており、従来の多くのデジタル放送システムで採用された。一方、近年のコンテンツの多様化、コンテンツを利用する機器の多様化、コンテンツを配信する伝送路の多様化、コンテンツ蓄積環境の多様化、等、コンテンツ配信に関する環境変化に対してMPEG2-TSの機能に限界があることから、新たに策定されたメディアトランスポート方式がMMTである。

【0021】

図2Aに、本実施例のMMTにおける符号化信号の概要の一例を示す。同図に示したように、本実施例のMMTは、符号化信号を構成する要素として、MFU（Media Fragment Unit）、MPU（Media Processing Unit）、MMTP（MMT Protocol）ペイロード、MMTPパケットを有するものとする。MFUは、映像や音声等の伝送時の形式であり、NAL（Network Abstraction Layer）ユニット単位やアクセスユニット単位で構成されて良い。MPUは、MPU全体の構成に関する情報を含むMPUメタデータと、符号化したメディアデータの情報を含むムービーフラグメントメタデータと、符号化したメディアデータであるサンプルデータと、で構成されて良い。また、サンプルデータからはMFUを取り

10

20

30

40

50

出すことが可能であるものとする。また、映像コンポーネントや音声コンポーネント等のメディアの場合、MPU単位やアクセスユニット単位で提示時刻や復号時刻が指定されても良い。図2Bに、MPUの構成の一例を示す。

【0022】

MMTPパケットは、ヘッダ部とMMTPペイロードで構成され、MFU及びMMTの制御情報を伝送するものとする。MMTPペイロードは、ペイロード部に格納する内容(データユニット)に応じたペイロードヘッダを備えるものとする。図2Cに、映像/音声信号からMFUを構成し、更にMMTPペイロードに格納して、MMTPパケットを構成するまでの概要の一例を示す。なお、フレーム間予測を用いて符号化を行う映像信号では、MPUをGOP(Group Of Pictures)単位で構成することが望ましい。また、伝送するMFUの大きさが小さい場合、1つのペイロード部に1つのMFUを格納しても良いし、1つのペイロード部に複数のMFUを格納しても良い。また、伝送するMFUの大きさが大きい場合には、1つのMFUを複数のペイロード部に分割して格納しても良い。また、MMTPパケットは、伝送路上におけるパケットロスを回復するために、AL-FEC(Application Layer Forward Error Correction)やARQ(Automatic Repeat Request)等の技術を用いて保護されて良い。

【0023】

本実施例の放送システムにおいては、映像符号化方式としてMPEG-H HEVC(High Efficiency Video Coding)が用いられ、音声符号化方式としてMPEG-4 AAC(Advanced Audio Coding)又はMPEG-4 ALS(Audio Lossless Coding)が用いられるものとする。前記各方式により符号化された、放送番組の映像や音声等の符号化データは、MFUやMPUの形式とし、更にMMTPペイロードに乗せてMMTPパケット化して、IP(Internet Protocol)パケットで伝送するものとする。また、放送番組に関連するデータコンテンツに関してもMFUやMPUの形式とし、更にMMTPペイロードに乗せてMMTPパケット化して、IPパケットで伝送して良い。データコンテンツの伝送方式としては、放送に同期したデータのストリーミングに用いる字幕/文字スーパー伝送方式、放送と非同期のデータ伝送に用いるアプリケーション伝送方式、テレビ受信機上で動作するアプリケーションに対する同期/非同期のメッセージ通知に用いるイベントメッセージ伝送方式、その他の汎用データを同期型/非同期型で伝送する汎用データ伝送方式、の四種類が用意されるものとする。

【0024】

MMTPパケットの伝送には、放送伝送路ではUDP/IP(User Datagram Protocol/Internet Protocol)が用いられ、通信回線ではUDP/IP又はTCP/IP(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)が用いられるものとする。また、放送伝送路においては、IPパケットの効率的な伝送のためにTLV(Type Length Value)多重化方式が用いられるものとする。本実施例の放送システムのプロトコルスタックの一例を図3に示す。図中、(A)は放送伝送路におけるプロトコルスタックの一例であり、(B)は通信回線におけるプロトコルスタックの一例である。

【0025】

本実施例の放送システムでは、MMT-SI(MMT-Signaling Information)とTLV-SI(TLV-Signaling Information)の二種類の制御情報を伝送する仕組みを用意するものとする。MMT-SIは、放送番組の構成等を示す制御情報である。MMTの制御メッセージの形式とし、MMTPペイロードに乗せてMMTPパケット化して、IPパケットで伝送するものとする。TLV-SIは、IPパケットの多重に関する制御情報であり、選局のための情報やIPアドレスとサービスの対応情報を提供するものとする。

【0026】

10

20

30

40

50

また、MMTを用いた放送システムにおいても、絶対時刻を提供するために時刻情報を伝送するものとする。なお、MPEG2-TSがTS毎に異なるクロックをベースとしてコンポーネントの表示時刻を示していたのに対し、MMTでは、協定世界時刻(Coordinated Universal Time: UTC)をベースとしてコンポーネントの表示時刻を示すものとする。これらの仕組みにより、異なる送信点から異なる伝送路で伝送されたコンポーネントを端末機器が同期して表示することが可能となる。UTCを提供するために、NTP(Network Time Protocol)形式のIPパケットを用いるものとする。

【0027】

[MMTを用いる放送システムの制御情報]

本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムでは、前述したように、制御情報として、IPパケットの多重のためのTLV多重化方式に関わるTLV-SIと、メディアトランスポート方式であるMMTに関わるMMT-SIを用意する。TLV-SIは、放送伝送路に多重化されたIPパケットを、放送受信装置100が多重解除するための情報を提供する。TLV-SIは、『テーブル』と『記述子』で構成される。『テーブル』はセクション形式で伝送され、『記述子』は『テーブル』内に配置されるものとする。MMT-SIは、MMTのパッケージの構成や放送サービスに関連する情報を示す伝送制御情報である。MMT-SIは、『テーブル』や『記述子』を格納する『メッセージ』、特定の情報を示す要素や属性を持つ『テーブル』、より詳細な情報を示す『記述子』の三階層で構成されるものとする。本実施例の放送システムで用いる制御情報の階層構成の一例を図4に示す。

【0028】

< TLV-SIで使用されるテーブル >

図5Aに、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムのTLV-SIで使用される『テーブル』の一覧を示す。本実施例では、TLV-SIの『テーブル』として以下に示すものが用いられるものとする。

【0029】

(1) TLV-NIT

TLV用ネットワーク情報テーブル(Network Information Table for TLV: TLV-NIT)は、ネットワークにより伝送されるTLVストリームの物理的構成に関する情報及びネットワーク自身の特性を表すものである。

【0030】

(2) AMT

アドレスマップテーブル(Address Map Table: AMT)は、ネットワークにおいて伝送される各サービスを構成するIPパケットのマルチキャストグループの一覧を提供する。

【0031】

(3) 事業者が設定するテーブル

その他、サービス事業者等が独自に設定したテーブルを用意することが可能である。

【0032】

< TLV-SIで使用される記述子 >

図5Bに、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムのTLV-SIに配置される『記述子』の一覧を示す。本実施例では、TLV-SIの『記述子』として以下に示すものが用いられるものとする。

【0033】

(1) サービスリスト記述子

サービスリスト記述子は、サービス識別とサービス形式種別によるサービスの一覧を提供する。

【0034】

(2) 衛星分配システム記述子

10

20

30

40

50

衛星分配システム記述子は、衛星伝送路の物理的条件を示す。

【0035】

(3) システム管理記述子

システム管理記述子は、放送と非放送を識別するために使用される。

【0036】

(4) ネットワーク名記述子

ネットワーク名記述子は、文字符号によりネットワーク名を記述する。

【0037】

(5) 事業者が設定する記述子

その他、サービス事業者等が独自に設定した記述子を用意することが可能である。

10

【0038】

< MMT - S I で使用されるメッセージ >

図6Aに、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムのMMT - S Iで
使用される『メッセージ』の一覧を示す。本実施例では、MMT - S Iの『メッセージ』と
して以下に示すものが用いられるものとする。

【0039】

(1) P Aメッセージ

P a c k a g e A c c e s s (P A)メッセージは、種々のテーブルを伝送するた
めに用いる。

【0040】

20

(2) M 2セクションメッセージ

M 2セクションメッセージは、M P E G - 2 S y s t e m sのセクション拡張形式を
伝送するために用いる。

【0041】

(3) C Aメッセージ

C Aメッセージは、限定受信方式の識別のためのテーブルを伝送するために用いる。

【0042】

(4) M 2短セクションメッセージ

M 2短セクションメッセージは、M P E G - 2 S y s t e m sのセクション短形式を
伝送するために用いる。

30

【0043】

(5) データ伝送メッセージ

データ伝送メッセージは、データ伝送に関するテーブルを格納するメッセージである。

【0044】

(6) 事業者が設定するメッセージ

その他、サービス事業者等が独自に設定したメッセージを用意することが可能である。

【0045】

< MMT - S I で使用されるテーブル >

図6Bに、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムのMMT - S Iで
使用される『テーブル』の一覧を示す。テーブルは、特定の情報を示す要素や属性を持つ制
御情報であり、メッセージに格納してMMT Pパケットで伝送するものとする。なお、テ
ーブルを格納するメッセージはテーブルに応じて決まっても良い。本実施例では、M
MT - S Iの『テーブル』として以下に示すものが用いられるものとする。

40

【0046】

(1) M P T

M M Tパッケージテーブル (M M T P a c k a g e T a b l e : M P T) は、アセ
ットのリストやアセットのネットワーク上の位置などのパッケージを構成する情報を与え
る。M P TはP Aメッセージに格納されて良い。

【0047】

(2) P L T

50

パッケージリストテーブル (Package List Table: PLT) は、放送サービスとして提供されるMMTパッケージのPAメッセージを伝送するIPデータフロー及びパケットID並びにIPサービスを伝送するIPデータフローの一覧を示す。PLTはPAメッセージに格納されて良い。

【0048】

(3) LCT

レイアウト設定テーブル (Layout Configuration Table: LCT) は、提示のためのレイアウト情報をレイアウト番号に対応付けるために用いる。LCTはPAメッセージに格納されて良い。

【0049】

(4) ECM

Entitlement Control Message (ECM) は、番組情報及び制御情報からなる共通情報であり、スクランブルを解除するための鍵情報などを配送する。ECMはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0050】

(5) EMM

Entitlement Management Message (EMM) は、加入者毎の契約情報やECM (共通情報) の暗号を解くための鍵情報などを含む個別情報を伝送する。EMMはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0051】

(6) CAT (MH)

CATテーブル (Conditional Access Table: CAT) (MH) は、限定受信方式の識別のための記述子を格納するために用いる。CAT (MH) はCAメッセージに格納されて良い。

【0052】

(7) DCM

Download Control Message (DCM) は、ダウンロードのための伝送路暗号を復号するための鍵などからなる鍵関連情報を伝送する。DCMはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0053】

(8) DMM

Download Management Message (DMM) は、DCMの暗号を解くためのダウンロード鍵などからなる鍵関連情報を伝送する。DMMはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0054】

(9) MH - EIT

MH - イベント情報テーブル (MH - Event Information Table: MH - EIT) は、各サービスに含まれるイベントに関する時系列情報である。MH - EITはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0055】

(10) MH - AIT

MH - アプリケーション情報テーブル (MH - Application Information Table: MH - AIT) は、アプリケーションに関する全ての情報及びアプリケーションに要求される起動状態等を格納する。MH - AITはM2セクションメッセージに格納されて良い。

【0056】

(11) MH - BIT

MH - ブロードキャスタ情報テーブル (MH - Broadcaster Information Table: MH - BIT) は、ネットワーク上に存在するブロードキャスタの情報を提示するために用いる。MH - BITはM2セクションメッセージに格納され

10

20

30

40

50

て良い。

【0057】

(12) MH - S D T T

MH - ソフトウェアダウンロードトリガテーブル (MH - Software Download Trigger Table : MH - S D T T) は、ダウンロードの告知情報のために用いる。MH - S D T T は M 2 セクションメッセージに格納されて良い。

【0058】

(13) MH - S D T

MH - サービス記述テーブル (MH - Service Description Table : MH - S D T) は、特定の T L V ストリームに含まれるサービスを表すサブテーブルを有し、編成チャンネルの名称、放送事業者の名称など、編成チャンネルに関する情報を伝送する。MH - S D T は M 2 セクションメッセージに格納されて良い。

10

【0059】

(14) MH - T O T

MH - タイムオフセットテーブル (MH - Time Offset Table : MH - T O T) は、J S T 時刻と日付 (修正ユリウス日) 情報を伝送する。MH - T O T は M 2 短セクションメッセージに格納されて良い。

【0060】

(15) MH - C D T

MH - 共通データテーブル (MH - Common Data Table : MH - C D T) は、これを受信する全ての受信機を対象として、不揮発性メモリに格納すべき共通データをセクション形式で伝送するために用いる。MH - C D T は M 2 セクションメッセージに格納されて良い。

20

【0061】

(16) D D M テーブル

データディレクトリ管理テーブル (Data Directory Management Table : D D M テーブル) は、アプリケーションのファイル構成とファイル伝送のための構成を分離するために、アプリケーションを構成するファイルのディレクトリ構成を提供する。D D M テーブルはデータ伝送メッセージに格納されて良い。

【0062】

(17) D A M テーブル

データアセット管理テーブル (Data Asset Management Table : D A M テーブル) は、アセット内の M P U の構成と M P U 毎のバージョン情報を提供する。D A M テーブルはデータ伝送メッセージに格納されて良い。

30

【0063】

(18) D C C テーブル

データコンテンツ管理テーブル (Data Content Configuration Table : D C C テーブル) は、柔軟で有効なキャッシュ制御を実現するため、データコンテンツとしてのファイルの構成情報を提供する。D C C テーブルはデータ伝送メッセージに格納されて良い。

40

【0064】

(19) E M T

イベントメッセージテーブル (Event Message Table : E M T) は、イベントメッセージに関する情報を伝送するために用いる。E M T は M 2 セクションメッセージに格納されて良い。

【0065】

(20) 事業者が設定するテーブル

その他、サービス事業者等が独自に設定したテーブルを用意することが可能である。

【0066】

< M M T - S I で使用される記述子 >

50

図 6 C 及び図 6 D に、本実施例の放送受信装置 100 が対応する放送システムの M M T - S I に配置される『記述子』の一覧を示す。記述子は、より詳細な情報を提供する制御情報であり、テーブルに配置されるものとする。なお、記述子を配置するテーブルは記述子に応じて決まっても良い。本実施例では、M M T - S I の『記述子』として以下に示すものが用いられるものとする。

【 0 0 6 7 】

(1) アセットグループ記述子

アセットグループ記述子は、アセットのグループ関係とグループ内での優先度を提供する。アセットグループ記述子は M P T に配置されて良い。

【 0 0 6 8 】

(2) イベントパッケージ記述子

イベントパッケージ記述子は、番組を表すイベントとパッケージの対応を提供する。イベントパッケージ記述子は M 2 セクションメッセージにて伝送される M H - E I T に配置されて良い。

【 0 0 6 9 】

(3) 背景色指定記述子

背景色指定記述子は、レイアウト指定における最背面の背景色を提供する。背景色指定記述子は L C T に配置されて良い。

【 0 0 7 0 】

(4) M P U 提示領域指定記述子

M P U 提示領域指定記述子は、M P U を提示する位置を提供する。M P U 提示領域指定記述子は M P T に配置されて良い。

【 0 0 7 1 】

(5) M P U タイムスタンプ記述子

M P U タイムスタンプ記述子は、M P U において提示順序で最初のアクセスユニットの提示時刻を示す。M P U タイムスタンプ記述子は M P T に配置されて良い。

【 0 0 7 2 】

(6) 依存関係記述子

依存関係記述子は、依存関係にあるアセットのアセット I D を提供する。依存関係記述子は M P T に配置されて良い。

【 0 0 7 3 】

(7) アクセス制御記述子

アクセス制御記述子は、限定受信方式を識別するための情報を提供する。アクセス制御記述子は M P T 又は C A T (M H) に配置されて良い。

【 0 0 7 4 】

(8) スクランブル方式記述子

スクランブル方式記述子は、スクランブル時の暗号化対象及び暗号アルゴリズムの種別を識別するための情報を提供する。スクランブル方式記述子は M P T 又は C A T (M H) に配置されて良い。

【 0 0 7 5 】

(9) メッセージ認証方式記述子

メッセージ認証方式記述子は、メッセージ認証を行う場合にメッセージ認証方式を識別するための情報を提供する。メッセージ認証方式記述子は M P T 又は C A T (M H) に配置されて良い。

【 0 0 7 6 】

(1 0) 緊急情報記述子 (M H)

緊急情報記述子 (M H) は、緊急警報放送を行う場合に用いる。緊急情報記述子 (M H) は M P T に配置されて良い。

【 0 0 7 7 】

(1 1) M H - M P E G - 4 オーディオ記述子

10

20

30

40

50

MH-MPEG-4オーディオ記述子は、ISO/IEC 14496-3 (MPEG-4オーディオ)のオーディオストリームの符号化パラメータを特定するための基本情報を記述するために用いる。MH-MPEG-4オーディオ記述子はMPTに配置されている。

【0078】

(12) MH-MPEG-4オーディオ拡張記述子

MH-MPEG-4オーディオ拡張記述子は、MPEG-4オーディオストリームのプロファイルとレベル及び符号化方式固有の設定を記述するために用いる。MH-MPEG-4オーディオ拡張記述子はMPTに配置されている。

【0079】

(13) MH-HEVCビデオ記述子

MH-HEVCビデオ記述子は、ITU-T勧告H.265 | ISO/IEC 23008-2の映像ストリーム(HEVCストリーム)の基本的な符号化パラメータを記述するために用いる。MH-HEVCビデオ記述子はMPTに配置されている。

【0080】

(14) MH-リンク記述子

MH-リンク記述子は、番組配列情報システムに記載されているある特定のものに関連した追加情報を視聴者が要求した場合に提供されるサービスを識別する。MH-リンク記述子は、MPT、MH-EIT、MH-SDT、等に配置されている。

【0081】

(15) MH-イベントグループ記述子

MH-イベントグループ記述子は、複数のイベント間に関係がある場合にそれらのイベント群がグループ化されていることを示すために用いる。MH-イベントグループ記述子はMH-EITに配置されている。

【0082】

(16) MH-サービスリスト記述子

MH-サービスリスト記述子は、サービス識別とサービス形式種別によるサービスの一覧を提供する。MH-サービスリスト記述子はMH-BITに配置されている。

【0083】

(17) MH-短形式イベント記述子

MH-短形式イベント記述子は、イベント名及びそのイベントの短い記述をテキスト形式で表す。MH-短形式イベント記述子はMH-EITに配置されている。

【0084】

(18) MH-拡張形式イベント記述子

MH-拡張形式イベント記述子は、MH-短形式イベント記述子に付け加えて使用され、イベントの詳細記述を提供する。MH-拡張形式イベント記述子はMH-EITに配置されている。

【0085】

(19) 映像コンポーネント記述子

映像コンポーネント記述子は、映像コンポーネントに関するパラメータや説明を示し、エレメンタリストリームを文字形式で表現するためにも利用される。映像コンポーネント記述子はMPT又はMH-EITに配置されている。

【0086】

(20) MH-ストリーム識別記述子

MH-ストリーム識別記述子は、サービスのコンポーネントストリームにラベルを付け、このラベルによってMH-EIT内の映像コンポーネント記述子で示される記述内容を参照できるように使用する。MH-ストリーム識別記述子はMPTに配置されている。

【0087】

(21) MH-コンテンツ記述子

MH-コンテンツ記述子は、イベントのジャンルを示す。MH-コンテンツ記述子はM

10

20

30

40

50

H - E I T に配置されて良い。

【 0 0 8 8 】

(2 2) M H - パレンタルレート記述子

M H - パレンタルレート記述子は、年齢に基づいた視聴制限を表し、また、他の制限条件に基づくよう拡張するために用いる。M H - パレンタルレート記述子は M P T 又は M H - E I T に配置されて良い。

【 0 0 8 9 】

(2 3) M H - 音声コンポーネント記述子

M H - 音声コンポーネント記述子は、音声エレメンタリストリームの各パラメータを示し、エレメンタリストリームを文字形式で表現するためにも利用される。M H - 音声コンポーネント記述子は M P T 又は M H - E I T に配置されて良い。

10

【 0 0 9 0 】

(2 4) M H - 対象地域記述子

M H - 対象地域記述子は、番組又は番組を構成する一部のストリームが対象とする地域を記述するために使用される。M H - 対象地域記述子は M P T に配置されて良い。

【 0 0 9 1 】

(2 5) M H - シリーズ記述子

M H - シリーズ記述子は、シリーズ番組を識別するために用いる。M H - シリーズ記述子は M H - E I T に配置されて良い。

【 0 0 9 2 】

(2 6) M H - S I 伝送パラメータ記述子

M H - S I 伝送パラメータ記述子は、S I の伝送パラメータを示すために用いる。M H - S I 伝送パラメータ記述子は M H - B I T に配置されて良い。

20

【 0 0 9 3 】

(2 7) M H - ブロードキャスト名記述子

M H - ブロードキャスト名記述子は、ブロードキャストの名称を記述する。M H - ブロードキャスト名記述子は M H - B I T に配置されて良い。

【 0 0 9 4 】

(2 8) M H - サービス記述子

M H - サービス記述子は、編成チャンネル名とその事業者名をサービス形式種別と共に文字符号で表す。M H - サービス記述子は M H - S D T に配置されて良い。

30

【 0 0 9 5 】

(2 9) I P データフロー記述子

I P データフロー記述子は、サービスを構成する I P データフローの情報を提供する。I P データフロー記述子は M H - S D T に配置されて良い。

【 0 0 9 6 】

(3 0) M H - C A 起動記述子

M H - C A 起動記述子は、C A S 基盤上の C A S プログラムを起動するための起動情報を記載する。M H - C A 起動記述子は M P T 又は C A T (C A) に配置されて良い。

【 0 0 9 7 】

(3 1) M H - T y p e 記述子

M H - T y p e 記述子は、アプリケーション伝送方式で伝送されるファイルの型を示す。M H - T y p e 記述子は D A M テーブルに配置されて良い。

40

【 0 0 9 8 】

(3 2) M H - I n f o 記述子

M H - I n f o 記述子は、M P U 又はアイテムに関する情報を記述する。M H - I n f o 記述子は D A M テーブルに配置されて良い。

【 0 0 9 9 】

(3 3) M H - E x p i r e 記述子

M H - E x p i r e 記述子は、アイテムの有効期限を記述する。M H - E x p i r e 記

50

述子はDAMテーブルに配置されて良い。

【0100】

(34) MH - Compression Type 記述子

MH - Compression Type 記述子は、伝送するアイテムが圧縮されていることを意味し、その圧縮アルゴリズムと圧縮前のアイテムのバイト数を示す。MH - Compression Type 記述子はDAMテーブルに配置されて良い。

【0101】

(35) MH - データ符号化方式記述子

MH - データ符号化方式記述子は、データ符号化方式を識別するために使用される。MH - データ符号化方式記述子はMPTに配置されて良い。

10

【0102】

(36) UTC - NPT 参照記述子

UTC - NPT 参照記述子は、NPT (Normal Play Time) とUTC の関係を伝達するために用いる。UTC - NPT 参照記述子はEMTに配置されて良い。

【0103】

(37) イベントメッセージ記述子

イベントメッセージ記述子は、イベントメッセージ一般に関する情報を伝達する。イベントメッセージ記述子はEMTに配置されて良い。

【0104】

(38) MH - ローカル時間オフセット記述子

MH - ローカル時間オフセット記述子は、サマータイム実施時に実際の時刻（例えば、UTC + 9 時間）と人間系への表示時刻に一定のオフセット値を持たせるときに用いる。MH - ローカル時間オフセット記述子はMH - TOTに配置されて良い。

20

【0105】

(39) MH - コンポーネントグループ記述子

MH - コンポーネントグループ記述子は、イベント内のコンポーネントの組み合わせを定義して識別する。MH - コンポーネントグループ記述子はMH - EITに配置されて良い。

【0106】

(40) MH - ロゴ伝送記述子

MH - ロゴ伝送記述子は、簡易ロゴ用文字列、CDT形式のロゴへのポインティングなどを記述するために用いる。MH - ロゴ伝送記述子はMH - SDTに配置されて良い。

30

【0107】

(41) MPU 拡張タイムスタンプ記述子

MPU 拡張タイムスタンプ記述子は、MPU内のアクセスユニットの復号時刻を提供する。MPU 拡張タイムスタンプ記述子はMPTに配置されて良い。

【0108】

(42) MPU ダウンロードコンテンツ記述子

MPU ダウンロードコンテンツ記述子は、MPUを用いてダウンロードされるコンテンツの属性情報を記述するために用いる。MPUダウンロードコンテンツ記述子はMH - SDTTに配置されて良い。

40

【0109】

(43) MH - ネットワークダウンロードコンテンツ記述子

MH - ネットワークダウンロードコンテンツ記述子は、ネットワークを用いてダウンロードされるコンテンツの属性情報を記述するために用いる。MH - ネットワークダウンロードコンテンツ記述子はMH - SDTTに配置されて良い。

【0110】

(44) MH - アプリケーション記述子

MH - アプリケーション記述子は、アプリケーションの情報を記述する。MH - アプリケーション記述子はMH - AITに配置されて良い。

50

【 0 1 1 1 】

(4 5) M H - 伝送プロトコル記述子

M H - 伝送プロトコル記述子は、放送や通信等の伝送プロトコルの指定と伝送プロトコルに依存したアプリケーションのロケーション情報を示すために用いる。M H - 伝送プロトコル記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

【 0 1 1 2 】

(4 6) M H - 簡易アプリケーションロケーション記述子

M H - 簡易アプリケーションロケーション記述子は、アプリケーションの取得先の詳細を指示するために記述する。M H - 簡易アプリケーションロケーション記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

10

【 0 1 1 3 】

(4 7) M H - アプリケーション境界権限設定記述子

M H - アプリケーション境界権限設定記述子は、アプリケーションバウンダリを設定し、かつ領域 (U R L) 毎に放送リソースアクセスの権限を設定するために記述する。M H - アプリケーション境界権限設定記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

【 0 1 1 4 】

(4 8) M H - 起動優先情報記述子

M H - 起動優先情報記述子は、アプリケーションの起動優先度を指定するために記述する。M H - 起動優先情報記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

【 0 1 1 5 】

(4 9) M H - キャッシュ情報記述子

M H - キャッシュ情報記述子は、アプリケーションの再利用が想定される場合に、アプリケーションを構成するリソースをキャッシュし保持しておく場合のキャッシュ制御に用いるために記述する。M H - キャッシュ情報記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

20

【 0 1 1 6 】

(5 0) M H - 確率的適用遅延記述子

M H - 確率的適用遅延記述子は、アプリケーション取得のサーバアクセスの負荷分散を想定して、アプリケーション制御を行うタイミングを確率的に設定した遅延量だけ遅らせるために記述する。M H - 確率的適用遅延記述子はM H - A I Tに配置されて良い。

【 0 1 1 7 】

(5 1) リンク先 P U 記述子

リンク先 P U 記述子は、当該プレゼンテーションユニット (P U) から遷移する可能性のある他のプレゼンテーションユニットを記述する。リンク先 P U 記述子はD C Cテーブルに配置されて良い。

30

【 0 1 1 8 】

(5 2) ロックキャッシュ指定記述子

ロックキャッシュ指定記述子は、当該プレゼンテーションユニットにおいてキャッシュし、かつロックする対象のファイルの指定を記述する。ロックキャッシュ指定記述子はD C Cテーブルに配置されて良い。

【 0 1 1 9 】

(5 3) アンロックキャッシュ指定記述子

アンロックキャッシュ指定記述子は、当該プレゼンテーションユニットにおいてロックされているファイルのうちのアンロックするファイルの指定を記述する。アンロックキャッシュ指定記述子はD C Cテーブルに配置されて良い。

40

【 0 1 2 0 】

(5 4) 事業者が設定する記述子

その他、サービス事業者等が独自に設定した記述子を用意することが可能である。

【 0 1 2 1 】

< M M T 方式におけるデータ伝送と各制御情報の関係 >

ここで、図 6 E を用いて、本実施例の放送受信装置 1 0 0 が対応する放送システムにお

50

けるデータ伝送と代表的なテーブルの関係について説明する。

【0122】

本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムでは、放送伝送路を介したTLVストリームや通信回線を介したIPデータフロー等、複数の経路でデータ伝送を行うことができる。TLVストリームには、TLV-NITやAMTなどのTLV-SIと、IPパケットのデータフローであるIPデータフローが含まれている。IPデータフロー内には一連の映像MPUを含む映像アセットや一連の音声MPUを含む音声アセットが含まれている。同様に、IPデータフロー内には一連の字幕MPUを含む字幕アセット、一連の文字スーパーMPUを含む文字スーパーアセット、一連のデータMPUを含むデータアセットなどが含まれても良い。これらの各種アセットは、PAメッセージに格納されて伝送されるMPT(MMTパッケージテーブル)により、『パッケージ』という単位で関連付けられる。具体的には、MPTにパッケージID(後述の図17に示す『MMT_package_id_byte』パラメータに対応)と、当該パッケージに含まれる各アセットのアセットID(後述の図17に示す『asset_id_byte』パラメータに対応)とが記載されることにより、前記関連付けが行われる。

10

【0123】

パッケージを構成するアセットはTLVストリーム内のアセットのみとすることもできるが、図6Eに示すように、通信回線のIPデータフローで伝送されるアセットを含めることもできる。これは、当該パッケージに含まれる各アセットのロケーション情報(後述の図17に示す『MMT_general_location_info()』に対応)をMPT内に含めて、本実施例の放送受信装置100が各アセットの参照先を把握可能とすることにより実現できる。具体的には、前記ロケーション情報に配置される『MMT_general_location_info_no_location_type』パラメータの値を変更することにより、

20

(1) MPTと同一のIPデータフローに多重されているデータ

(location_type = 0x00)

(2) IPv4データフローに多重されているデータ

(location_type = 0x01)

(3) IPv6データフローに多重されているデータ

(location_type = 0x02)

(4) 放送のMPEG2-TSに多重されているデータ

(location_type = 0x03)

(5) IPデータフロー内にMPEG2-TS形式で多重されているデータ

(location_type = 0x04)

(6) 指定するURLにあるデータ

(location_type = 0x05)

など、様々な伝送経路で伝送される各種データを、放送受信装置100が参照できるように構成することが可能となる。

30

【0124】

前述の参照先のうち、(1)は、例えば、後述する図7Aの放送受信装置100のチューナ/復調部131で受信するデジタル放送信号を經由して受信するIPデータフローである。MPTを通信回線側のIPデータフローにも含めて伝送する場合は、(1)の参照先が後述するLAN通信部121が通信回線を介して受信するIPデータフローになる場合もある。また、前記(2)、(3)、(5)、(6)は後述するLAN通信部121が通信回線を介して受信するIPデータフローである。また、前記(4)は、例えば、後述する図24に示す実施例2の放送受信装置800のように、MMT方式を用いるデジタル放送信号を受信する受信機能と、MPEG2-TS方式を用いるデジタル放送信号を受信する受信機能の両者を有する放送受信装置の場合に、MMT方式を用いるデジタル放送信号に含まれるMPTのロケーション情報(『MMT_general_location_info()』)に基づいて、MPEG2-TS方式を用いるデジタル放送信号を受信

40

50

する受信機能で受信するMPEG2-TSに多重されているデータを参照する場合に用いることができる。

【0125】

なお、『パッケージ』を構成するデータはこのように指定されるが、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムでは、当該『パッケージ』単位の一連のデータをデジタル放送の『サービス』単位として扱う。

【0126】

更に、MPTには、MPTが指定する各MPUの提示時刻情報（後述の図13Bに示す『mpu_presentation_time』パラメータに対応）が記載されており、当該提示時刻情報を用いて、MPTが指定する複数のMPUを、UTC表記の時刻情報であるNTPに基づくクロックを基準に、連動して提示（表示、出力など）することが可能となる。当該NTPに基づくクロックを用いた各種データの提示制御については後述する。

10

【0127】

図6Eに示される本実施例のデータ伝送方式では、更に『イベント』という概念がある。『イベント』は、M2セクションメッセージに含められて送られるMH-EITが扱う、いわゆる『番組』を示す概念である。具体的には、MH-EITに格納されたイベントパッケージ記述子が指し示す『パッケージ』において、MH-EITに格納された開示時刻（後述の図21に示す『start_time』パラメータに対応）から、継続時間（後述の図21に示す『duration』パラメータに対応）分の期間に含まれる一連のデータが、当該『イベント』の概念に含まれるデータである。MH-EITは、本実施例の放送受信装置100において当該『イベント』単位での各種処理（例えば、番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理）などに用いることができる。

20

【0128】

[放送受信装置のハードウェア構成]

図7Aは、放送受信装置100の内部構成の一例を示すブロック図である。放送受信装置100は、主制御部101、システムバス102、ROM103、RAM104、ストレージ（蓄積）部110、LAN通信部121、拡張インタフェース部124、デジタルインタフェース部125、チューナ/復調部131、分離部132、映像デコーダ141、映像色域変換部142、音声デコーダ143、文字スーパーデコーダ144、字幕デコーダ145、字幕合成部146、字幕色域変換部147、データデコーダ151、キャッシュ部152、アプリケーション制御部153、ブラウザ部154、アプリケーション色域変換部155、音源部156、映像合成部161、モニタ部162、映像出力部163、音声合成部164、スピーカ部165、音声出力部166、操作入力部170、で構成される。

30

【0129】

主制御部101は、所定の動作プログラムに従って放送受信装置100全体を制御するマイクロプロセッサユニットである。システムバス102は主制御部101と放送受信装置100内の各動作ブロックとの間でデータ送受信を行うためのデータ通信路である。

40

【0130】

ROM(Read Only Memory)103は、オペレーティングシステムなどの基本動作プログラムやその他の動作プログラムが格納された不揮発性メモリであり、例えば、EEPROM(Electrically Erasable Programmable ROM)やフラッシュROMのような書き換え可能なROMが用いられる。ROM103には、放送受信装置100の動作に必要な動作設定値が記憶されても良い。RAM(Random Access Memory)104は基本動作プログラムやその他の動作プログラム実行時のワークエリアとなる。ROM103及びRAM104は主制御部101と一体構成であっても良い。また、ROM103は、図7Aに示したような独立構成とはせず、ストレージ（蓄積）部110内の一部記憶領域を使用するようにして

50

も良い。

【0131】

ストレージ(蓄積)部110は、放送受信装置100の動作プログラムや動作設定値、放送受信装置100のユーザの個人情報等を記憶する。また、インターネット200を介してダウンロードした動作プログラムや前記動作プログラムで作成した各種データ等を記憶可能である。また、放送波から取得した、或いは、インターネット200を介してダウンロードした、動画、静止画、音声等のコンテンツも記憶可能である。ストレージ(蓄積)部110の一部領域を以ってROM103の機能の全部又は一部を代替しても良い。また、ストレージ(蓄積)部110は、放送受信装置100に外部から電源が供給されていない状態であっても記憶している情報を保持する必要がある。従って、例えば、フラッシュROMやSSD(Solid State Drive)などの不揮発性半導体素子メモリ、HDD(Hard Disc Drive)などの磁気ディスクドライブ、等のデバイスが用いられる。

10

【0132】

なお、ROM103やストレージ(蓄積)部110に記憶された前記各動作プログラムは、インターネット200上の各サーバ装置からのダウンロード処理により、追加、更新及び機能拡張することが可能であるものとする。

【0133】

LAN(Local Area Network)通信部121は、ルータ装置200rを介してインターネット200と接続され、インターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器とデータの送受信を行う。また、通信回線を介して伝送される番組のMMTデータ列(或いは、その一部)の取得も行うものとする。ルータ装置200rとの接続は有線接続であっても良いし、Wi-Fi(登録商標)等の無線接続であっても良い。LAN通信部121は符号回路や復号回路等を備えるものとする。また、放送受信装置100が、Bluetooth(登録商標)通信部やNFC通信部、赤外線通信部等、他の通信部を更に備えていても良い。

20

【0134】

チューナ/復調部131は、アンテナ100aを介して電波塔300tから送信された放送波を受信し、主制御部101の制御に基づいてユーザの所望するサービスのチャンネルに同調(選局)する。更に、チューナ/復調部131は、受信した放送信号を復調してMMTデータ列を取得する。なお、図7Aに示した例では、チューナ/復調部が1つである構成を例示しているが、複数画面同時表示や裏番組録画等を目的として、放送受信装置100がチューナ/復調部を複数搭載する構成としても良い。

30

【0135】

分離部132はMMTデコーダであり、入力したMMTデータ列中の制御信号に基づいてリアルタイム提示要素である映像データ列、音声データ列、文字スーパーデータ列、字幕データ列、等を、それぞれ映像デコーダ141、音声デコーダ143、文字スーパーデコーダ144、字幕デコーダ145、等に分配する。分離部132に入力されるデータは、放送伝送路を介して伝送されてチューナ/復調部131で復調されたMMTデータ列や、通信回線を介して伝送されてLAN通信部121で受信したMMTデータ列であっても良い。また、分離部132は、マルチメディアアプリケーションやその構成要素であるファイル系データを再生し、キャッシュ部152で一時的に蓄積する。また、分離部132は、映像音声字幕以外のデータの提示を行うプレーヤで利用するデータ若しくはアプリケーションに対するデータのストリーミングに用いるために、汎用データを抽出してデータデコーダ151に出力する。また、分離部132は、主制御部101の制御に基づいて、前記入力したMMTデータ列に対するエラー訂正やアクセス制限の制御等を行っても良い。

40

【0136】

映像デコーダ141は、分離部132から入力した映像データ列を復号して映像情報を出力する。映像色域変換部142は、映像デコーダ141で復号した映像情報に対して、映像合成部161での映像合成処理のために、必要に応じて色空間変換処理を施す。音声

50

デコーダ 143 は、分離部 132 から入力した音声データ列を復号して音声情報を出力する。また、映像デコーダ 141 及び音声デコーダ 143 には、LAN 通信部 121 を介してインターネット 200 上から取得した、例えば、MPEG-DASH (MPEG-Dynamic Adaptive Streaming over HTTP) 形式等のストリーミングデータが入力されても良い。また、映像デコーダ 141、映像色域変換部 142、音声デコーダ 143、等は、複数種類の映像データ列や音声データ列を同時に復号処理するために、複数備えられても良い。

【0137】

文字スーパーデコーダ 144 は、分離部 132 から入力した文字スーパーデータ列を復号して文字スーパー情報を出力する。字幕デコーダ 145 は、分離部 132 から入力した字幕データ列を復号して字幕情報を出力する。文字スーパーデコーダ 144 から出力された文字スーパー情報と字幕デコーダ 145 から出力された字幕情報は、字幕合成部 146 において合成処理を施され、更に、字幕色域変換部 147 において、映像合成部 161 での映像合成処理のために、必要に応じて色空間変換処理を施される。なお、本実施例においては、放送番組の映像と同時に提示される、文字情報を中心とするサービスのうち、映像の内容と関連するものを字幕と呼称し、それ以外のものを文字スーパーと呼称する。また、それらを区別しない場合は、字幕と総称するものとする。

【0138】

ブラウザ部 154 は、キャッシュ部 152 若しくは LAN 通信部 121 を介してインターネット 200 上のサーバ装置から取得したマルチメディアアプリケーションファイルやその構成要素であるファイル系データを、MMT データ列に含まれる制御情報や LAN 通信部 121 を介してインターネット 200 上のサーバ装置から取得した制御情報を解釈するアプリケーション制御部 153 の指示に従って提示する。なお、前記マルチメディアアプリケーションファイルは、HTML (Hyper Text Markup Language) 文書や BML (Broadcast Markup Language) 文書等であって良い。ブラウザ部 154 から出力されたアプリケーション情報は、更に、アプリケーション色域変換部 155 において、映像合成部 161 での映像合成処理のために、必要に応じて色空間変換処理を施される。また、ブラウザ部 154 は、音源部 156 に働きかけることにより、アプリケーション音声情報の再生も行うものとする。

【0139】

映像合成部 161 は、映像色域変換部 142 から出力された映像情報と字幕色域変換部 147 から出力された字幕情報とアプリケーション色域変換部 155 から出力されたアプリケーション情報等を入力し、適宜選択及び/又は重畳等の処理を行う。映像合成部 161 は図示を省略したビデオ RAM を備え、前記ビデオ RAM に入力された映像情報等に基づいてモニタ部 162 等が駆動される。また、映像合成部 161 は、主制御部 101 の制御に基づいて、必要に応じて、スケーリング処理や MMT-SI に含まれる MH-EIT 等の情報に基づいて作成された EPG (Electronic Program Guide) 画面情報の重畳処理等を行う。モニタ部 162 は、例えば、液晶パネル等の表示デバイスであり、映像合成部 161 で選択及び/又は重畳処理を施された映像情報を放送受信装置 100 のユーザに提供する。映像出力部 163 は、映像合成部 161 で選択及び/又は重畳処理を施された映像情報を出力する映像出力インタフェースである。

【0140】

なお、本実施例の放送受信装置 100 の提示機能は、マルチメディアサービスを提供者の意図通りに表示させるために、論理的プレーン構造を備えるものとする。図 7B に、本実施例の放送受信装置 100 の提示機能が備える論理的プレーン構造の構成の一例を示す。前記論理的プレーン構造では、最前面に文字スーパーの表示を行う文字スーパープレーンを配置し、次層に字幕の表示を行う字幕プレーンを配置する。三層目に放送映像やマルチメディアアプリケーション、又はその合成映像の表示を行うマルチメディアプレーンを配置し、最背面に背景プレーンを配置する。字幕合成部 146 及び映像合成部 161 において、文字スーパー情報の文字スーパープレーンへの描画、字幕情報の字幕プレーンへの

10

20

30

40

50

描画、映像情報やアプリケーション情報等のマルチメディアプレーンへの描画が行われる。また、MMT-SIに含まれるLCI等に基づいて背景色が背景プレーンに描画される。なお、三層目のマルチメディアプレーンは、映像デコーダ141の数に応じて複数用意することが可能であるものとする。ただし、マルチメディアプレーンが複数ある場合でも、アプリケーション色域変換部155から出力されたアプリケーション情報等は、最前面のマルチメディアプレーンにのみ出力されるものとする。

【0141】

音声合成部164は、音声デコーダ143から出力された音声情報及び音源部156で再生されたアプリケーション音声情報を入力して、適宜選択及び/又はミックス等の処理を行う。スピーカ部165は、音声合成部164で選択及び/又はミックス処理を施された音声情報を放送受信装置100のユーザに提供する。音声出力部166は、音声合成部164で選択及び/又はミックス処理を施された音声情報を出力する音声出力インターフェースである。

10

【0142】

拡張インターフェース部124は、放送受信装置100の機能を拡張するためのインターフェース群であり、本実施例では、アナログ映像/音声インターフェース、USB(Universal Serial Bus)インターフェース、メモリインターフェース等で構成されるものとする。アナログ映像/音声インターフェースは、外部映像/音声出力機器からのアナログ映像信号/音声信号の入力、外部映像/音声入力機器へのアナログ映像信号/音声信号の出力、等を行う。USBインターフェースは、PC等と接続してデータの送受信を行う。HDDを接続して放送番組やコンテンツの記録を行っても良い。また、キーボードやその他のUSB機器の接続を行っても良い。メモリインターフェースはメモリカードやその他のメモリ媒体を接続してデータの送受信を行う。

20

【0143】

デジタルインターフェース部125は、符号化されたデジタル映像データ及び/又はデジタル音声データを出力若しくは入力するインターフェースである。デジタルインターフェース部125は、チューナ/復調部131で復調して得たMMTデータ列やLAN通信部121を介して取得したMMTデータ列、或いは、前記各MMTデータ列の混合データをそのまま出力可能であるものとする。また、デジタルインターフェース部125から入力したMMTデータ列を分離部132に入力するように制御しても良い。ストレージ(蓄積)部110に記憶したデジタルコンテンツの出力、或いは、ストレージ(蓄積)部110へのデジタルコンテンツの記憶を、デジタルインターフェース部125を介して行っても良い。

30

【0144】

デジタルインターフェース部125は、DVI端子やHDMI(登録商標)端子やDisplay Port(登録商標)端子等であって、DVI仕様やHDMI仕様やDisplay Port仕様等に準拠した形式でデータの出力或いは入力が行なわれるものであって良い。IEEE1394仕様等に準拠したシリアルデータの形式で出力或いは入力されても良い。また、イーサネット(登録商標)や無線LAN等のハードウェアを介してデジタルインターフェース出力を行うIPインターフェースとして構成しても良い。この場合、デジタルインターフェース部125とLAN通信部121とはそのハードウェア構成を共有しても良い。

40

【0145】

操作入力部170は、放送受信装置100に対する操作指示の入力を行う指示入力部であり、本実施例では、図示を省略したリモコンから送信されるコマンドを受信するリモコン受信部とボタンスイッチを並べた操作キーで構成されるものとする。何れか一方のみであっても良い。また、操作入力部170は、モニタ部162に重ねて配したタッチパネルで代替しても良い。拡張インターフェース部124に接続したキーボード等で代替しても良い。前記図示を省略したリモコンは、リモコンコマンド送信機能を備えた携帯情報端末700で代替しても良い。

【0146】

50

なお、前述のように、放送受信装置100がテレビ受信機等である場合、映像出力部163及び音声出力部166は本発明に必須の構成ではない。また、放送受信装置100は、テレビ受信機その他、DVD(Digital Versatile Disc)レコーダなどの光ディスクドライブレコーダ、HDDレコーダなどの磁気ディスクドライブレコーダ、STB(Set Top Box)等であっても良い。デジタル放送受信機能や放送通信連携機能を備えたPC(Personal Computer)やタブレット端末、ナビゲーション装置、ゲーム機等であっても良い。放送受信装置100がDVDレコーダ、HDDレコーダ、STB等である場合、モニタ部162及びスピーカ部165は備えなくとも良い。映像出力部163及び音声出力部166或いはデジタルインタフェース部125に、外部モニタ及び外部スピーカを接続することにより、本実施例の放送受信装置100と同様の動作が可能となる。

10

【0147】

[放送受信装置のクロック同期/提示同期のシステム構成]

図7Cは、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムにおけるクロック同期/提示同期のシステム構成の一例である。本実施例の放送システムでは、UTCを64ビット長のNTPタイムスタンプ形式で、放送送出システムから受信機(本実施例の放送受信装置100等)に伝送する。前記NTPタイムスタンプ形式においては、UTCの『秒以上』を32ビットで表し、また、『秒未満』を32ビットで表すものとする。しかしながら、実際には、1秒を32ビット精度で再現することは困難である。このため、映像システムの同期をとるためのシステムクロックやNTP形式の時計を動作させるためのシステムクロックとしては、例えば、同図に示したような、『2の24乗』Hz(約16.8MHz)の周波数を用いるようにしても良い。なお、従来の放送システムにおけるシステムクロックが27MHzであったこと及び受信機のハードウェア構成を簡便に構築できること等を考慮すると、『2の24乗』~『2の28乗』程度の、2のべき乗の周波数をシステムクロックとして採用することが望ましい。

20

【0148】

なお、放送送出システム側や受信機側において、システムクロックを前述のように『2の24乗』~『2の28乗』程度の2のべき乗の周波数に設定した場合、放送送出システム側から受信機側に伝送されるNTPタイムスタンプ形式における、前記システムクロックやNTP形式の時計を再生するためのPLL(Phase Locked Loop)系に参照されない下位の8~4ビットは、『0』或いは『1』に固定するようにしても良い。即ち、システムクロックが『2のn乗』Hz(図7Cの例では、 $n=24$)であれば、NTPタイムスタンプ形式の下位『32-n』ビットを『0』或いは『1』に固定するようにしても良い。或いは、受信機側において、前記NTPタイムスタンプ形式の下位『32-n』ビットを無視するように処理しても良い。

30

【0149】

放送送出システム側では、NTP形式の時刻情報を外部から得ると、『2のn乗』HzのVCO(Voltage Controlled Oscillator)による32+nビットカウンタでPLL系を構成し、外部から与えられた時刻情報に同期する送出システム時計を実現する。また、『2のn乗』Hzのシステムクロックに同期して全体の信号処理系を動作させる。更に、前記送出システム時計の出力をNTP長形式の時刻情報として放送伝送路を介して受信機側に周期的に伝送する。

40

【0150】

受信機側では、放送伝送路を介してNTP長形式の時刻情報を受信し、放送送出システム側と同様に、『2のn乗』HzのVCOに基づくPLL系により受信システム時計を再生する。これにより、受信システム時計は、放送送出システム側と同期した時計となる。また、『2のn乗』Hzのシステムクロックに同期して受信機の信号処理系を動作させることにより、放送送出システム側と受信機側のクロック同期が実現され、安定した信号再生が可能となる。また、映像/音声信号の提示単位毎の復号時刻及び提示時刻が、放送送出システム側において、前記NTP形式の時刻情報に基づいて設定される。ここで、放送

50

信号で伝送される P A メッセージに格納される M P T には後述の図 1 3 B に示す M P U タイムスタンプ記述子が格納されている。図 1 3 B の M P U タイムスタンプ記述子における『mpu__sequence__number (M P U シーケンス番号) 』パラメータがタイムスタンプを記述する M P U のシーケンス番号を示し、『mpu__presentation__time (M P U 提示時刻) 』パラメータが M P U の提示時刻を 6 4 ビットの N T P タイムスタンプ形式で示している。よって、受信機は M P T に格納される M P U タイムスタンプ記述子を参照し、映像信号、音声信号、字幕、文字スーパー等の M P U 毎の提示 (表示、出力など) タイミングを制御することが可能である。

【 0 1 5 1 】

なお、前述の映像 / 音声信号等の提示単位毎の復号タイミング及び提示タイミングの制御に着目した場合、『2 の 1 6 乗』 H z (約 6 5 . 5 K H z) 程度のクロックによっても映像 / 音声信号の同期は確保可能であり、この場合は、M P U タイムスタンプ記述子等に記述される N T P タイムスタンプ形式の下位 1 6 ビットは参照しなくとも良い。即ち、復号タイミング及び提示タイミングの制御にシステムクロックの分周等により生成した『2 の m 乗』 H z のクロックを用いた場合は、M P U タイムスタンプ記述子等に記述される N T P タイムスタンプ形式の下位『3 2 - m』ビットは参照しなくとも良い。従って、M P U タイムスタンプ記述子等に記述される N T P タイムスタンプ形式の下位『3 2 - m』ビットは『0』或いは『1』に固定するようにしても良い。

【 0 1 5 2 】

[放送受信装置のソフトウェア構成]

図 7 D は、本実施例の放送受信装置 1 0 0 のソフトウェア構成図であり、R O M 1 0 3、R A M 1 0 4 及びストレージ (蓄積) 部 1 1 0 におけるソフトウェアの構成を示す。本実施例においては、R O M 1 0 3 に基本動作プログラム 1 0 0 1 及びその他の動作プログラムが記憶されており、ストレージ (蓄積) 部 1 1 0 に受信機能プログラム 1 0 0 2 及びその他の動作プログラムが記憶されている。また、ストレージ (蓄積) 部 1 1 0 は、動画や静止画や音声等のコンテンツを記憶するコンテンツ記憶領域 1 2 0 0、外部の携帯端末機器や各サーバ装置にアクセスする際に必要な認証情報等を記憶する認証情報記憶領域 1 3 0 0、その他の各種情報を記憶する各種情報記憶領域を備えるものとする。

【 0 1 5 3 】

R O M 1 0 3 に記憶された基本動作プログラム 1 0 0 1 は R A M 1 0 4 に展開され、更に主制御部 1 0 1 が前記展開された基本動作プログラムを実行することにより、基本動作実行部 1 1 0 1 を構成する。また、ストレージ (蓄積) 部 1 1 0 に記憶された受信機能プログラム 1 0 0 2 も同様に R A M 1 0 4 に展開され、更に主制御部 1 0 1 が前記展開された受信機能プログラムを実行することにより、受信機能実行部 1 1 0 2 を構成する。また、R A M 1 0 4 は、各動作プログラム実行時に作成したデータを、必要に応じて一時的に保持する一時記憶領域を備えるものとする。

【 0 1 5 4 】

なお、以下では、説明を簡単にするために、主制御部 1 0 1 が R O M 1 0 3 に格納された基本動作プログラム 1 0 0 1 を R A M 1 0 4 に展開して実行することにより各動作ブロックの制御を行う処理を、基本動作実行部 1 1 0 1 が各動作ブロックの制御を行うものとして記述する。他の動作プログラムに関しても同様の記述を行う。

【 0 1 5 5 】

受信機能実行部 1 1 0 2 は、本実施例の放送システムで伝送される映像や音声等のコンポーネントを再生するために放送受信装置 1 0 0 の各動作ブロックを制御する。特に、トランスポート処理部 1 1 0 2 a は、分離部 1 3 2 の M M T デコーダ機能を主として制御し、M M T データ列から分離した映像データ列や音声データ列等をそれぞれ対応するデコード処理部に分配する。A V デコード処理部 1 1 0 2 b は、映像デコーダ 1 4 1 や音声デコーダ 1 4 3 等を主として制御する。アプリケーション処理部 1 1 0 2 c は、キャッシュ部 1 5 2 やアプリケーション制御部 1 5 3 やブラウザ部 1 5 4 や音源部 1 5 6 を主として制御する。文字スーパー処理部 1 1 0 2 d は、文字スーパーデコーダ 1 4 4 を主として制御

10

20

30

40

50

する。字幕処理部 1102e は、字幕デコーダ 145 を主として制御する。汎用データ処理部 1102f は、データデコーダ 151 を主として制御する。EPG 生成部 1102g は、MMT-SI に含まれる MH-EIT 等の記述内容を解釈して EPG 画面を生成する。提示処理部 1102h は、前記論理的プレーン構造に基づいて、映像色域変換部 142 や字幕合成部 146 や字幕色域変換部 147 やアプリケーション色域変換部 155 や映像合成部 161 や音声合成部 164 を主として制御する。

【0156】

前記各動作プログラムは、製品出荷の時点で、予め ROM 103 及び / 又はストレージ (蓄積) 部 110 に格納された状態であっても良い。製品出荷後に、インターネット 200 上のその他のアプリケーションサーバ 500 等から LAN 通信部 121 を介して取得するものであっても良い。また、メモリカードや光ディスク等に格納された前記各動作プログラムを、拡張インタフェース部 124 等を介して取得するものであっても良い。

10

【0157】

[放送局サーバの構成]

図 8 は、放送局サーバ 300 の内部構成の一例を示すブロック図である。放送局サーバ 300 は、主制御部 301、システムバス 302、RAM 304、ストレージ部 310、LAN 通信部 321、デジタル放送信号送出部 360、で構成される。

【0158】

主制御部 301 は、所定の動作プログラムに従って放送局サーバ 300 全体を制御するマイクロプロセッサユニットである。システムバス 302 は主制御部 301 と放送局サーバ 300 内の各動作ブロックとの間でデータ送受信を行うためのデータ通信路である。RAM 304 は各動作プログラム実行時のワークエリアとなる。

20

【0159】

ストレージ部 310 は、基本動作プログラム 3001 及び放送コンテンツ管理 / 配信プログラム 3002 と放送コンテンツ送出プログラム 3003 を記憶し、更に、放送コンテンツ記憶領域 3200 及びメタデータ記憶領域 3300 を備える。放送コンテンツ記憶領域 3200 は放送局が放送する各放送番組の番組コンテンツ等を記憶する。メタデータ記憶領域 3300 は前記各放送番組の番組タイトル、番組 ID、番組概要、出演者、放送日時、各番組コンテンツに係るコピー制御情報、等のメタデータを記憶する。

【0160】

また、ストレージ部 310 に記憶された基本動作プログラム 3001 及び放送コンテンツ管理 / 配信プログラム 3002 と放送コンテンツ送出プログラム 3003 はそれぞれ RAM 304 に展開され、更に主制御部 301 が前記展開された各プログラムを実行することにより、基本動作実行部 3101、放送コンテンツ管理 / 配信実行部 3102、放送コンテンツ送出実行部 3103 を構成する。

30

【0161】

なお、以下では、説明を簡単にするために、主制御部 301 がストレージ部 310 に格納された基本動作プログラム 3001 を RAM 304 に展開して実行することにより各動作ブロックの制御を行う処理を、基本動作実行部 3101 が各動作ブロックの制御を行うものとして記述する。他の動作プログラムに関しても同様の記述を行う。

40

【0162】

放送コンテンツ管理 / 配信実行部 3102 は、放送コンテンツ記憶領域 3200 及びメタデータ記憶領域 3300 に蓄積された各放送番組の番組コンテンツ等及び各メタデータの管理と、前記各放送番組の番組コンテンツ等及び各メタデータを契約に基づいてサービス事業者に提供する際の制御を行う。更に、放送コンテンツ管理 / 配信実行部 3102 は、前記サービス事業者に対して前記各放送番組の番組コンテンツ等及び各メタデータの提供を行う際に、必要に応じて前記契約に基づいたサービス事業者サーバ 400 の認証処理等を行っても良い。

【0163】

放送コンテンツ送出実行部 3103 は、放送コンテンツ記憶領域 3200 に蓄積された

50

放送番組の番組コンテンツや、メタデータ記憶領域 3300 に蓄積された放送番組の番組タイトル、番組 ID、番組コンテンツのコピー制御情報等を含む MMT データ列を、デジタル放送信号送出部 360 を介して電波塔 300t から送出する際のタイムスケジュール管理等を行う。

【0164】

LAN 通信部 321 は、インターネット 200 と接続され、インターネット 200 上のサービス事業者サーバ 400 等と通信を行う。LAN 通信部 321 は符号回路や復号回路等を備えるものとする。デジタル放送信号送出部 360 は、放送コンテンツ記憶領域 3200 に蓄積された各放送番組の番組コンテンツ等の映像データ列や音声データ列、番組情報データ列、等で構成された MMT データ列を変調して、電波塔 300t を介して、デジタル放送波として送出する。

10

【0165】

[サービス事業者サーバの構成]

図 9 は、サービス事業者サーバ 400 の内部構成の一例を示すブロック図である。サービス事業者サーバ 400 は、主制御部 401、システムバス 402、RAM 404、ストレージ部 410、LAN 通信部 421、で構成される。

【0166】

主制御部 401 は、所定の動作プログラムに従ってサービス事業者サーバ 400 全体を制御するマイクロプロセッサユニットである。システムバス 402 は主制御部 401 とサービス事業者サーバ 400 内の各動作ブロックとの間でデータ送受信を行うためのデータ通信路である。RAM 404 は各動作プログラム実行時のワークエリアとなる。

20

【0167】

ストレージ部 410 は、基本動作プログラム 4001 及び映像コンテンツ管理 / 配信プログラム 4002 とアプリケーション管理 / 配布プログラム 4004 を記憶し、更に、映像コンテンツ記憶領域 4200 及びメタデータ記憶領域 4300、アプリケーション記憶領域 4400、ユーザ情報記憶領域 4500 を備える。映像コンテンツ記憶領域 4200 は、放送局サーバ 300 から提供された放送番組の番組コンテンツを映像コンテンツとして記憶する。また、前記サービス事業者が制作した映像コンテンツ等を記憶する。メタデータ記憶領域 4300 は、放送局サーバ 300 から提供された各メタデータや、前記サービス事業者が制作した映像コンテンツに関するメタデータ等を記憶する。アプリケーション記憶領域 4400 は、各テレビ受信機からの要求に応じて配布するための、放送番組に連携したサービスを実現するための各種アプリケーション等を記憶する。ユーザ情報記憶領域 4500 は、サービス事業者サーバ 400 へのアクセスが許可されたユーザに関する情報（個人情報や認証情報等）を記憶する。

30

【0168】

また、ストレージ部 410 に記憶された基本動作プログラム 4001 及び映像コンテンツ管理 / 配信プログラム 4002 とアプリケーション管理 / 配布プログラム 4004 はそれぞれ RAM 404 に展開され、更に主制御部 401 が前記展開された基本動作プログラム及び映像コンテンツ管理 / 配信プログラムとアプリケーション管理 / 配布プログラムを実行することにより、基本動作実行部 4101、映像コンテンツ管理 / 配信実行部 4102、アプリケーション管理 / 配布実行部 4104 を構成する。

40

【0169】

なお、以下では、説明を簡単にするために、主制御部 401 がストレージ部 410 に格納された基本動作プログラム 4001 を RAM 404 に展開して実行することにより各動作ブロックの制御を行う処理を、基本動作実行部 4101 が各動作ブロックの制御を行うものとして記述する。他の動作プログラムに関しても同様の記述を行う。

【0170】

映像コンテンツ管理 / 配信実行部 4102 は、放送局サーバ 300 からの放送番組の番組コンテンツ等及びメタデータの取得、映像コンテンツ記憶領域 4200 及びメタデータ記憶領域 4300 に蓄積された映像コンテンツ等及び各メタデータの管理、及び各テレビ

50

受信機に対する前記映像コンテンツ等及び各メタデータの配信の制御を行う。更に、映像コンテンツ管理 / 配信実行部 4 1 0 2 は、前記各テレビ受信機に対して前記各映像コンテンツ等及び各メタデータの配信を行う際に、必要に応じて前記各テレビ受信機の認証処理等を行っても良い。また、アプリケーション管理 / 配布実行部 4 1 0 4 は、アプリケーション記憶領域 4 4 0 0 に蓄積された各アプリケーションの管理と、前記各アプリケーションを各テレビ受信機からの要求に応じて配布する際の制御と、を行う。更に、アプリケーション管理 / 配布実行部 4 1 0 4 は、前記各テレビ受信機に対して前記各アプリケーションの配布を行う際に、必要に応じて前記各テレビ受信機の認証処理等を行っても良い。

【 0 1 7 1 】

L A N 通信部 4 2 1 は、インターネット 2 0 0 と接続され、インターネット 2 0 0 上の放送局サーバ 3 0 0 や、ルータ装置 2 0 0 r を介して放送受信装置 1 0 0 と通信を行う。L A N 通信部 4 2 1 は符号回路や復号回路等を備えるものとする。

10

【 0 1 7 2 】

[携帯情報端末のハードウェア構成]

図 1 0 A は、携帯情報端末 7 0 0 の内部構成の一例を示すブロック図である。携帯情報端末 7 0 0 は、主制御部 7 0 1、システムバス 7 0 2、ROM 7 0 3、RAM 7 0 4、ストレージ部 7 1 0、通信処理部 7 2 0、拡張インタフェース部 7 2 4、操作部 7 3 0、画像処理部 7 4 0、音声処理部 7 5 0、センサ部 7 6 0、で構成される。

【 0 1 7 3 】

主制御部 7 0 1 は、所定の動作プログラムに従って携帯情報端末 7 0 0 全体を制御するマイクロプロセッサユニットである。システムバス 7 0 2 は主制御部 7 0 1 と携帯情報端末 7 0 0 内の各動作ブロックとの間でデータ送受信を行うためのデータ通信路である。

20

【 0 1 7 4 】

ROM 7 0 3 は、オペレーティングシステムなどの基本動作プログラムやその他の動作プログラムが格納されたメモリであり、例えば、EEPROM やフラッシュROM のような書き換え可能なROM が用いられる。RAM 7 0 4 は基本動作プログラムやその他の動作プログラム実行時のワークエリアとなる。ROM 7 0 3 及びRAM 7 0 4 は主制御部 7 0 1 と一体構成であっても良い。また、ROM 7 0 3 は、図 1 0 A に示したような独立構成とはせず、ストレージ部 7 1 0 内の一部記憶領域を使用するようにしても良い。

【 0 1 7 5 】

ストレージ部 7 1 0 は、携帯情報端末 7 0 0 の動作プログラムや動作設定値、携帯情報端末 7 0 0 のユーザの個人情報等を記憶する。また、インターネット 2 0 0 を介してダウンロードした動作プログラムや前記動作プログラムで作成した各種データ等を記憶可能である。また、インターネット 2 0 0 を介してダウンロードした、動画、静止画、音声等のコンテンツも記憶可能である。ストレージ部 7 1 0 の一部領域を以ってROM 7 0 3 の機能の全部又は一部を代替しても良い。また、ストレージ部 7 1 0 は、携帯情報端末 7 0 0 に外部から電源が供給されていない状態であっても記憶している情報を保持する必要がある。従って、例えば、フラッシュROM やSSD などの不揮発性半導体素子メモリ、HDD などの磁気ディスクドライブ、等のデバイスが用いられる。

30

【 0 1 7 6 】

なお、ROM 7 0 3 やストレージ部 7 1 0 に記憶された前記各動作プログラムは、インターネット 2 0 0 上の各サーバ装置からのダウンロード処理により、追加、更新及び機能拡張することが可能であるものとする。

40

【 0 1 7 7 】

通信処理部 7 2 0 は、L A N 通信部 7 2 1、移動体電話網通信部 7 2 2、N F C 通信部 7 2 3、で構成される。L A N 通信部 7 2 1 は、ルータ装置 2 0 0 r やアクセスポイント 2 0 0 a を介してインターネット 2 0 0 と接続され、インターネット 2 0 0 上の各サーバ装置やその他の通信機器とデータの送受信を行う。ルータ装置 2 0 0 r やアクセスポイント 2 0 0 a との接続はW i - F i (登録商標) 等の無線接続で行われるものとする。移動体電話網通信部 7 2 2 は、移動体電話通信網の基地局 6 0 0 b との無線通信により、電話

50

通信（通話）及びデータの送受信を行う。NFC通信部723は対応するリーダ/ライタとの近接時に無線通信を行う。LAN通信部721、移動体電話網通信部722、NFC通信部723は、それぞれ符号回路や復号回路、アンテナ等を備えるものとする。また、通信処理部720が、Bluetooth（登録商標）通信部や赤外線通信部等、他の通信部を更に備えていても良い。

【0178】

拡張インタフェース部724は、携帯情報端末700の機能を拡張するためのインタフェース群であり、本実施例では、映像/音声インタフェース、USBインタフェース、メモリインタフェース等で構成されるものとする。映像/音声インタフェースは、外部映像/音声出力機器からの映像信号/音声信号の入力、外部映像/音声入力機器への映像信号/音声信号の出力、等を行う。USBインタフェースは、PC等と接続してデータの送受信を行う。また、キーボードやその他のUSB機器の接続を行っても良い。メモリインタフェースはメモリカードやその他のメモリ媒体を接続してデータの送受信を行う。

10

【0179】

操作部730は、携帯情報端末700に対する操作指示の入力を行う指示入力部であり、本実施例では、表示部741に重ねて配置したタッチパネル730t及びボタンスイッチを並べた操作キー730kで構成されるものとする。何れか一方のみであっても良い。拡張インタフェース部724に接続したキーボード等を用いて携帯情報端末700の操作を行っても良い。有線通信又は無線通信により接続された別体の端末機器を用いて携帯情報端末700の操作を行っても良い。即ち、放送受信装置100から携帯情報端末700の操作を行っても良い。また、前記タッチパネル機能は表示部741が備え持っているものであっても良い。

20

【0180】

画像処理部740は、表示部741、画像信号処理部742、第一画像入力部743、第二画像入力部744、で構成される。表示部741は、例えば、液晶パネル等の表示デバイスであり、画像信号処理部742で処理した画像データを携帯情報端末700のユーザに提供する。画像信号処理部742は図示を省略したビデオRAMを備え、前記ビデオRAMに入力された画像データに基づいて表示部741が駆動される。また、画像信号処理部742は、必要に応じてフォーマット変換、メニューやその他のOSD（On Screen Display）信号の重置処理等を行う機能を有するものとする。第一画像入力部743及び第二画像入力部744は、CCD（Charge Coupled Device）やCMOS（Complementary Metal Oxide Semiconductor）センサ等の電子デバイスを用いてレンズから入力した光を電気信号に変換することにより、周囲や対象物の画像データを入力するカメラユニットである。

30

【0181】

音声処理部750は、音声出力部751、音声信号処理部752、音声入力部753、で構成される。音声出力部751はスピーカであり、音声信号処理部752で処理した音声信号を携帯情報端末700のユーザに提供する。音声入力部753はマイクであり、ユーザの声などを音声データに変換して入力する。

40

【0182】

センサ部760は、携帯情報端末700の状態を検出するためのセンサ群であり、本実施例では、GPS受信部761、ジャイロセンサ762、地磁気センサ763、加速度センサ764、照度センサ765、近接センサ766、で構成される。これらのセンサ群により、携帯情報端末700の位置、傾き、方角、動き、及び周囲の明るさ、周囲物の近接状況、等を検出することが可能となる。また、携帯情報端末700が、気圧センサ等、他のセンサを更に備えていても良い。

【0183】

携帯情報端末700は、携帯電話やスマートホン、タブレット端末等であって良い。PDA（Personal Digital Assistants）やノート型PCであ

50

っても良い。また、デジタルスチルカメラや動画撮影可能なビデオカメラ、携帯型ゲーム機やナビゲーション装置等、又はその他の携帯用デジタル機器であっても良い。

【 0 1 8 4 】

なお、図 1 0 A に示した携帯情報端末 7 0 0 の構成例は、センサ部 7 6 0 等、本実施例に必須ではない構成も多数含んでいるが、これらが備えられていない構成であっても本実施例の効果を損なうことはない。また、デジタル放送受信機能や電子マネー決済機能等、図示していない構成が更に加えられていても良い。

【 0 1 8 5 】

[携帯情報端末のソフトウェア構成]

図 1 0 B は、本実施例の携帯情報端末 7 0 0 のソフトウェア構成図であり、ROM 7 0 3、RAM 7 0 4 及びストレージ部 7 1 0 におけるソフトウェアの構成を示す。本実施例においては、ROM 7 0 3 に基本動作プログラム 7 0 0 1 及びその他の動作プログラムが記憶されており、ストレージ部 7 1 0 に連携制御プログラム 7 0 0 2 及びその他の動作プログラムが記憶されている。また、ストレージ部 7 1 0 は、動画、静止画、音声等のコンテンツを記憶するコンテンツ記憶領域 7 2 0 0、テレビ受信機や各サーバ装置にアクセスする際に必要な認証情報等を記憶する認証情報記憶領域 7 3 0 0、その他の各種情報を記憶する各種情報記憶領域を備えるものとする。

10

【 0 1 8 6 】

ROM 7 0 3 に記憶された基本動作プログラム 7 0 0 1 は RAM 7 0 4 に展開され、更に主制御部 7 0 1 が前記展開された基本動作プログラムを実行することにより、基本動作実行部 7 1 0 1 を構成する。また、ストレージ部 7 1 0 に記憶された連携制御プログラム 7 0 0 2 も同様に RAM 7 0 4 に展開され、更に主制御部 7 0 1 が前記展開された連携制御プログラムを実行することにより、連携制御実行部 7 1 0 2 を構成する。また、RAM 7 0 4 は、各動作プログラム実行時に作成したデータを、必要に応じて一時的に保持する一時記憶領域を備えるものとする。

20

【 0 1 8 7 】

なお、以下では、説明を簡単にするために、主制御部 7 0 1 が ROM 7 0 3 に格納された基本動作プログラム 7 0 0 1 を RAM 7 0 4 に展開して実行することにより各動作ブロックの制御を行う処理を、基本動作実行部 7 1 0 1 が各動作ブロックの制御を行うものとして記述する。他の動作プログラムについても同様の記述を行う。

30

【 0 1 8 8 】

連携制御実行部 7 1 0 2 は、携帯情報端末 7 0 0 がテレビ受信機との連携動作を行う際の、機器認証及び接続、各データの送受信、等の管理を行う。また、連携制御実行部 7 1 0 2 は、前記テレビ受信機と連動するアプリケーションを実行するためのブラウザエンジン機能を備えるものとする。

【 0 1 8 9 】

前記各動作プログラムは、製品出荷の時点で、予め ROM 7 0 3 及び / 又はストレージ部 7 1 0 に格納された状態であっても良い。製品出荷後に、インターネット 2 0 0 上のその他のアプリケーションサーバ 5 0 0 等から LAN 通信部 7 2 1 又は移動体電話網通信部 7 2 2 を介して取得するものであっても良い。また、メモリカードや光ディスク等に格納された前記各動作プログラムを、拡張インタフェース部 7 2 4 等を介して取得するものであっても良い。

40

【 0 1 9 0 】

[放送受信装置の時刻管理]

本実施例の放送受信装置は 2 種類の時刻管理機能を備える。1 つ目の時刻管理機能は、NTP に基づく時刻管理機能であり、図 7 C を用いて既に説明した通りである。二つ目の時刻管理機能は、MH - TOT に基づく時刻管理機能であり、図 6 B で説明した MH - TOT により伝送された時刻情報に基づいて管理される時刻である。

【 0 1 9 1 】

NTP で伝送する時刻情報の構成の一例を図 1 3 A に示す。また、前記 MPU タイムス

50

タンブ記述子のデータ構造の一例を図13Bに示す。前記NTP形式における『reference_timestamp』パラメータや『transmit_timestamp』パラメータ等は、64ビット長のNTP長形式の時刻データであり、また、前記MPUタイムスタンプ記述子における『mpu_presentation_time』パラメータも64ビット長のNTPタイムスタンプ形式の時刻データである。前記NTP長形式の時刻データや前記NTPタイムスタンプ形式の時刻データは、UTCの『秒以上』を32ビットで、『秒未満』を32ビットで表したデータである。即ち、NTP形式の時刻情報は、『秒未満』までの時刻情報を伝送可能である。更にNTP形式の時刻情報はUTC表記であるため、従来のデジタル放送におけるクロック管理と異なり、図3(B)に示すように通信回線経路(例えば、図7AのLAN通信部121で受信可能な通信回線)で受信する信号に含まれるNTPとも整合をとることができる。

10

【0192】

これに対し、MH-TOTで伝送される情報は以下の通りである。放送受信装置100は、MH-TOTにより現在日付と日本標準時刻を取得可能であるものとする。図11Aに、MH-TOTのデータ構造の一例を示す。放送受信装置100は、前記MH-TOTの『JST_time』パラメータから現在日付及び現在時刻を取得可能である。『JST_time』パラメータは、図11Bに示すように、修正ユリウス日(Modified Julian Date: MJD)による現在日付の符号化データの下位16ビットと、日本標準時(Japan Standard Time: JST)を6個の4ビット2進化10進数(Binary-Coded Decimal: BCD)で表した24ビットの情報を含むものとする。前記MJDの16ビット符号化データに所定の演算を施すことにより、現在日付を算出することが可能である。6個の4ビット2進化10進数とは、2個の4ビット2進化10進数により10進法2桁で『時』を表し、次の2個の4ビット2進化10進数により10進法2桁で『分』を表し、最後の2個の4ビット2進化10進数により10進法2桁で『秒』を表すものである。

20

【0193】

よって、NTPに基づく時刻とMH-TOTに基づく時刻との相違点は、前者のNTPが前述のように『秒未満』までの時刻情報を伝送できるUTC表記の情報であるのに対し、MH-TOTで伝送される情報は、JST表記の『秒単位』までの情報であるという点である。

30

【0194】

本実施例の放送受信装置100は、UTC表記の時刻情報であるNTPに基づく時刻管理機能を、放送信号のコンテンツである映像、音声、字幕、文字スーパー、その他提示データのデコード及び表示の同期処理に用いることにより、より高精度の同期処理を実現できる。更に放送局のクロック表記ではなく、UTC表記の情報を参照することにより、放送信号で受信する放送信号のコンテンツである映像、音声、字幕、文字スーパー、又はその他データと、通信回線経路で取得する映像、音声、字幕、文字スーパー、又はその他データとのデコード及び表示の同期処理を行うこともできる。

【0195】

更に、本実施例の放送受信装置は、MH-TOTの6個の4ビット2進化10進数で表した24ビットの情報を含む『JST_time』に基づく時刻管理機能を、ユーザへの現在時刻の提示処理又は図6Bで説明したMH-イベント情報テーブル(MH-EIT)を扱う各処理に用いれば良い。一般的に、放送受信装置におけるユーザへの現在時刻の提示処理においては、秒未満までの精度が要求されることはほとんどない。また、MH-イベント情報テーブル(MH-EIT)に記述される各時間情報は、MPEG2-TS方式で伝送される従来のデジタル放送のEITと同様に、6個の4ビット2進化10進数で表した24ビットの情報で10進法2桁ずつの『時』、『分』、『秒』で格納されている。このため、本実施例の放送受信装置100におけるMH-TOTに基づく時刻管理機能は、MH-EITを用いる処理と整合し易いためである。MH-EITを用いる処理とは具体的には、番組表の生成処理(後述する)や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積など

40

50

の著作権管理処理等である。何れの処理も秒未満までの精度が要求されることは稀であり、1秒単位の精度で十分だからである。

【0196】

また、当該番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理は、従来のMPEG2-TS方式を用いたデジタル放送システムの受信機でも搭載される機能である。すると、本実施例の放送システムにおいても、番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理等の処理において、従来のMPEG2-TS方式のデジタル放送システムと整合性がある時刻管理処理で対応できるように構成しておけば、従来のMPEG2-TS方式のデジタル放送の受信機能とMMT方式のデジタル放送の受信機能との両者を有する放送受信装置を構成する際に、これらの処理（番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理等の処理）において、処理アルゴリズムを別々に設計する必要がなくなり、コストを低くすることができる。

10

【0197】

また、従来のMPEG2-TS方式のデジタル放送の受信機能を持たずMMT方式のデジタル放送の受信機能のみを有する受信機であっても、番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理等の処理のアルゴリズムを完全に新規に作成しなくとも、従来のMPEG2-TS方式を用いたデジタル放送システムの受信機でも搭載される機能のアルゴリズムを流用できるので、より低コストに開発することができる。

20

【0198】

よって、MH-TOTの『JST_time』パラメータに基づく時刻管理機能をこれらの処理（番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理等の処理）に用いる構成にすることにより、MMT方式のデジタル放送の放送受信装置であっても、従来方式の放送システムとの整合性を高めることにより、より低コストに提供することが可能となる。

【0199】

以上説明した通り、本実施例の放送受信装置100は、精度の異なる2種類の時刻情報を用いた時刻管理機能を備える。一方の時刻情報は従来のデジタル放送システムと整合性のある表記の時刻情報であり、他方の時刻情報は前記一方の時刻情報よりも分解能の高い時刻情報であり、後者の時刻情報を放送信号の各コンテンツデータの同期処理に用いることにより従来の放送システムよりも高度な情報提示処理を実現し、前者の時刻情報を番組表の生成処理や、録画予約や視聴予約の制御、一時蓄積などの著作権管理処理等に用いることにより放送受信装置を安価に提供することができる。

30

【0200】

よって、本実施例の放送受信装置100では、以上説明した2種類の時刻管理機能を備えることにより、より高度な情報提示処理の実現と低コスト化とを両立することが可能である。

【0201】

[時刻管理の第1の変形例]

次に、本実施例の放送システムにおける時刻管理の第1の変形例を以下に説明する。

40

【0202】

第1の変形例では、図7Cを用いて既に説明したNTPに基づく時刻管理機能の当該管理時刻の精度を高めるために、時刻管理サーバ（図示省略）又は放送局サーバ300から放送受信装置100までの時刻情報伝送における想定遅延時間に関する情報を放送信号に含めて送信し、放送受信装置100において、当該想定遅延時間に関する情報をNTPに基づく時刻管理機能のシステム時計の修正に用いるように構成しても良い。

【0203】

この際、当該想定遅延時間に関する情報は図3(A)に示すTLV多重化ストリーム内ではなく、TLV多重化ストリーム外のTMCC(Transmission and

50

Multiplexing Configuration Control) 領域内で伝送するように構成しても良い。TMCC領域内で伝送すれば、放送受信装置100において、TLV多重化ストリームの分離処理(デマックス処理)を経ることなしに当該想定遅延時間に関する情報を抽出することが可能となる。即ち、放送受信装置100における前記分離処理による遅延の影響を受けにくい情報取得が可能であり、従って、高精度なシステム時計の修正処理を行うことができる。当該TMCC信号で伝送される時刻情報のデータ構造の一例を、図13Cを用いて説明する。当該時刻情報は、例えば、TMCC拡張情報領域に格納して伝送すれば良い。図13CのTMCC拡張情報領域の時刻情報において、『delta』パラメータは、UTCを配信する時刻管理サーバ又はTMCC信号を作成するサーバ装置から一般的な放送受信装置までの伝送遅延の想定値を32ビットの符号付き固定小数点で表す。なお、上位16ビットは整数部を、下位16ビットは小数点以下を記述するものである。『transmit_timestamp』パラメータは、送信タイムスタンプであり、本TMCC信号が前記サーバ装置から送出される時刻をNTPタイムスタンプ長形式で記述するものである。上位32ビットは整数部を、下位32ビットは小数点以下を表す。

【0204】

当該第1の変形例では、本実施例の放送受信装置100は、TMCC拡張情報領域に格納して伝送された当該時刻情報に記述された前記想定遅延時間に関する情報(例えば、前述の『delta』パラメータ及び/又は『transmit_timestamp』パラメータ)を用いて、放送信号の各コンテンツデータの同期処理に用いるNTPに基づく時刻管理機能のシステム時計を、より高精度に修正することができる。

【0205】

[時刻管理の第2の変形例]

次に、本実施例の放送システムにおける時刻管理の第2の変形例を以下に説明する。

【0206】

前述の通り、本実施例の放送受信装置100においては、MH-TOTで伝送される情報により現在日付と日本標準時刻を取得して時刻を管理する時刻管理機能を有する。MH-TOTで伝送される情報により取得した現在日付と日本標準時刻は、放送受信装置100の映像合成部161で映像情報やアプリケーション情報等に重畳することにより、モニタ部162や映像出力部163に出力してユーザに提供可能である。前述の通り、MH-TOTは図11Aに示すデータ構造を有しており、放送受信装置100は、前記MH-TOTの『JST_time』パラメータから現在日付及び現在時刻を取得可能である。

【0207】

しかしながら、前述の『JST_time』パラメータでは、MJDの符号化データの低位16ビットのみを使用しているため、『2038年4月22日』を以って桁あふれを生じることとなり、前記所定の演算のみでは『2038年4月23日』以降の日付を表現することができない。そこで、本実施例の第2の変形例では、MJDの値が所定値以上の場合と所定値未満の場合とで演算方法を切り替えることにより、『2038年4月23日』以降の日付を表現できるように制御するものとする。

【0208】

図12に、MJDの値が所定値以上の場合に使用する第一の演算方法と、MJDの値が所定値未満の場合に使用する第二の演算方法の一例を示す。例えば、前記所定値を『32768(0x8000)』とした場合、MJDが『32768』以上の場合には前記第一の演算方法を用いて現在日付を算出し、MJDが『32768』未満の場合には前記第二の演算方法を用いて現在日付を算出する。なお、MJDが『32768』未満の場合とは、MJDの16ビットデータの最上位ビットが『0』の場合と等価である。これにより、本実施例の放送受信装置100においては、『2038年4月23日』以降の日付を表現することが可能となる。ただし、前記所定値は任意に設定することが可能であり、前記所定値を『16384(0x4000)』や『49152(0xC000)』等と設定しても良い。前記演算方法の切り替え条件は、MJDの16ビットデータの上位2ビットが『

00』の場合、MJDの16ビットデータの上位2ビットが『11』ではない場合、としても良い。なお、前記所定値を『32768』として前述の手段を用いた場合、『1948年9月4日』以前の日付を表現できなくなるが、テレビ受信機としての実用上、特に問題となることはない。

【0209】

また、MJDと前記所定値との比較結果に応じて前記第一の演算方法と前記第二の演算方法を切り替えるのではなく、図11Aに示したMH-TOTのデータ構造における『reserved』パラメータの一部又は全部を置き換えたフラグ或いは新たに追加したフラグに応じて前記第一の演算方法と前記第二の演算方法を切り替えるようにしても良い。例えば、前記フラグは、MJDの16ビット符号化データの最上位ビットが『0』である場合に、前記MJDが『2038年4月23日』以降を示すものであるならば『1』をセットし、『2038年4月23日』以降を示すものでないならば『0』をセットするようによれば良い。そして、前記フラグが『1』の場合には図12に示した前記第二の演算方法を用い、前記フラグが『0』の場合には前記第一の演算方法を用いるによれば良い。又は、前記フラグと同様の意味を有する記述子を新たに用意して、MH-TOT内に配置しても良い。

10

【0210】

また、本実施例の放送システムでは、前述の通り、NTP形式の絶対時刻を伝送し、本実施例の放送受信装置100は、当該NTPに基づく時刻管理機能を有する。更に、本実施例の放送受信装置100では、MPU単位に設定されるMPUタイムスタンプ記述子に記載されたNTPタイムスタンプ等を参照することにより、映像/音声信号の提示単位毎の復号タイミング及び提示タイミングを制御している。前述の通り、前記NTP形式の時刻情報は、図13Aに示す構成を有している。また、前記MPUタイムスタンプ記述子は図13Bに示す構成を有している。

20

【0211】

このため、本実施例の放送受信装置100においては、前記『reference_timestamp』パラメータや『transmit_timestamp』パラメータ、或いは、『mpu_presentation_time』パラメータ等を参照し、前記参照した時刻データ等の値に応じて、前記第一の演算方法と前記第二の演算方法の何れを使用するかを選択するによれば良い。即ち、例えば、前記64ビット長のNTP長形式の時刻データの最上位ビットが『0』の場合は前記第二の演算方法を使用し、『0』でない場合は前記第一の演算方法を使用する、等とすれば良い。

30

【0212】

前記何れの方法によっても、本実施例の放送受信装置100においては、『2038年4月23日』以降の日付を表現することが可能となる。

【0213】

[放送受信装置の選局処理(初期スキャン)]

本実施例の放送システムのAMTは、TLV多重化方式で伝送されるIPパケットを通信回線で伝送されるIPパケットと可能な限り区別なく受信するための、IPパケットのマルチキャストグループの一覧を提供するものとする。1つのサービス識別には、複数のIPマルチキャストグループをリストすることが可能である。また、連続するIPアドレスを効率的に記述するために、アドレスマスクを用いることが可能である。

40

【0214】

本実施例の放送受信装置100では、初期設定の際のチャンネルスキャン時に、或いは、設定変更のための再スキャン時に、TLV-NITから取得したサービスの一覧をROM103やストレージ部110等の不揮発性メモリに記憶させることが可能であり、更に、前記各サービスに対応するIPマルチキャストグループの一覧を、IP関連情報として、前記各サービスに関連付けて、前記不揮発性メモリに記憶させることが可能であるものとする。前記サービスの一覧及びIP関連情報を不揮発性メモリに記憶させ、常時参照可能とすることにより、チャンネル切り替え時等に、TLV-NITやAMTを取得しなお

50

す必要がなくなり、放送コンテンツの取得を効率よく行うことが可能となる。

【0215】

図14は、本実施例の放送受信装置100におけるチャンネルスキャン（再スキャン）時の動作シーケンスの一例を示す図である。

【0216】

チャンネルスキャンが開始されると、受信機能実行部1102は、チューナ/復調部131に対して周波数初期値を設定し、前記周波数値へのチューニングを行うように指示する（S101）。チューナ/復調部131において、前記設定された周波数値へのロックに成功する（S102：Yes）と、次に、受信機能実行部1102は、受信信号からTLV-NITを取得する（S103）。

10

【0217】

S103の処理で取得したTLV-NITが有効なデータである場合（S104：Yes）、受信機能実行部1102は、前記取得したTLV-NITからTLVストリームID、オリジナルネットワークID、等の情報を取得する（S105）。図15Aに、TLV-NITのデータ構造の一例を示す。前記TLVストリームIDの情報は『tlv__stream__id』パラメータから、前記オリジナルネットワークIDの情報は『original__network__id』パラメータから、それぞれ取得可能であるものとする。更に、分配システム記述子から、各TLVストリームID/オリジナルネットワークIDに対応する放送伝送路の物理的条件に関する分配システム情報を取得し（S106）、サービスリスト記述子からサービスIDの一覧を取得する（S107）。図15Bに、衛星分配システム記述子のデータ構造の一例を示す。図15Cに、サービスリスト記述子のデータ構造の一例を示す。なお、TLV-NITが、TLVストリームID、オリジナルネットワークID、分配システム情報、サービスIDの一覧、等の異なるデータを複数有している場合は、S105～S107の処理を繰り返す。次に、受信機能実行部1102は、S105～S107の処理で取得したTLVストリームID、オリジナルネットワークID、分配システム情報、サービスIDの一覧、等のデータに基づいてサービスリストを作成し、前記作成したサービスリストをROM103又はストレージ部110等に記憶（再スキャン時は更新）する（S108）。

20

【0218】

次に、受信機能実行部1102は、受信信号からAMTを取得し（S109）、更に、前記サービスリストに記憶された各サービスIDに関するIPマルチキャストグループの一覧を取得する（S110）。図15Dに、AMTのデータ構造の一例を示す。なお、AMTが複数のサービスIDに関するIPマルチキャストグループの一覧を有している場合は、S110の処理を繰り返す。異なるサービスIDに関するIPマルチキャストグループの一覧を有するAMTが複数ある場合には、S109～S110の処理を繰り返す。次に、受信機能実行部1102は、S110の処理で取得したIPマルチキャストグループの一覧を、IP関連情報として、前記サービスIDと関連付けて、ROM103又はストレージ部110等に記憶（再スキャン時は更新）する（S111）。

30

【0219】

なお、S102の処理で、チューナ/復調部131が前記設定された周波数値へのロックに成功しなかった場合（S102：No）、及び、S103の処理で取得したTLV-NITが有効なデータでない場合（S104：No）、S105～S111の処理は行わない。

40

【0220】

S111の処理を終えると、受信機能実行部1102は、チューナ/復調部131に設定されている周波数値がチャンネルスキャン範囲の最終周波数値であれば（S112：Yes）、処理を終了する。一方、前記設定されている周波数値がチャンネルスキャン範囲の最終周波数値でなければ（S112：No）、チューナ/復調部131に設定された周波数値をアップさせて（S113）、S102～S111の処理を繰り返す。なお、1つのTLV-NITで、当該放送ネットワークを構成する全てのサービスに関するサービス

50

IDを取得でき、更に、前記サービスIDに関するIPマルチキャストグループの一覧を有するAMTを取得できる場合には、S112～S113の処理が不要である。

【0221】

前述の一連の処理により、本実施例の放送受信装置100は、初期設定の際のチャンネルスキャン時に、或いは、設定変更のための再スキャン時に、放送ネットワークを構成するサービスの一覧(サービスリスト)の作成/更新と同時に、前記各サービスに対応するIPマルチキャストグループの一覧(IP関連情報)の作成/更新を行い、更に、ROM103やストレージ部110等の不揮発性メモリに記憶させることが可能となる。

【0222】

なお、前記設定変更のための再スキャンは、TLV-NITやAMTの『version_number』パラメータを参照することにより、テーブル内の情報に変化があったことを検出した場合に、自動的に行うようにしても良い。TLV-NITとAMTの一方の『version_number』パラメータの変化を検出した場合に、前記パラメータの変化が検出されたテーブルに関する情報のみを自動的に更新するようにしても良い。ただし、前述の自動更新を行った場合、再スキャンを自動的に行った旨をユーザに通知することが望ましい。また、前記テーブル内の情報に変化があったことをユーザに報知し、ユーザに前記再スキャンを行うか否かを選択させるようにしても良い。

【0223】

[放送受信装置の選局処理(チャンネル切り替え)]

図16は、本実施例の放送受信装置100における選局(チャンネル切り替え)時の動作シーケンスの一例を示す図である。

【0224】

ユーザが図示を省略したりリモコン等を操作してチャンネルの切り替えを指示すると、受信機能実行部1102が前記リモコンから送信されたコマンドを解釈して目的のサービスのサービスIDを指定する(S201)。次に、受信機能実行部1102は、チューナ/復調部131の受信信号からのAMTの取得を開始する。所定時間以内にAMTの取得に成功した場合(S202:Yes)、前記取得したAMTから前記サービスIDに対応するIPマルチキャストグループの一覧に関する情報を取得する(S204)。一方、所定時間以内にAMTの取得に成功しなかった場合(S202:No)、ROM103又はストレージ部110等に記憶されたIP関連情報を参照することにより(S203)、前記サービスIDに対応するIPマルチキャストグループの一覧に関する情報を取得する(S204)。なお、S202の判断処理を行わず、常にROM103又はストレージ部110等に記憶されたIP関連情報を参照するようにしても良い。

【0225】

次に、受信機能実行部1102は、チューナ/復調部131の受信信号からのTLV-NITの取得を開始する。所定時間以内にTLV-NITの取得に成功した場合(S205:Yes)、前記取得したTLV-NITから前記サービスIDに対応するIPデータフローを取得するための分配システム情報を取得する(S207)。一方、所定時間以内にTLV-NITの取得に成功しなかった場合(S205:No)、ROM103又はストレージ部110等に記憶されたサービスリストを参照することにより(S206)、前記サービスIDに対応するIPデータフローを取得するための分配システム情報を取得する(S207)。なお、S205の判断処理を行わず、常にROM103又はストレージ部110等に記憶されたサービスリストを参照するようにしても良い。S207の処理で分配システム情報を取得すると、次に、受信機能実行部1102は、前記取得した分配システム情報にて指示される周波数値を以ってチューナ/復調部131を制御し、前記サービスIDに対応するIPデータフローを受信し(S208)、前記受信したIPデータフローからMMTデータ列を抽出して、分離部132に出力する。

【0226】

分離部132において、トランスポート処理部1102aは、前記入力したMMTデータ列からパケットIDが『0』であるMMTPパケットを取得し(S209)、更に、前

10

20

30

40

50

記取得したMMTPパケットに含まれるMPTを取得する(S210)。次に、トランスポート処理部1102aは、前記取得したMPTが有する『MMT__package__id__byte』パラメータを参照し、前記『MMT__package__id__byte』パラメータの下位16ビットが前記サービスIDと同一値か否かを確認する。図17に示すMPTのデータ構造の一例において、前記『MMT__package__id__byte』パラメータの下位16ビットが前記サービスIDと同一値である場合(S211:Yes)、前記パケットIDが『0』であるMMTPパケットが前記サービスIDに対応する番組のデータを有するMMTPパケットであるものと判断し、前記取得したMPTの有する情報に基づいてMFUの取得を実行する(S216)。

【0227】

一方、前記『MMT__package__id__byte』パラメータの下位16ビットが前記サービスIDと同一値でない場合(S211:No)、前記パケットIDが『0』であるMMTPパケットは前記サービスIDに対応する番組のデータを有するMMTPパケットではないと判断する。この場合、トランスポート処理部1102aは、あらためてPLTを取得し(S212)、前記取得したPLTを確認することにより、前記サービスIDに対応する『MMT__package__id__byte』パラメータを有するMPTを伝送するMMTPパケットのパケットID(xとする)を確認する(S213)。更に、トランスポート処理部1102aは、前記入力したMMTデータ列からパケットIDが『x』であるMMTPパケットを取得し(S214)、前記取得したMMTPパケットに含まれるMPTを取得する(S215)。更に、前記取得したMPTの有する情報に基づいて、MFUを取得する(S216)。

【0228】

なお、S209～S211の処理を行わず、常にS212～S215の処理を行うようにしても良い。この場合、前記サービスIDに対応する番組のデータがパケットID『0』以外のMMTPパケットに格納されている際に、処理時間の短縮が可能となる。

【0229】

S216の処理でMFUを取得すると、トランスポート処理部1102aは、前記取得したMFUから符号化映像データや符号化音声データ等を抽出し、映像デコーダ141や音声デコーダ143等に出力する。以下、AVデコード処理部1102bの制御に基づく映像/音声デコード処理や、提示処理部1102hの制御に基づく提示処理が行われるが、前記各処理に関しては公知であるため、詳細の説明を省略する。

【0230】

以上の一連の処理により、本実施例の放送受信装置100は、選局(チャンネル切り替え)動作を実行することが可能である。特に、図14及び図16を用いて説明したように、初期設定の際のチャンネルスキャン時に、或いは、設定変更のための再スキャン時に、サービスリストやIP関連情報を作成して、ROM103やストレージ部110等の不揮発性メモリに記憶させて常時参照可能とし、選局(チャンネル切り替え)時に、ROM103やストレージ部110等の不揮発性メモリに記憶させた前記サービスリストやIP関連情報を参照することにより、選局(チャンネル切り替え)時の動作の効率向上を可能とする。即ち、選局(チャンネル切り替え)時にAMTやTLV-NITの再取得を行う場合と比較して、選局(チャンネル切り替え)開始から選局(チャンネル切り替え)終了までの時間を短縮することが可能となる。

【0231】

[放送受信装置の画面レイアウト制御]

本実施例の放送受信装置100では、LCTの記述に基づいた画面レイアウト制御が可能であるものとする。図18にLCTのデータ構造の一例を示す。

【0232】

図中、特に、『left__top__pos__x』パラメータと『right__down__pos__x』パラメータは、全画面表示の左側を『0』/右側を『100』とした場合の、領域の左上の水平位置と右下の水平位置を、それぞれ水平方向の全画素数に対する割

10

20

30

40

50

合で示すものとする。『left_top_pos_y』パラメータと『right_down_pos_y』パラメータは、全画面表示の上側を『0』/下側を『100』とした場合の、領域の左上の垂直位置と右下の垂直位置を、それぞれ垂直方向の全画素数に対する割合で示すものとする。また、『layer_order』パラメータは、領域の奥行き方向の相対位置を示すものとする。

【0233】

前記各パラメータの設定に基づいた、レイアウト番号へのレイアウトの割当の例を、前記各パラメータの設定値と共に、図19A~Dに示す。

【0234】

図19Aは、本実施例の放送受信装置100のデフォルトのレイアウト設定であり、全画面に1つの領域のみを設定する例である。図19Bは、全画面を三つの領域に分割し、それぞれの領域を『領域0』、『領域1』、『領域2』とした場合の例である。例えば、全画面の画素数を水平7680画素/垂直4320画素とした場合、『領域0』は、『left_top_pos_x』パラメータが『0』、『left_top_pos_y』パラメータが『0』、『right_down_pos_x』パラメータが『80』、『right_down_pos_y』パラメータが『80』であることから、(0,0) - (6143,3455)の範囲に設定される。同様に、『領域1』は、(6144,0) - (7679,4319)の範囲に設定され、『領域2』は、(0,3456) - (6143,4319)の範囲に設定される。

10

【0235】

図19Cは、図19Bと同様に三つの領域を設定する例であるが、『領域0』は、(0,0) - (7679,4319)の範囲に設定され、『領域1』と『領域2』は前述と同様の範囲で、『layer_order』パラメータの設定に応じて、『領域0』の前面に配置される。図19Dは、デバイス0(デフォルトのデバイス:本実施例では放送受信装置100)に『領域0』が設定され、デバイス1(本実施例においては、携帯情報端末700)に『領域1』が設定される場合の例である。

20

【0236】

前述のように、本実施例の放送システムにおいては、LCTを用いることにより、マルチメディアサービスを受信機上でサービス提供者の意図通りに表示するための画面レイアウト制御を行うことが可能となる。

30

【0237】

なお、前記『left_top_pos_x』等のパラメータの設定値に応じて画面を分割する際に生じた小数点以下の端数は、切り上げ若しくは切り捨て等の処理を行えば良い。四捨五入(或いは、二進数における零捨一入)の処理でも良い。例えば、全画面の画素数が7680画素/垂直4320画素で、『領域0』の『left_top_pos_x』パラメータが『0』、『left_top_pos_y』パラメータが『0』、『right_down_pos_x』パラメータが『51』、『right_down_pos_y』パラメータが『51』の場合、切り上げ処理により(0,0) - (3916,2203)の範囲に『領域0』を設定しても良いし、切り捨て処理により(0,0) - (3915,2202)の範囲に『領域0』を設定しても良い。また、映像圧縮処理の際のマクロブロックを考慮して、8画素単位や16画素単位等での切り上げ/切り捨て処理を行うようにしても良い。前記処理により、LCTに基づく領域設定や、前記領域におけるマルチメディアコンテンツの解像度変換処理を効率的に行うことが可能となる。

40

【0238】

[放送受信装置の画面レイアウト制御の例外処理]

本実施例の放送受信装置100においては、前述のLCTにより画面レイアウトの領域制御が行われている場合であっても、ユーザによりEPG画面の表示が指示された場合等には、例外処理として、前記LCTの記述内容を無視した画面レイアウト制御を行うことが可能であるものとする。図20Aに、LCTに基づく画面レイアウト制御の例外処理の動作の一例を示す。

50

【0239】

LCTの記述により図19Bと同様の画面レイアウト制御が行われ、『領域0』に放送番組映像が表示され、『領域1』及び『領域2』に前記放送番組に連携する番組連携データ等の放送コンテンツが表示されている状態で、ユーザが図示を省略したりリモコンによりEPG画面の表示を指示した場合、本実施例の放送受信装置100では、図20A(A)に示したように、LCTの記述内容に関わらず画面レイアウト設定をデフォルトの設定(即ち、図19Aと同様の画面レイアウト制御が行われている状態)に戻し、EPG画面を画面全体に表示するように制御するものとする。更に、ユーザがEPG画面の表示終了を指示した場合に、LCTの記述内容に従った画面レイアウト制御を再実行するようにする。

10

【0240】

前述の制御を行うことにより、図20A(B)に示したような、画面レイアウトの領域制御を維持したままEPG画面の表示を行う場合と比較して、EPG画面を大きく表示することができ、見易さを向上させることが可能である。

【0241】

なお、前記画面レイアウト制御の例外処理は、EPG画面の表示を行う際にのみ適用されるものではなく、図20Bに示すように、放送受信装置100の各種設定画面(図示の例では録画設定画面)の子画面表示時や二画面表示時に適用されても良い。

【0242】

同図(A)に示した録画設定画面の場合、放送コンテンツの表示エリアは画面全体から画面右下の子画面部分のみに変更される。同様に、同図(B)に示した二画面表示の場合、放送コンテンツの表示エリアは画面全体から画面中段左側の分割画面部分のみに変更される。何れの場合も、放送コンテンツを表示するための表示エリアが、画面全体を使用する場合と比較して狭くなるため、前記表示エリア内で画面レイアウトの領域制御を維持したまま(即ち、領域分割を行って複数の放送コンテンツを同時に表示したまま)とすることは視認上好ましくはない。従って、本実施例の放送受信装置100においては、前記状況の際には、前記表示エリアに『領域0』の放送コンテンツのみを選択して表示するようにする。なお、直前の領域選択状況に応じて、『領域1』や『領域2』の放送コンテンツを選択して表示するようにしても良い。

20

【0243】

前述の制御を行うことにより、画面レイアウトの領域制御を維持したまま各種放送コンテンツの表示を行う場合と比較して、前記放送コンテンツの見易さを向上させることが可能となる。録画番組一覧画面における子画面表示やインターネットコンテンツのブラウザ表示時、等においても同様である。

30

【0244】

[放送受信装置のEPG表示]

本実施例の放送システムでは、放送ネットワークを構成する各サービスに含まれるイベント(いわゆる番組)に関する時系列情報をMH-EITで伝送するものとする。図21に、本実施例のMH-EITのデータ構造の一例を示す。MH-EITは、テーブルID(図中の『table_id』パラメータに対応)により二つのクラスに識別され、自TLVストリームの現在/次のイベントの情報と自TLVストリームの各イベントのスケジュール情報を示すことが可能であるものとする。本実施例の放送受信装置100は、前記MH-EIT等を参照してサービスID(図中の『service_id』パラメータに対応)による識別を行うことにより、各イベントの開始時間や放送時間等の情報を取得してEPG画面を作成することが可能であり、前記作成したEPGを映像合成部161で映像情報等に重畳してモニタ部162に表示することが可能であるものとする。

40

【0245】

図22Aは、本実施例の放送受信装置100におけるEPG画面の一例を示す図である。EPG画面162aは、縦軸を時間表示、横軸をサービスID(チャンネル)表示としたマトリクス形状で、各時間帯に各チャンネルで放送される放送番組の詳細情報を表示す

50

るものとする。また、各放送番組の詳細情報 1 6 2 a 1 は、主としてタイトル領域 1 6 2 a 2 と詳細説明領域 1 6 2 a 3 で構成される。

【0246】

タイトル領域 1 6 2 a 2 には、前記放送番組の番組タイトル及び前記放送番組の属性を表す記号等を表示する。前記放送番組の属性を表す記号等とは、例えば、新番組であることを示す記号/文字や、再放送番組であることを示す記号/文字、等である。或いは、放送サービスによるデータ放送に対応していることを意味する『data』を記号化した印等でも良い。また、前記放送番組に関連するコンテンツやアプリケーション等をネットワーク上から取得可能であることを意味する『Network』を記号化した印 1 6 2 a 4 等であっても良い。また、詳細情報 1 6 2 a 1 の背景色を他と差別化することにより、或いは、太枠で詳細情報 1 6 2 a 1 の表示領域を囲むことにより、前記放送番組の属性を表す記号等を代替しても良い。

10

【0247】

なお、本実施例の放送システムにおける各制御情報(メッセージ、テーブル、記述子、等)が、前記放送番組に関連するコンテンツやアプリケーション等がネットワーク上から取得可能であることを示している場合であっても、放送受信装置 1 0 0 の LAN 通信部 1 2 1 に LAN ケーブルが接続されていない等、ネットワーク上の各サーバ装置へのアクセスができない状態である場合には、前記『Network』を記号化した印 1 6 2 a 4 を表示しないように制御しても良い。

【0248】

また、前記放送番組がインターネット 2 0 0 を介して配信される配信番組であり、放送波のみからの取得ができない場合であっても、更に、前述と同様に、放送受信装置 1 0 0 がネットワーク上の各サーバ装置へアクセスできない状態である場合等には、図 2 2 B に示すように、EPG 画面 1 6 2 b 上に表示される詳細情報 1 6 2 b 1 の部分をグレースアウトするように制御しても良い。即ち、視聴できない配信番組の詳細情報は表示しないように制御する。また、詳細情報 1 6 2 b 1 の背景色を他と差別化することにより、前記グレースアウト処理の代替としても良い。図示を省略したりリモコンの操作により詳細情報 1 6 2 b 1 を選択した場合に、放送受信装置 1 0 0 がネットワーク上の各サーバ装置へアクセスできない状態である旨を、或いは、詳細情報 1 6 2 b 1 に関連付けられた配信番組を視聴できない旨を、ポップアップ等によりユーザに報知するようにしても良い。

20

30

【0249】

前述の各制御により、放送受信装置 1 0 0 は、ネットワーク接続状況に応じて、ユーザに対してより違和感のない形式で各放送番組の番組情報を提供することが可能となる。

【0250】

図 2 2 C は、本実施例の放送受信装置 1 0 0 における EPG 画面の別の一例を示す図である。図中、『M1 テレビ』、『M2 放送』、『M3 チャンネル』、『M4 TV』、『テレビ M5』等は、各チャンネルの放送局名称であり、特に、『M2 放送』局は、放送波により配信される放送番組とインターネット 2 0 0 を介して配信される配信番組(図中の『ネット放送』で示される枠の情報 1 6 2 c 1)を同時に提供しているものとする。

【0251】

同図に示したように、インターネット 2 0 0 を介して配信する配信番組のみを有するチャンネルがある場合、通常時は同図(A)の EPG 画面 1 6 2 c に示すように(情報 1 6 2 c 1 を含む)全てのチャンネルの情報を表示するように制御する。一方、放送受信装置 1 0 0 がネットワーク上の各サーバ装置へアクセスできない状態である場合等には、同図(B)の EPG 画面 1 6 2 d に示すように、インターネット 2 0 0 を介して配信する配信番組のみを有する『M2 放送(ネット放送)』のチャンネルの情報(同図(A)における情報 1 6 2 c 1)を表示しないように制御しても良い。

40

【0252】

前述の各制御により、放送受信装置 1 0 0 のユーザは、自分の視聴できないチャンネルの情報の確認を不要とすることが可能となる。

50

【0253】

[放送受信装置の緊急警報放送表示]

本実施例の放送受信装置100は、TLVストリームを含む伝送データに含まれるTMC信号の緊急警報放送起動制御信号ビットが『0』から『1』になった場合に、緊急警報放送の受信処理を行うことが可能であるものとする。

【0254】

前記緊急警報放送は、全画面表示のアプリケーションとして提供されても良いし、文字情報として文字スーパーで提供されても良い。前記緊急警報放送が文字情報として文字スーパーで提供されている場合、緊急警報放送の受信直前の放送受信装置100の状態に関わらず、前記文字スーパーの文字情報を表示することが好ましい。即ち、図23に示すように、ユーザが通常の放送番組を視聴し、モニタ部162に前記放送番組の番組画面162eが表示されている状態で緊急警報放送を受信した場合、前記緊急警報放送による文字情報162e1を番組画面162eに重畳して表示するようにする。同様に、ユーザがEPG画面の表示を指示し、モニタ部162にEPG画面162fが表示されている状態で緊急警報放送を受信した場合、前記緊急警報放送による文字情報162f1をEPG画面162fに重畳して表示するように制御する。

10

【0255】

前述の制御により、本実施例の放送受信装置100においては、ユーザがEPG画面や各種設定画面、録画番組一覧画面、インターネットブラウザ等を選択して表示させている場合であっても、緊急警報放送を受信した際には、前記緊急警報放送に基づく重要な文字情報の見逃しを回避することが可能となる。なお、この制御は、緊急警報放送によらない通常の文字スーパーの文字情報に対して行われても良い。

20

【0256】

[各種例外処理]

本実施例の放送受信装置100は、同一パッケージ内のTLVストリーム外データが取得できない場合、例えば、下記の様な例外処理を行っても良い。

【0257】

図6Eで説明した通り、本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムにおいては、MPPTに格納されるロケーション情報(図17の『MMT_general_location_info()』に対応)に基づいて、TLVストリーム内で取得するデータとTLVストリーム以外の経路で取得するデータとを同一のパッケージに含めることができる。しかしながら、ロケーション情報が指し示す、TLVストリーム以外のデータ伝送経路(例えば、IPv4データフロー、IPv6データフロー、放送のMPEG2-TSなど)は、TLV/MMTストリームの受信機能とは別の受信機能である。よって、放送受信装置100の動作中であっても、これらの伝送経路の受信機能が動作していない状況や、受信機能自体は動作していても中継装置等が動作していない状況や、これらの伝送経路の有線又は無線接続がされていない状況や、そもそもこれらの伝送経路の接続できない環境に放送受信装置100が設置されている状況など、これらの伝送経路からデータが取得できない状況もありうる。

30

【0258】

このような状況下で、MPPTに格納されるロケーション情報が、TLVストリーム内で取得するデータとTLVストリーム以外の経路で取得するデータとを同一のパッケージに含めるように対応付けることを示しているイベントを受信した場合、本実施例の放送受信装置100は、例えば、以下のような動作を行っても良い。

40

【0259】

例えば、LCTが、図19Bや図19Cのように、画面内に複数の領域を設定しており、『領域0』にTLVストリーム内に含まれる映像を表示し、『領域1』や『領域2』にTLVストリーム以外の伝送経路で取得したデータが表示されるように対応付けられている場合であっても、『領域1』や『領域2』に表示すべきTLVストリーム以外の伝送経路のデータが取得できない場合、LCTが指定する複数領域のレイアウト表示を禁止しても

50

良い。具体的には、当該LCTを受信しても図19Aに示すデフォルトレイアウト表示の『領域0』にTLVストリーム内で受信する当該コンテンツの映像を表示した状態のままとし、図19Bや図19Cのような複数領域のレイアウト表示に移行しないようにすれば良い。また、更にこの状態で、デフォルトレイアウトからLCTの示すレイアウトへの変更指示が図7Aの操作入力部170に入力されたとしても、図19Aに示すデフォルトレイアウト表示のままとしたり、その他のデータ放送画面に切り替えるなどして、図19Bや図19Cのような複数領域のレイアウト表示に移行しないようにしても良い。

【0260】

LCTが、図19Bや図19Cのように、画面内に複数の領域を設定しており、『領域0』にTLVストリーム内に含まれる映像を表示し、『領域1』や『領域2』にTLVストリーム以外の伝送経路で取得したデータが表示されるように対応付けられている場合であって、『領域1』や『領域2』に表示すべきTLVストリーム以外の伝送経路のデータが取得できない場合の別の動作例としては、一旦、LCTが示す図19Bや図19Cの複数領域の表示枠を表示し、『領域1』や『領域2』については背景色や所定の静止画を表示しておき、所定時間を経過してもMPTのロケーション情報が示すTLVストリーム以外の伝送経路のデータが取得できない場合は、図19Aに示すデフォルトレイアウト表示の状態に戻す表示切り替えを行っても良い。この場合は、図19A、図19B、図19Cのレイアウトの変更時も『領域0』にはTLVストリーム内に含まれる番組映像が継続して表示されるように動作すれば、ユーザの番組映像自体は継続するので好ましい。

【0261】

また、『領域1』や『領域2』に表示すべきTLVストリーム以外の伝送経路のデータが取得できないことにより、図19Aに示すデフォルトレイアウト表示の『領域0』にTLVストリーム内で受信する当該コンテンツの映像を表示した状態となっており、本実施例の放送受信装置100の各種通信機能や各種受信機能の動作が開始したり、各種通信機能の通信環境、通信状況や各種受信機能の受信環境や受信状況が変化したことにより、『領域1』や『領域2』に表示すべきTLVストリーム以外の伝送経路のデータが取得できる状況になることもありうる。この場合、本実施例の放送受信装置100は、ただちに、図19Aに示すデフォルトレイアウト表示から、LCTが示す図19Bや図19Cに示すような複数領域のレイアウトに切り替えて、『領域0』にTLVストリーム内で受信する当該コンテンツの映像を表示し、『領域1』や『領域2』にTLVストリーム以外の伝送経路から取得したデータを表示するように切り替えても良い。また、当該レイアウト変更をすぐには行わずに、デフォルトレイアウトからLCTの示すレイアウトへの変更指示が操作入力部170から入力されてから当該レイアウト変更を実行しても良い。

【0262】

[著作権保護機能]

本実施例の放送受信装置100が対応するデジタル放送システムにおいて、MPTにコピー制御情報を含めて伝送することにより、例えば、当該コピー制御情報により『無制限にコピー可』（『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』と『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理不要』の2種類に分けても良い）、『1世代のみコピー可』、『所定複数回数コピー可』（例えば、9回コピー可+ムーブ1回可ならいわゆる『ダビング10』）、『コピー禁止』など、MPTが参照するコンテンツのコピー制御状態を示して伝送するように構成しても良い。この場合、本実施例の放送受信装置100は当該コピー制御情報に応じて、当該コンテンツのストレージ（蓄積）部110への蓄積、リムーバブル記録媒体への記録、外部機器への出力、外部機器へのコピー、外部機器へのムーブ処理などを制御するように構成しても良い。なお、蓄積処理の対象は放送受信装置100内部のストレージ（蓄積）部110のみならず、放送受信装置100のみで再生可能となるように暗号化処理等の保護処理を施した記録を含んでも良い。具体的には、蓄積処理の対象には外付けの記録装置などのうち、放送受信装置100のみで記録再生可能な状態にしたものなどが含まれる。

【0263】

当該コピー制御情報に基づく処理の具体例を以下に説明する。

【0264】

まず、MPTに含まれるコピー制御情報が『無制限にコピー可』を示す場合は、本実施例の放送受信装置100は、ストレージ(蓄積)部110への蓄積、リムーバブル記録媒体への記録、外部機器への出力、外部機器へのコピー、外部機器へのムーブ処理を制限なしに行ってかまわない。ただし、『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』と『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理不要』とが分かれている場合は、『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』の際には、ストレージ(蓄積)部110への蓄積、リムーバブル記録媒体への記録、外部機器への出力、外部機器へのコピー、外部機器へのムーブ処理を回数に制限なく行うことができるが、何れも暗号化処理を施す必要がある。

10

【0265】

また、MPTに含まれるコピー制御情報が『1世代のみコピー可』を示す場合は、本実施例の放送受信装置100は、ストレージ(蓄積)部110への暗号化しての蓄積を可能とするが、蓄積後のコンテンツを外部機器へ視聴用に出力する場合には、『コピー禁止』のコピー制御情報とともに暗号化して出力することとする。ただし、外部機器へのいわゆるムーブ処理(外部機器へコンテンツをコピーし、放送受信装置100のストレージ(蓄積)部110内のコンテンツは消去処理などにより再生不能化する処理)は可能とする。

【0266】

また、MPTに含まれるコピー制御情報が『所定複数回数コピー可』を示す場合は、本実施例の放送受信装置100は、ストレージ(蓄積)部110へ暗号化して蓄積することを可能とするが、蓄積後のコンテンツを外部機器へ視聴用に出力する場合には、『コピー禁止』のコピー制御情報とともに暗号化して出力することとする。ただし、外部機器へ予め定められた数のコピーとムーブ処理を可能として良い。いわゆる『ダビング10』規定の場合は、外部機器へ9回のコピーと1回のムーブ処理を行って良い。

20

【0267】

また、MPTに含まれるコピー制御情報が『コピー禁止』を示す場合は、本実施例の放送受信装置100は、ストレージ(蓄積)部110へのコピーを禁止する。ただし、放送受信装置100は予め定められた所定時間又は放送信号に含まれる制御情報(例えば、図6Dに示したMH-Expire記述子等による)により指定される所定時間のみストレージ(蓄積)部110への保持を可能とする『一時蓄積』モードを有するように構成する場合には、MPTに含まれるコピー制御情報が『コピー禁止』を示す場合であっても、ストレージ(蓄積)部110への当該コンテンツの一時的な保持を可能とする。MPTに含まれるコピー制御情報が『コピー禁止』の当該コンテンツを外部機器への視聴用として出力する場合には、『コピー禁止』のコピー制御情報とともに暗号化して出力することとする。

30

【0268】

なお、前述の外部機器への視聴用の出力は、図7Aの映像出力部163と音声出力部166、或いは、デジタルI/F部125やLAN通信部121などを介して行えば良い。前述の外部機器へコピー又はムーブ処理は、図7AのデジタルI/F部125やLAN通信部121などを介して行えば良い。

40

【0269】

以上説明した処理によれば、コンテンツと対応付けられたコピー制御情報に応じて、適切なコンテンツ保護を実現することができる。

【0270】

また、コピー制御情報が、『1世代のみコピー可』、『所定複数回数コピー可』、『コピー禁止』などのコピー制限を示しているコンテンツのLAN通信部121を介した外部機器へのコピー処理については、放送受信装置100からの送信パケットの宛先である外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット内にある場合のみ可能とし、外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同

50

ーサブネット外にある場合は、禁止しても良い。コピー制御情報が『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』のコンテンツも同様に扱っても良い。

【0271】

同様に、コピー制御情報が、『1世代のみコピー可』、『所定複数回数コピー可』、『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』などのコピー制限を示しているコンテンツを一度ストレージ(蓄積)部110へ蓄積した後、LAN通信部121を介して外部機器へムーブする処理についても、放送受信装置100からの送信パケットの宛先である外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット内にある場合のみ可能とし、外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット外にある場合は、禁止しても良い。

10

【0272】

放送受信装置100のストレージ(蓄積)部110へ蓄積したコンテンツについての視聴用映像出力、音声出力は、原則として、放送受信装置100からの送信パケットの宛先である外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット内にある場合のみ可能とし、外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット外にある場合は禁止する。ただし、当該外部機器が所定期間以内に、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット内で接続されており、かつ、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット外でも視聴可能な機器としての登録処理(ペアリング)がなされている機器の場合は、外部機器のIPアドレスが、放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット外であっても、当該外部機器への放送受信装置100のストレージ(蓄積)部110へ蓄積したコンテンツについての視聴用映像出力、音声出力を可能とするように構成しても良い。この場合、当該視聴用映像出力、音声出力はコンテンツに暗号化を施して行う。

20

【0273】

以上説明した処理によれば、外部機器が放送受信装置100のIPアドレスと同一サブネット内にあるか同一サブネット外にあるかに対応して異なる処理を行うことでユーザの利便性とコンテンツ保護の両立を実現できる。

【0274】

次に、図6Eで説明したように、本実施例の放送受信装置100が対応するデジタル放送システムでは、MPT内のロケーション情報(図17の『MMT_general_location_info()』)により、放送経路のTLVストリームで取得したデータと違う経路(IPv4、IPv6、MPEG2-TS、URL、等)で取得したデータもTLVストリームで取得したデータと同一パッケージかつ同一イベントに含まれることがありうるが、このときMPTにコピー制御情報が含まれている場合のコンテンツ保護について説明する。

30

【0275】

まず、MPTにコピー制御情報が含まれる場合、ロケーション情報で同一パッケージかつ同一イベントに含まれるデータは、放送経路のTLVストリームで取得したデータと違う経路(IPv4、IPv6、MPEG2-TS、URL、等)で取得したデータであっても、TLVストリームに含まれるコピー制御情報に従って、制御するようにしても良い。これらのコピー制御情報によって、指定されるコンテンツのコピー制御状態としては、前述の通り、『無制限にコピー可』(『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理要』と『無制限にコピー可かつ蓄積及び出力時に暗号化処理不要』の2種類に分けても良い)、『1世代のみコピー可』、『所定複数回数コピー可』(例えば、9回コピー可+ムーブ1回可ならいわゆる『ダビング10』)、『コピー禁止』などを指定可能とする。

40

【0276】

ここで、ロケーション情報が示すデータの位置が、他のデジタル放送信号で伝送されるMPEG2-TSのデータを含む場合、当該MPEG2-TSのデータは、他のデジタル放送信号でもコピー制御情報と対応付けられて放送されている。すると、当該MPEG2-TSのデータのコピー制御をどの情報に従ってどのように行うか(TLV/MMTスト

50

リームに含まれるコピー制御情報に従うのか、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報に従うのか)が問題となる。

【0277】

本実施例のデジタル放送システムでは、この課題の解決策として、放送受信装置100において、下記複数の解決策の何れかの動作を行うようにすれば良い。

【0278】

<動作例1>

第一の動作例では、MPTにコピー制御情報が含まれ、ロケーション情報で同一パッケージかつ同一イベントに含まれるデータに他のデジタル放送信号で伝送されるMPEG2-TSのデータを含む場合に、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態よりも、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態を優先して制御する。

10

【0279】

例えば、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態が『1世代コピー可』であり、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態が『所定複数回コピー可』であれば、TLVストリームで取得したデータと違う経路(MPEG2-TS伝送形式のデジタル放送)で取得したデータであっても、『1世代コピー可』のコンテンツとしてコピー制御を行っても良い。例えば、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態が『無制限にコピー可』であり、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態が『所定複数回コピー可』であれば、TLVストリームで取得したデータと違う経路(MPEG2-TS伝送形式のデジタル放送)で取得したデータであっても、『無制限にコピー可』のコンテンツとしてコピー制御を行っても良い。

20

【0280】

この動作の場合、TLVストリーム以外の経路で取得したデータについても本実施例の放送受信装置100が対応する放送システムにおいて管理したいコピー状態にすることができる。

【0281】

<動作例2>

第二の動作例では、MPTにコピー制御情報が含まれ、ロケーション情報で同一パッケージかつ同一イベントに含まれるデータに他のデジタル放送信号で伝送されるMPEG2-TSのデータを含む場合に、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態とMPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態とを比較し、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態の方がTLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態よりも厳しい場合は、ストレージ(蓄積)部110などへの蓄積処理、リムーバブル記録媒体への記録処理、又はデジタルインタフェースからの出力処理をする際に、当該MPEG2-TSのデータを処理対象コンテンツから除外するように動作する。

30

【0282】

この動作の場合、TLVストリーム以外の経路で取得したデータについては、当該データを伝送する放送システムで設定されたオリジナルのコピー制御情報を尊重しながら、本実施例の放送受信装置100上でのコピー制御状態の重複を解消することができる。

40

【0283】

また、当該比較の結果、MPEG2-TSに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態が、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態と同じ状態又は、より緩いコピー制御状態の場合は、当該ロケーション情報で同一パッケージかつ同一イベントに含まれるMPEG2-TSのデータについても、TLVストリームに含まれるコピー制御情報により示されるコピー制御状態のコンテンツとしてコピー制御を行えば良い。

【0284】

50

この動作の場合、T L Vストリーム以外の経路で取得したデータについては、当該データを伝送する放送システムで設定されたオリジナルのコピー制御情報を尊重しながら、本実施例の放送受信装置 1 0 0 上でのコピー制御状態の重複を解消することができる。

【 0 2 8 5 】

以上の説明において、本実施例の放送受信装置 1 0 0 の著作権保護機能は、M P T に含まれるコピー制御情報に基づいて行うこととして説明した。しかし、コピー制御情報を配置するテーブルはM P T に限定されない。M P T 以外にも、図 6 B で説明したM H - サービス記述テーブル (M H - S D T) やM H - イベント情報テーブル (M H - E I T) 、或いはその他のテーブルに配置して伝送し、放送受信装置 1 0 0 はこれらに従って著作権保護処理を行っても良い。

10

【 0 2 8 6 】

以上説明した本実施例によれば、M M T のデジタル放送に対応した放送受信機を提供することができる。

(実施例 2)

【 0 2 8 7 】

以下では、本発明の実施例 2 に関して説明する。なお、本実施例における構成、処理及び効果等は特に断りのない限り実施例 1 と同様であるものとする。このため、以下では、本実施例と実施例 1 との相違点を主に説明し、共通する点については重複を避けるため極力説明を省略する。また、本実施例の放送受信装置は、メディアトランスポート方式として、M M T 方式とM P E G 2 - T S 方式の双方に対応するテレビ受信機であるものとして、以下、説明を行う。

20

【 0 2 8 8 】

[放送受信装置のハードウェア構成]

図 2 4 は、放送受信装置 8 0 0 の内部構成の一例を示すブロック図である。放送受信装置 8 0 0 は、主制御部 8 0 1 、システムバス 8 0 2 、R O M 8 0 3 、R A M 8 0 4 、ストレージ部 8 1 0 、L A N 通信部 8 2 1 、拡張インタフェース部 8 2 4 、デジタルインタフェース部 8 2 5 、第一チューナ / 復調部 8 3 1 、第二チューナ / 復調部 8 3 2 、M M T デコード処理部 8 4 1 、M P E G 2 - T S デコード処理部 8 4 2 、映像合成部 8 6 1 、モニタ部 8 6 2 、映像出力部 8 6 3 、音声合成部 8 6 4 、スピーカ部 8 6 5 、音声出力部 8 6 6 、操作入力部 8 7 0 、で構成される。

30

【 0 2 8 9 】

主制御部 8 0 1 、システムバス 8 0 2 、R O M 8 0 3 、R A M 8 0 4 、ストレージ部 8 1 0 、拡張インタフェース部 8 2 4 、デジタルインタフェース部 8 2 5 、モニタ部 8 6 2 、映像出力部 8 6 3 、スピーカ部 8 6 5 、音声出力部 8 6 6 、操作入力部 8 7 0 、等は、実施例 1 の放送受信装置 1 0 0 における主制御部 1 0 1 、システムバス 1 0 2 、R O M 1 0 3 、R A M 1 0 4 、ストレージ (蓄積) 部 1 1 0 、拡張インタフェース部 1 2 4 、デジタルインタフェース部 1 2 5 、モニタ部 1 6 2 、映像出力部 1 6 3 、スピーカ部 1 6 5 、音声出力部 1 6 6 、操作入力部 1 7 0 、等とそれぞれ同等の機能を有するものとし、詳細な説明を省略する。

【 0 2 9 0 】

40

第一チューナ / 復調部 8 3 1 は、図示を省略したアンテナを介して、メディアトランスポート方式としてM M T を採用した放送サービスの放送波を受信し、主制御部 8 0 1 の制御に基づいてユーザの所望するサービスのチャンネルに同調 (選局) する。更に、第一チューナ / 復調部 8 3 1 は、受信した放送信号を復調してM M T データ列を取得し、M M T デコード処理部 8 4 1 に出力する。第二チューナ / 復調部 8 3 2 は、図示を省略したアンテナを介して、メディアトランスポート方式としてM P E G 2 - T S を採用した放送サービスの放送波を受信し、主制御部 8 0 1 の制御に基づいてユーザの所望するサービスのチャンネルに同調 (選局) する。更に、第二チューナ / 復調部 8 3 2 は、受信した放送信号を復調してM P E G 2 - T S データ列を取得し、M P E G 2 - T S デコード処理部 8 4 2 に出力する。

50

【0291】

MMTデコード処理部841は、第一チューナ/復調部831から出力されたMMTデータ列を入力し、前記MMTデータ列に含まれる制御信号に基づいてリアルタイム提示要素である映像データ列、音声データ列、文字スーパーデータ列、字幕データ列、等の分離処理、及び復号処理等を行う。MMTデコード処理部841は、実施例1の放送受信装置100における、分離部132、映像デコーダ141、映像色域変換部142、音声デコーダ143、文字スーパーデコーダ144、字幕デコーダ145、字幕合成部146、字幕色域変換部147、データデコーダ151、キャッシュ部152、アプリケーション制御部153、ブラウザ部154、アプリケーション色域変換部155、音源部156、等に相当する機能を備えるものとする。MMTデコード処理部841は、実施例1で説明した各種処理を行うことが可能である。なお、前記各種処理の詳細は実施例1で説明した通りであるので、説明を省略する。

10

【0292】

MPEG2-TSデコード処理部842は、第二チューナ/復調部832から出力されたMPEG2-TSデータ列を入力し、前記MPEG2-TSデータ列に含まれる制御信号に基づいてリアルタイム提示要素である映像データ列、音声データ列、文字スーパーデータ列、字幕データ列、等の分離処理、及び復号処理等を行う。MPEG2-TSデコード処理部842は、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスの放送波を受信する従来のテレビ受信機のIRD(Integrated Receiver Decoder)部と同等の機能を備えるものとし、詳細な説明を省略する。

20

【0293】

映像合成部861は、MMTデコード処理部841から出力された映像情報や字幕情報やアプリケーション情報と、MPEG2-TSデコード処理部842から出力された映像情報や字幕情報やアプリケーション情報と、を入力し、適宜選択及び/又は重畳等の処理を行う。映像合成部861は図示を省略したビデオRAMを備え、前記ビデオRAMに入力された映像情報等に基づいてモニタ部862等が駆動される。また、映像合成部861は、主制御部801の制御に基づいて、必要に応じて、スケーリング処理やEPG画面情報の重畳処理等を行う。音声合成部164は、MMTデコード処理部841から出力された音声情報とMPEG2-TSデコード処理部842から出力された音声情報を入力し、適宜選択及び/又はミックス等の処理を行う。

30

【0294】

LAN通信部821は、ルータ装置200rを介してインターネット200と接続され、インターネット200上の各サーバ装置やその他の通信機器とデータの送受信を行う。また、通信回線を介して伝送される番組のMMTデータ列(或いは、その一部)やMPEG2-TSデータ列(或いは、その一部)を取得し、適宜、MMTデコード処理部841やMPEG2-TSデコード処理部842に出力する。

【0295】

[放送受信装置の時刻表示]

本実施例の放送受信装置800では、EPG画面や各種設定画面等において、現在日付や現在時刻を表示可能であるものとする。前記現在日付や現在時刻に関する情報は、メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスにおいてはMH-TOT等により送信され、また、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスにおいてはMPEG-2システムに規定されたSI(Service Information)が備えるTOT(Time Offset Table)等により送信される。放送受信装置800は、前記MH-TOTや前記TOTを参照することにより、前記現在日付や現在時刻に関する情報を取得可能である。

40

【0296】

また、一般的には、映像合成部861がMMTデコード処理部841から出力された映像情報等を主として選択している場合には、前記MH-TOTから取得した現在日付や現

50

在時刻に関する情報を前記映像情報等に重畳し、映像合成部 861 が M P E G 2 - T S デコード処理部 842 から出力された映像情報等を主として選択している場合には、前記 T O T から取得した現在日付や現在時刻に関する情報を前記映像情報等に重畳するように制御すれば良い。

【0297】

しかしながら、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスとメディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスとでは、符号化処理 / 復号処理や伝送経路等に差異があるため、特に現在時刻表示において、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスの選択時とメディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスの選択時とで、不整合を生じる可能性がある。例えば、図 25 に示すように、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスのチャンネル情報を表示する E P G 画面 162g からメディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスのチャンネル情報を表示する E P G 画面 162h に画面表示を切り替えた際に、現在時刻の表示が現在時刻表示 162g1 から現在時刻表示 162h1 に切り替わることによる不整合によって、視覚的違和感をユーザに覚えさせる可能性を有するものである。

10

【0298】

本実施例の放送受信装置 800 では、前記ユーザの視覚的違和感を防止するために、映像合成部 861 が M M T デコード処理部 841 から出力された映像情報等を主として選択している場合であっても、前記 T O T から取得した現在日付や現在時刻に関する情報を前記映像情報等に重畳するように制御する。即ち、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスのコンテンツに、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスで提供される現在時刻情報を重畳するように制御するものである。

20

【0299】

前記制御を行うことにより、本実施例の放送受信装置 800 は、現在時刻を表示する際に、常に前記 T O T を参照して取得した現在時刻情報を表示するようになる。従って、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスとメディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスとを切り替えた際にも、現在時刻の表示の不整合による視覚的違和感をユーザに覚えさせることを防止することが可能となる。

30

【0300】

なお、図 26 に、本実施例の放送受信装置 800 における、各放送サービスの受信状況に応じた現在時刻情報参照元の選択制御の一例を示す。本実施例の放送受信装置 800 では、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスの受信が可能な状態にある場合には、常に前記 T O T を参照して現在時刻情報を取得するようにし、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスの受信が不可の状態、かつメディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスの受信が可能な状態にある場合にのみ、前記 M H - T O T を参照して現在時刻情報を取得するように制御する。

40

【0301】

また、前述の制御とは逆に、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスのコンテンツに、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスで提供される現在時刻情報を重畳するように制御しても、前述と同様の効果が得られる。

【0302】

なお、前述のように、メディアトランスポート方式として M M T を採用した放送サービスのコンテンツに、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスで提供される現在時刻情報を重畳するように制御する場合と、メディアトランスポート方式として M P E G 2 - T S を採用した放送サービスのコンテンツに、メディアト

50

ランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスで提供される現在時刻情報を重畳するように制御する場合の、何れの場合においても、実施例1の[放送受信装置の時刻管理]での説明と同様に、前記TMC C拡張情報領域の時刻情報の『delta』パラメータを参照することにより、前記現在時刻情報を補正することが可能である。

【0303】

[放送受信装置のEPG表示]

メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスのイベントスケジュール情報はMH-EIT等により伝送される。一方、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスのイベントスケジュール情報はMPEG-2システムに規定されたSIが備えるEIT(Event Information Table)等により伝送される。従って、一般的には、メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスで提供される映像情報等の表示を行っている際には、前記MMTを採用した放送サービスのイベントスケジュール情報(MH-EIT)が取得可能であり、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスで提供される映像情報等の表示を行っている際には、前記MPEG2-TSを採用した放送サービスのイベントスケジュール情報(EIT)が取得可能である。

10

【0304】

しかしながら、本実施例の放送受信装置800は、メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスで提供される映像情報等の表示を行っている際にも、或いは、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスで提供される映像情報等の表示を行っている際にも、前記MH-EITと前記EITの双方を取得可能とし、ユーザにとっての使い勝手を向上させている。

20

【0305】

図27Aに、本実施例の放送受信装置800におけるEPG画面の一例を示す。図中、EPG画面162iはメディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスのMH-EITに基づいて作成されたEPG画面であり、『M1テレビ』、『M2放送』、『M3チャンネル』、『M4TV』、『テレビM5』等は、それぞれメディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスの放送局名称であるものとする。また、EPG画面162jはメディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスのEITに基づいて作成されたEPG画面であり、『T6テレビ』、『T7放送』、『T8チャンネル』、『T9TV』、『テレビTA』等は、それぞれメディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスの放送局名称であるものとする。

30

【0306】

例えば、ユーザがメディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスで提供される放送番組を視聴中に、図示を省略したリモコンを操作してEPG画面の表示を指示すると、EPG画面の初期画面(図示省略)が表示される。前記EPG画面の初期画面は、メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスのMH-EITに基づいて作成されたEPG画面であり、『2014年10月7日(今日)』の『17時~(現在時刻の近隣)』の各チャンネルの放送番組の詳細情報が表示される。次に、ユーザが『2014年10月9日』の『20時~』の各チャンネルの放送番組の詳細情報を確認したいと所望し、図示を省略したリモコンを操作してEPG画面の更新を指示すると、EPG画面162iが表示される。

40

【0307】

更に、ユーザがメディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスで提供される放送番組の詳細情報を確認したいと所望し、図示を省略したリモコンを操作してネットワークの切り替えを指示すると、EPG画面162jが表示される。この際、本実施例の放送受信装置800においては、メディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスのEITに基づいて作成されたEPG画面の初期画面(即ち、『2014年10月7日』の『17時~』の各チャンネルの放送番組の詳細

50

情報)ではなく、直前に表示されていたEPG画面162iと同日同時間帯(即ち、『2014年10月9日』の『20時~』)の各チャンネルの放送番組の詳細情報を表示するように制御する。

【0308】

前述の制御により、ユーザは、メディアトランスポート方式の異なる複数のネットワークの同日同時間帯の放送番組に関する詳細情報を、簡便な操作で、連続的に、確認することが可能となる。即ち、放送受信装置800の使い勝手が向上する。

【0309】

図27Bは、本実施例の放送受信装置800におけるEPG画面の前述とは異なる一例を示す図である。EPG画面162kは、図27Aに示したEPG画面162iが表示された状態から、図示を省略したりリモコンの操作により、チャンネル方向(横方向)にスクロールさせた状態を示している。即ち、図27Bに示した例では、EPG画面をチャンネル方向(横方向)にスクロールさせることにより、メディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスのMH-EITに基づいて作成されたチャンネル情報とメディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスのEITに基づいて作成されたチャンネル情報とが、同一時間軸上でシームレスに表示される。

10

【0310】

従って、ユーザがメディアトランスポート方式としてMMTを採用した放送サービスのMH-EITに基づいて作成されたチャンネル情報の確認中にメディアトランスポート方式としてMPEG2-TSを採用した放送サービスのEITに基づいて作成されたチャンネル情報を確認したいと所望した場合においても、図示を省略したりリモコンの操作によるネットワークの切り替えの指示等を不要とすることができる。更に、ユーザは、メディアトランスポート方式の異なる複数のネットワークの同日同時間帯の放送番組に関する詳細情報を、同時に確認することが可能となる。即ち、放送受信装置800の使い勝手が向上する。

20

(実施例3)

【0311】

以下では、本発明の実施例3に関して説明する。なお、本実施例における構成及び効果等は特に断りのない限り実施例1から2と同様であるものとする。このため、以下では、本実施例と実施例1から2との相違点を主に説明し、共通する点については重複を避けるため極力説明を省略する。本実施例では、図18に示したレイアウト設定テーブル(LCT)によって設定される提示領域情報の取扱いについて説明する。

30

【0312】

[放送受信装置のハードウェア構成]

放送受信装置100のハードウェア構成については実施例1と同じであるので、説明を省略する。

【0313】

[番組データの構造]

図28に番組データの構造を示す。番組データは、映像、音声、番組連携情報等の放送受信装置100に提示する情報(アセット30003)と、制御情報からなる。なお、番組連携情報には、番組映像に合わせて提示するための、文字情報、図形情報、画像情報、又は映像情報などが格納されている。図28には制御情報のうち、アセット30003の提示方法、取得先情報を記載するPAメッセージ30000を示している。アセット30003の取得先は、PAメッセージ30000(図30)内のMPテーブル(MPT)30001(図17)に、MMT_general_location_info(図31)として記載される。また、PAメッセージ30000内に、レイアウト設定テーブル(LCT)30100(図18)を配置し、各アセット30003を提示すべき領域のレイアウトを記載する。提示領域のレイアウトの例を図19Aから図19Dに示す。

40

【0314】

PAメッセージ30000内には、パッケージリストテーブル(PLT)30002(

50

図32)を配置し、PLT内のMMT_general_location_info(図31)により別のPAメッセージ30000の取得先を記載することができる。このPAメッセージ30000の取得先の指定により、PAメッセージ30000を階層構造にすることができる。なお、PAメッセージ30000やアセット30003の取得先のロケーションタイプを図33に示した。

【0315】

通常は、PAメッセージ30000の階層構造は、図28に示すように2階層までとするが、2番目の階層のPAメッセージ30000に更にPLT30002を配置して階層を増やすこともできる。

【0316】

アセットは処理単位となるMedia Processing Unit(MPU)から構成されるので(図29)、MPU提示領域指定記述子(図34)において、MPUの提示領域を指定することにより、アセット30003の提示領域を指定する。MPU提示領域指定記述子はMPTのアセット記述子領域に配置する。なお、MPU毎に提示領域を指定するので、同一アセット30003の提示領域を提示途中に変更する、という提示方法も可能である。なお、データ量を削減するために、アセットに属する全てのMPUに対して提示領域の指定をせず、先頭のMPUと、提示領域を変更するMPU群の先頭のMPUの提示領域のみ指定する、という制御方法も可能である。

【0317】

[アセット提示の動作例]

<動作例1>

放送受信装置100は、LCT30100を読み込むことにより提示領域情報を取得する。図16にチャンネル切り替え時の例として、放送受信装置100が番組の制御情報を取得するフローを示した。LCT30100はMPT30001と同じく、MMTPパケット内に配置されて送信されてくる。MPT30001内にアセット30003の提示領域の指定情報が記載されているので、LCT30100はMPT30001よりも先に取得されていることが好ましい。図16で示すと、S209とS210の間及び、S214とS215の間のステップとして取得されることが好ましい。なお、前記タイミングでの取得ができなかった場合であっても、S216の前にLCTを取得しておくことができれば、同様に好ましい。

【0318】

LCT30100は、PAメッセージ30000内に配置されるが、第2階層目のPAメッセージに対応するアセット30003に関するLCT30100に関しては、一階層目のPAメッセージ30000内か、2階層目のPAメッセージ30000内に配置する。アセット30003の提示においては、提示対象のアセット30003の属するPAメッセージ30000内に配置されるLCT30100の提示領域情報を優先して使用する。属するPAメッセージ30100内にLCT30100が配置されていない場合は、上位階層のPAメッセージ30100内に配置されるLCT30100の提示領域情報を使用する。

【0319】

この動作例の方法を用いることにより、図28の番組データ全体で、同一のLCT30100を用いる場合、第1階層目のPAメッセージ30000内に共通のLCT30100を配置しておけば、早いタイミングで提示領域情報を取得できるので、速やかな番組データの提示が可能となる。

【0320】

<動作例2>

LCT30100がMMTPパケット内に含まれていない場合は、それまでに取得したLCT30100の提示領域情報を使用する。つまり、放送受信装置は、LCT30100の提示領域情報を記憶しておき、新しいLCT30100を取得する都度、記憶していた提示領域情報を更新する。

10

20

30

40

50

【0321】

しかしながら、電源投入時や、チャンネル変更時等のそれまでに使用していた提示領域情報が無効になるイベント発生直後は、まだ有効な提示領域情報がないため、例えば番組の映像データや音声データを取得していてもそのデータの提示ができない可能性がある。そのため、有効な提示領域情報を取得するまでは、仮の提示領域情報として、例えば、図19Aに示した提示領域が設定されているものとして提示処理を行う。図19Aの設定を以下デフォルト設定と呼ぶ。デフォルト設定(図19A)に示した提示領域とは、`device_id`が0のデバイス、即ちメインデバイスに対し、全画面表示の領域を設定し、`layout_number`に0、`region_number`に0、`layer_order`に0を割り当てる。

10

【0322】

図35Aが、仮の提示領域情報を使用して、メインアセット30201のみ提示している状態で、図35BがLCT30100を取得後、番組本来の提示領域情報に従って、サブアセット30202も含めた提示を行っている状態である。仮の提示領域情報を使用する場合は、メインアセットの提示領域指定は無視して、`layout_number`が0で、`region_number`が0の領域が指定されたものとし、他のアセットの提示は行わない。なおここで、メインアセットとは、メインデバイスの`region_number`0を指定しているアセット或いは、放送波で伝送されるアセットで`region_number`0を指定しているアセットを意味し、サブアセットとはそれ以外のアセットを意味する。

20

【0323】

このように仮の提示領域情報を設定することにより、LCT30100の情報が読み込まれる前であっても、少なくともメインアセットの提示処理は行うことができるようになる。

【0324】

<動作例3>

動作例2では、チャンネル変更時等に、新しいLCT30100を取得するまでは、デフォルトの提示領域情報を使用してメインアセットのみを提示する例を示したが、それまでに視聴していた番組で使用していたLCT30100を使用しても構わない。それまで使用していた提示領域情報の`region_number`が0の領域にチャンネル変更後の番組で`region_number`が0の領域に指定されるアセット(メインアセット)を提示し、それ以外のアセット(サブアセット)は表示しない。

30

【0325】

チャンネル変更後の番組のLCT30100を取得後は、その提示領域情報を使用して全てのアセットの提示を行う。また、前記それまでに視聴していた番組で使用していたLCT30100が、図19Bに示したような表示領域を分割するものである場合には、動作例2の処理を行い、前記それまでに視聴していた番組で使用していたLCT30100が、図19Cに示したようなオーバーレイ表示をするものであれば、動作例3の処理を行うようにしても良い。また、前記それまでに視聴していた番組で使用していたLCT30100が、`region_number`が1以降の領域を有していた場合に、前記領域に

40

【0326】

このようにそれまで視聴していた番組の提示領域情報を使用することにより、LCT30100の情報が読み込まれる前であっても、少なくともメインアセットの提示処理は行うことができるようになる。

【0327】

<動作例4>

チャンネル変更後に元のチャンネルに戻す場合もあるので、一度読み込んだLCT30100の情報をチャンネル情報と関連付けて記憶しておき、チャンネルを戻した際に、記憶していた提示領域情報を使用するという方法でも良い。なお、放送受信装置100で受

50

信可能な全てのチャンネルに関して、それぞれ最も新しいLCT30100を記憶しておく、チャンネル変更の際の提示領域制御に関する利便性が向上する。

【0328】

また、番組途中であっても提示領域情報を変更する場合もあるので、LCT30100に有効期限を設定しておき、チャンネルを戻した時点で有効期限を過ぎていた場合は、その提示領域情報は使用せず、動作例2又は動作例3に示した方法で、デフォルトの設定を用いるか、それまで視聴していた番組の提示領域情報を用いてメインアセットのみを提示する。或いは、そのチャンネルの有効期限切れの提示領域情報を用いてメインアセットのみ提示しても構わない。もちろん新しいLCT30100を取得後は、通常の設定方法に戻す。なお、前記制御は、前記有効期限の参照により行っても良いが、有効期限の情報が代替してversionを参照することにより行っても良い。

10

【0329】

LCT30100に有効期限を設定した例を図36Aに示す。LCT有効期限記述子中にNTP長形式にて設定する(ending_time)。記述子は、LCT30100(図18)の記述子領域に配置する。

【0330】

或いは、図36Bにレイアウト有効期限記述子として示すように、レイアウト毎に有効期限を設定しても構わない。

【0331】

或いは、図36Cに提示領域有効期限記述子として示すように、領域毎に有効期限を設定しても構わない。

20

【0332】

単独の階層での有効期限の設定でも良いし、複数の階層での有効期限の設定でも良い。複数の階層で有効期限を設定する際、領域毎により早い有効期限を優先する。

【0333】

この方法により、一度取得した提示領域情報を、有効期限を考慮しながら有効に利用することができる。

【0334】

<動作例5>

動作例4では、一度読み込んだ番組の提示領域情報を記憶しておいたが、チャンネル内の複数の番組に共通で用いる提示領域情報(共通提示領域情報)をチャンネル毎に準備しておき、放送受信装置100で予めその共通提示領域情報を取得しておき、各番組でその共通提示領域情報を使用する、という方法でも良い。

30

【0335】

共通提示領域情報はLCT(図18)の形式で予め放送受信装置100が取得しておく。共通提示領域情報であることを示すために、図37に示した共通提示領域記述子を用いる。この記述子をLCT(図18)の記述子領域に配置し、共通提示領域であるレイアウト番号をデバイス番号と共に列挙する。service_idが放送のチャンネルを表す。更に、共通提示領域情報の有効期間の開始時刻(beginning_time)と終了時刻(ending_time)をNTP長形式にて記載する。また、情報更新の際に全ての情報が揃っていることを確認できるよう、full_set_flagも記載する。full_set_flagの意味は図38にまとめた。

40

【0336】

この共通提示領域情報は、一日に一度とか、一週間に一度とかの周期で、例えば、放送時間外の時間帯等で読み込むことにすれば良い。また、放送波から取得しても良く、インターネット経由で取得しても構わない。

【0337】

なお、共通提示領域情報を読み込んでいない場合のために、番組データでは、その番組で使用する共通提示領域情報をLCT30100として送信する。その際、共通提示領域記述子のfull_set_flagにて、共通提示領域情報の一部分の情報であること

50

を示す。

【0338】

この、共通提示領域情報を利用すれば、放送受信装置100の電源投入直後や番組切り替え直後のLCT30100取得前のタイミングであっても、速やかにアセット30003の提示を行うことができる。

【0339】

<動作例6>

動作例5において共通提示領域情報を利用する方法を示したが、共通提示領域情報が放送波又はインターネットで伝送されているチャンネルであっても、番組によっては、共通提示領域情報に記載されていないレイアウトの提示領域を使用しても良い。

10

【0340】

具体的には、当該番組のLCT30100で、共通提示領域情報に記載されていないレイアウトの情報を記載すれば良い。その際共通提示領域記述子(図37)で共通提示領域であるレイアウト番号が記載されるので、放送受信装置100ではLCT30100に共通提示領域ではない追加の提示領域情報があるか否かを把握し、ある場合にその情報を使用する。この際、当該提示領域のレイアウト番号と領域番号が共通提示領域情報と重複するものがある場合、どちらの情報を優先するかは予め決めておく。即ち、放送システムによっては、放送受信装置100が共通提示領域情報を優先するように構成しても良い。また、放送システムによっては、放送受信装置100が番組個別の提示領域情報を優先するように構成しても良い。

20

【0341】

更に、LCT30100に共通提示領域記述子(図37)が配置されていない場合は、LCT30100に記載された提示領域情報は、全て共通領域情報ではないと指定したものと扱う。

【0342】

なお、この番組個別の追加提示領域情報は、放送波から取得しても良いが、放送波からでなくインターネット経由で取得しても構わない。

【0343】

この方法によれば、共通提示領域情報を利用しつつ、番組毎に最適化した提示領域情報を使用することができる。

30

【0344】

<動作例7>

アセット30003の提示は1つの提示領域に行うが、臨時ニュースのように、できるだけ多くの端末に表示を行った方が良い場合は、同一内容をその時点で利用可能な端末全てで提示を行った方が良い。

【0345】

具体的方法としては、重複提示領域指定記述子(図39)においてメインデバイス(Device_idが0のデバイス)のレイアウト設定のうち、他のデバイスでも同じ領域設定を行うlayout_numberを記載する。この記述子はLCT30100(図18)の記述子領域に配置する。

40

【0346】

図40に、メインデバイス(放送受信装置100)の他、サブデバイス(携帯情報端末700)に同内容の画面を提示した例を示す。

【0347】

なお、臨時ニュース終了後に元の番組に戻ったときのために、元の番組で使用していた提示領域情報を記憶しておき、臨時ニュース終了後にその情報を使用するようにしても良い。

【0348】

この方法により、緊急性の高い重要な情報の認知性が高まる。

【0349】

50

< 動作例 8 >

各アセット 3 0 0 0 3 の提示領域は、MPU 提示領域指定記述子 (図 3 4) により、`layout_number` (レイアウト番号) と `region_number` (領域番号) の指定によりなされる。このレイアウト番号と領域番号に対応する提示領域情報がない場合は、提示ができないので、当該アセット 3 0 0 0 3 の提示は行わない。しかるに、異常のあったアセット 3 0 0 0 3 が画面の一部の領域に提示されるものである場合、表示異常となっていることが一見して分からない場合がある。従って、提示できないアセット 3 0 0 0 3 が発生した場合は、図 4 1 のようなエラー表示を行う。

【 0 3 5 0 】

この方法により、正常に表示が行われていないことを視聴者が認識することができる。

10

【 0 3 5 1 】

< 動作例 9 >

動作例 8 では、提示領域情報がない提示領域を指定した場合の動作を説明したが、異なるアセット 3 0 0 0 3 が同一の提示領域を指定した場合の動作について説明する。何らかのコンテンツの表示を行うアセットの場合、同一の提示領域に表示できないので、異なるアセット 3 0 0 0 3 で、同一の提示領域を同時に指定してはならない。もしも、同時に指定された場合は、放送波で伝送されるアセットを優先する。或いは、最初にそのレイアウト番号と領域番号を使用していたアセット 3 0 0 0 3 の提示を継続し、後から指定したアセット 3 0 0 0 3 の提示を禁止する。或いは、領域指定が重複したアセット 3 0 0 0 3 全ての提示を禁止する。提示できないアセット 3 0 0 0 3 が発生した場合は、図 4 1 のようなエラー表示を行っても良い。

20

【 0 3 5 2 】

ただし、例えば、映像アセットで、付加的なアセットの情報を付け加えて高階調化する場合など、異なるアセット 3 0 0 0 3 で同一提示領域を指定することはありうる。複数のアセットが、1つのコンテンツを構成するような相補的關係にあることを示すために、依存関係記述子の情報を用いる。依存関係記述子のデータ構造を図 4 2 に示す。この依存関係がある場合は、同一提示領域を指定した場合でも提示を許可する。

【 0 3 5 3 】

アセット 3 0 0 0 3 の提示領域指定を管理するために、どのアセット 3 0 0 0 3 がどの提示領域を指定しているかの管理テーブルを使用しても良い。図 4 3 に管理テーブルの例を示す。アセット ID が 1 と 3、アセット ID 2 と 4 のアセット 3 0 0 0 3 は依存関係があるので、同一領域を指定しても表示を許可する。一方、アセット ID 7 のアセット 3 0 0 0 3 は映像アセットであり、依存関係なく、アセット ID 0 と同一領域を指定しているので、提示を禁止する。

30

【 0 3 5 4 】

なお、アセット ID 1 のアセット 3 0 0 0 3 は放送波で伝送されるので、こちらを優先する。また、アセット ID 8 のアセット 3 0 0 0 3 は同じ取得先のアセット ID 7 のアセット 3 0 0 0 3 が提示禁止となったので、アセット ID 7 の対になっている音声である可能性が高いので、同じく提示禁止とする。また、アセット ID 2、4、6、8 のアセットは音声アセットであり、音声アセットはモニタ部 1 6 2 における提示処理に直接関連しないので、前記管理テーブルでの管理を必ずしも行わなくとも良い。即ち、映像アセットのみを前記管理テーブルで管理するようにしても良い。

40

【 0 3 5 5 】

このように、提示の制御を行うことにより、制御情報に不整合がある場合に異常な提示がなされることを防止できる。

【 0 3 5 6 】

< 動作例 1 0 >

アセット 3 0 0 0 3 の依存関係には、依存する複数のアセット 3 0 0 0 3 が揃わなければコンテンツとして完成しない並列関係になる場合と、主体的なアセット 3 0 0 0 3 に対して、高画質化のためのデータを別のアセット 3 0 0 0 3 で与える場合など、従属関係に

50

なる場合がある。主体的なアセット30003は単独でも提示が可能であるが、従属的なアセット30003は主体的なアセット30003が存在しない場合は提示が異常になる可能性が高いので、従属する先のアセット30003が取得できない場合は、従属的なアセット30003の提示は禁止する。なお、従属的なアセット30003に更に別のアセット30003が従属する多階層の構造をとっても良い。

【0357】

従属関係を指定するためには、依存関係記述子(図42)に記載されるアセット30003が従属先のアセット30003を示すのか、当該アセットに従属するアセット30003を示すのか、予め決めておけば良い。なお、並列関係にあるアセット30003の場合は、双方が他方に依存するとして依存関係記述子(図42)を配置する。

10

【0358】

従属関係を指定する別の方法としては、依存関係記述子(図42)に従属関係を明示する方法を使用しても良い。従属関係を明示するようにした依存関係記述子を図44に示す。依存関係にあるアセットに対する依存の型を示す `dependency_type` というパラメータを指定する。`dependency_type`の意味を図45に示す。0が相手に従属する場合、1が相手から従属される場合である。並列関係にある場合は、それぞれ他方のアセットに従属する、として指定を行う。

【0359】

提示の許可・禁止の管理表の例を図46に示す。ID3と4のアセットは、ID1と2に従属するが、ID1と2のアセットが取得されているので、提示が許可される。一方、9と10のアセットは、従属先であるID7と8のアセットが取得されていないので、提示が禁止される。

20

【0360】

ID11と12のアセットは相互従属関係にあるが、両者が揃っているので提示が許可される。一方、ID13と14のアセットも相互従属関係にあるが、ID14のアセットが取得できていないため、ID13のアセットの提示は禁止される。なお、提示できないアセット30003が発生した場合は、図41のようなエラー表示を行っても良い。

【0361】

このように、従属関係を考慮しながら提示の制御を行うことにより、制御情報に不整合がある場合に異常な提示がなされることを防止できる。

30

【0362】

<動作例11>

放送受信装置100は、放送波から取得したアセット30003と、通信回線(インターネット)から取得したアセット30003の両方を提示することができるが、通信回線の状態によっては、通信回線経由のアセット30003を取得できないか、そもそも放送受信装置100が、通信回線に接続されていないこともありうる。そこで、通常は、デフォルト設定(図19A)を用いて放送波の放送映像のみを全画面表示し、通信回線経由のアセット30003が取得された場合に、LCT30100の設定に従って指定された領域でアセット30003の提示を行うようにしても良い。

【0363】

40

例えば、LCT30100の領域設定が図19Bのようであり、放送映像が領域0に提示されるように設定され、通信回線経由のアセット30003が領域1、領域2で提示されるように設定されている場合で説明する。放送波映像のみ受信できている場合は、デフォルト設定(図19A)を使用して放送映像を全画面表示し、通信回線経由のアセット30003が取得できるようになった時点で、LCT30100の領域設定を使用し、放送映像は図19Bの領域0に提示し、通信回線経由のアセット30003を領域1、領域2に提示する。この場合、放送波ではLCT30100は送信せず、通信回線経由のアセット30003と共に送信することでもかまわない。この動作例の方法を用いることにより、実際の番組データの受信状況に応じた表示が可能となる。なお、通信回線経由のアセット30003のうち一方のみが取得完了し、他方が未取得の場合には、デフォルトの設定

50

(図19A)のままとして良い。双方の通信回線経路のアセット30003が揃った時点で図19Bの領域設定に移行するように制御することが望ましい。

【0364】

以上、本発明の実施形態の例を、実施例1~3を用いて説明したが、本発明の技術を実現する構成は前記実施例に限られるものではなく、様々な変形例が考えられる。例えば、ある実施例の構成の一部を他の実施例の構成と置き換えることが可能であり、また、ある実施例の構成に他の実施例の構成を加えることも可能である。これらは全て本発明の範疇に属するものである。また、文中や図中に現れる数値やメッセージ等もあくまでも一例であり、異なるものを用いても本発明の効果を損なうことはない。

【0365】

前述した本発明の機能等は、それらの一部又は全部を、例えば、集積回路で設計する等によりハードウェアで実現しても良い。また、マイクロプロセッサユニット等がそれぞれの機能等を実現する動作プログラムを解釈して実行することによりソフトウェアで実現しても良い。ハードウェアとソフトウェアを併用しても良い。

【0366】

なお、放送受信装置100を制御する前記ソフトウェアは、製品出荷の時点で予め放送受信装置100のROM103及び/又はストレージ(蓄積)部110等に格納された状態であっても良い。製品出荷後にインターネット200上のその他のアプリケーションサーバ500等からLAN通信部121を介して取得するものであっても良い。また、メモリカードや光ディスク等に格納された前記ソフトウェアを、拡張インタフェース部124

10

20

【0367】

また、図中に示した制御線や情報線は説明上必要と考えられるものを示しており、必ずしも製品上の全ての制御線や情報線を示しているとは限らない。実際にはほとんど全ての構成が相互に接続されていると考えても良い。

【符号の説明】

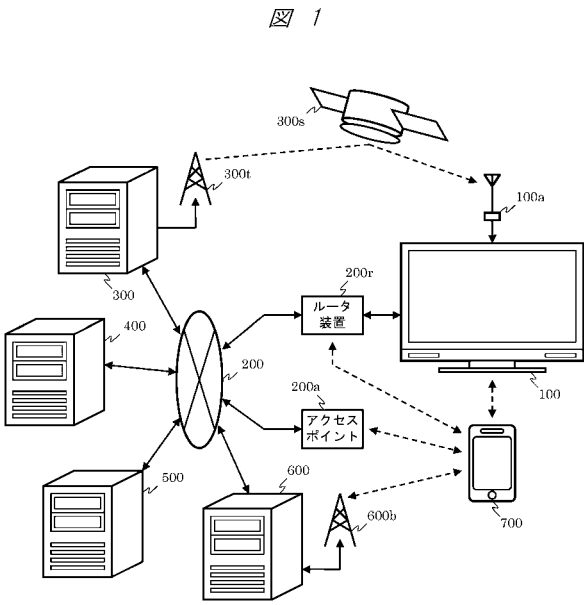
【0368】

100, 800...放送受信装置、100a...アンテナ、101, 801...主制御部、102, 802...システムバス、103, 803...ROM、104, 804...RAM、110, 810...ストレージ部、121, 821...LAN通信部、124, 824...拡張インタフェース部、125, 825...デジタルインタフェース部、131, 831, 832...チューナ/復調部、132...分離部、141...映像デコーダ、142...映像色域変換部、143...音声デコーダ、144...文字スーパーデコーダ、145...字幕デコーダ、146...字幕合成部、147...字幕色域変換部、151...データデコーダ、152...キャッシュ部、153...アプリケーション制御部、154...ブラウザ部、155...アプリケーション色域変換部、156...音源部、161, 861...映像合成部、162, 862...モニタ部、163, 863...映像出力部、164, 864...音声合成部、165, 865...スピーカ部、166, 866...音声出力部、170, 870...操作入力部、841...MMTデコード処理部、842...MPEG2-TSデコード処理部、200...インターネット、200r...ルータ装置、200a...アクセスポイント、300t...電波塔、300s...放送衛星(又は通信衛星)、300...放送局サーバ、400...サービス事業者サーバ、500...その他のアプリケーションサーバ、600...移動体電話通信サーバ、600b...基地局、700...携帯情報端末。

30

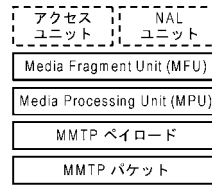
40

【 図 1 】



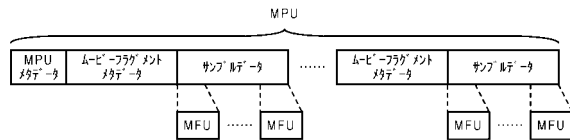
【 図 2 A 】

図 2A



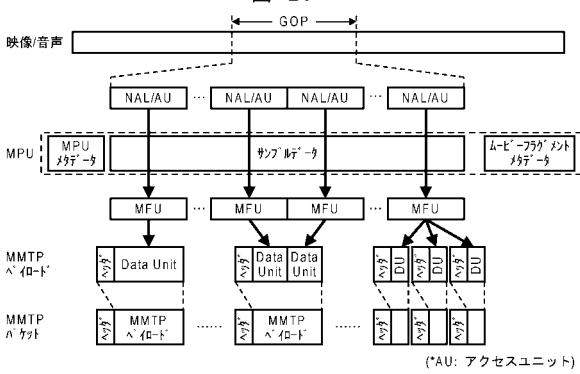
【 図 2 B 】

図 2B



【 図 2 C 】

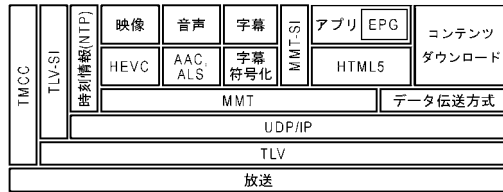
図 2C



【 図 3 】

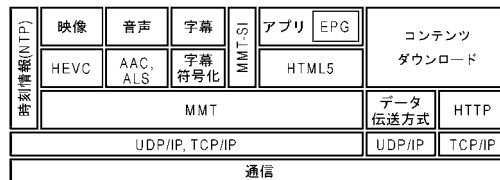
図 3

(A)



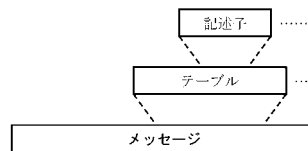
(*TMCC: Transmission and Multiplexing Configuration Control)

(B)



【 図 4 】

図 4



【 図 5 A 】

図 5A

テーブル名	機能の概要
TLV川ネットワーク情報テーブル (Network Information Table for TLV)	TLVパケットによる伝送において、変調周波数など伝送路の情報と放送番組に関連付ける情報を伝送する。
アドレスマップテーブル (Address Map Table)	放送番組番号を識別するサービス識別子とIPパケットとを関連付ける情報を伝送する。
事業者が設定するテーブル	

【 図 5 B 】

図 5B

記述子名	機能の概要
サービスリスト記述子 (Service List Descriptor)	編成チャンネルとその種別の一覧の記述。
衛星分配システム記述子 (Satellite Delivery System Descriptor)	衛星伝送路の物理的条件的記述。
システム管理記述子 (System Management Descriptor)	放送/非放送などの識別。
ネットワーク名記述子 (Network Name Descriptor)	ネットワーク名の記述。
事業者が設定する記述子	

【 図 6 A 】

図 6A

メッセージ名	機能の概要
Package Access(PA)メッセージ	MMT-SIのエントリポイントとなり、MMT-SIのテーブルを伝送する。
M2セクションメッセージ	MPEG-2 Systemsのセクション拡張形式を伝送する。
CAメッセージ	限定受信方式に関する情報を伝送する。
M2短セクションメッセージ	MPEG-2 Systemsのセクション短形式を伝送する。
データ伝送メッセージ	データ伝送に関するテーブルを伝送する。
事業者が設定するメッセージ	

【 図 6 C 】

図 6C

記述子名	機能の概要
アセットグループ記述子	アセットのグループ関係とグループ内での優先度を提供する。
イベントパッケージ記述子	番組を表すイベントとパッケージの対応を提供する。
背景色指定記述子	レイアウト指定における背景面の背景色を指定する。
MPU 提示領域指定記述子	MPU の提示位置を提供する。
MPU タイムスタンプ記述子	MPU の提示時刻を提供する。
依存関係記述子	依存関係にあるアセットのアセット ID を提供する。
アクセス制御記述子	限定受信方式を識別する。
スクランブル方式記述子	スクランブルサブシステムを識別する。
メッセージ認証方式記述子	メッセージ認証方式を識別する。
緊急情報記述子(MH)	緊急警報信号としての必要な情報及び機能の記述を提供する。
MH-MPEG-4 オーディオ記述子	MPEG-4 オーディオストリームの符号化パラメータを特定するための基本情報を記述する。
MH-MPEG-4 オーディオ拡張記述子	MPEG-4 オーディオストリームのプロファイルとレベル及び符号化方式固有の設定を記述する。
MH-HEVC ビデオ記述子	[ITU-T勧告 H.265 ISO/IEC 23008-2 の映像ストリーム (HEVC ストリーム) の基本的な符号化パラメータを記述する。
MH-リンク記述子	他の編成チャンネルとの関連付けを記述する。
MH-イベントグループ記述子	複数イベントのグループ化情報を記述する。
MH-サービスリスト記述子	編成チャンネルとその種別の一覧を記述する。
MH-短形式イベント記述子	番組名と番組の簡単な説明を記述する。
MH-拡張形式イベント記述子	番組に関する詳細情報を記述する。
映像コンポーネント記述子	番組要素信号のうち映像信号に関するパラメータ、説明などを記述する。
MH-ストリーム識別記述子	個々の番組要素信号の識別に用いる。
MH-コンテンツ記述子	番組ジャンルを記述する。
MH-ハイレゾレンダリング記述子	視聴許可年齢制限を記述する。
MH-音声コンポーネント記述子	番組要素のうち音声信号に関するパラメータを記述する。
MH-対象地域記述子	対象とする地域を記述する。
MH-シリーズ記述子	複数イベントにまたがるシリーズ情報を記述する。
MH-SI 伝送パラメータ記述子	SI 伝送のパラメータ(周期グループや再送周期等)を記述する。
MH-ブロードキャスト名記述子	ブロードキャスト名を記述する。
MH-サービス記述子	編成チャンネル名とその事業者名を記述する。
IP データフロー記述子	サービスに含まれる IP データフローの情報を記述する。

【 図 6 B 】

図 6B

テーブル名	機能の概要
MMT パッケージテーブル (MMT Package Table)	アセットのリストやその位置などパッケージを構成する情報を考える。
パッケージリストテーブル (Package List Table)	放送サービスとして提供される MMT パッケージの PA メッセージを伝送する IP データフロー及びパケット ID、また、IP サービスを伝送する IP データフローの一覧を示す。
レイアウト設定テーブル (Layout Configuration Table)	提示のためのレイアウト情報をレイアウト番号に対応付けるために用いる。
ECM (Entitlement Control Message)	番組情報(番組に関する情報とデスクランブルのための鍵など)及び制御情報を含む共通情報を伝送する。
EMM (Entitlement Management Message)	加入者毎の契約情報や共通情報の暗号を解くためのワーク鍵などを含む個別情報を伝送する。
CA テーブル(MH) (Conditional Access Table)	限定受信方式に関する記述子を伝送する。
DCM (Download Control Message)	ダウンロードのための伝送路暗号を復号するための鍵などからなる鍵関連情報を伝送する。
DCM (Download Management Message)	DCM の暗号を解くためのダウンロード鍵などからなる鍵関連情報を伝送する。
MH-イベント情報テーブル (MH-Event Information Table)	番組の名称、放送日時、内容の説明など、番組に関する情報を伝送する。
MH-アプリケーション情報テーブル (MH-Application Information Table)	アプリケーションに関する動的制御情報及び実行に必要な付加情報を伝送する。
MH-ブロードキャスト情報テーブル (MH-Broadcaster Information Table)	ネットワーク上に存在するブロードキャストの情報を提示するために用いる。
MH-ソフトウェアダウンロードトリガータブル (MH-Software Download Trigger Table)	ダウンロードのサービス ID、スケジュール情報、更新対象の受信機種別などの告知情報を伝送する。
MH-サービス記述テーブル (MH-Service Description Table)	編成チャンネルの名称、放送事業者の名称など、編成チャンネルに関する情報を伝送する。
MH-タイムオフセットテーブル (MH-Time Offset Table)	現在の日付時刻の指示、及び、実際の時刻と人間系への表示時刻の差分時間を伝送する。
MH-共通データテーブル (MH-Common Data Table)	事業者ロゴマークなど、受信機で共通に必要であり、下播機性メモリに格納する事を前提としたデータを伝送する。
データディレクトリ管理テーブル (Data Directory Management Table)	アプリケーションを構成するファイルのディレクトリ構成を提供する。
データアセット管理テーブル (Data Asset Management Table)	アセット内の MPU の構成と MPU 毎のバージョン情報を提供する。
データコンテンツ管理テーブル (Data Content Configuration Table)	データコンテンツとしてのファイルの構成情報を提供する。
イベントメッセージテーブル (Event Message Table)	イベントメッセージに関する情報を伝送するために用いる。
事業者が設定するテーブル	

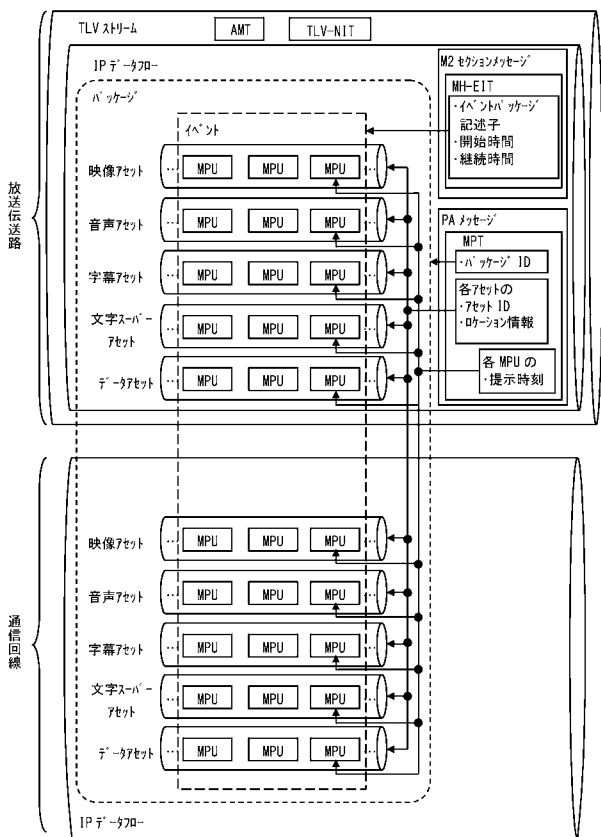
【 図 6 D 】

図 6D

記述子名	機能の概要
MH-CA 起動記述子	限定受信機能を持つ CAS プログラムの起動に関する情報を記述する。
MH-Type 記述子	アプリケーション伝送方式で伝送されるファイルの型を示す。
MH-Info 記述子	MPU またはアイテムに関する情報を記述する。
MH-Expire 記述子	アイテムの有効期限を記述する。
MH-Compression Type 記述子	圧縮して伝送するアイテムの圧縮アルゴリズムと圧縮前のアイテムのバイト数を示す。
MH-データ符号化方式記述子	データ符号化方式を識別するために使用する。
UTC-NPT 参照記述子	NPT と UTC の関係を伝送する。
イベントメッセージ記述子	イベントメッセージ一般に関する情報を伝送する。
MH-ローカル時間オフセット記述子	サマータイム制度実行時の、実際の時刻(UTC+9時間)と人間系への表示時刻との差分時間を記述する。
MH-コンポーネントグループ記述子	複数コンポーネントのグループ化情報を記述する。
MH-ロゴ伝送記述子	簡易ロゴ用文字列、CDT 形式のロゴのホーンティングなどを記述する。
MPU 拡張タイムスタンプ記述子	MPU 内のアクセスユニットの復号時刻等を提供する。
MPU ダウンロードコンテンツ記述子	MPU を用いてダウンロードされるコンテンツの属性情報を記述する。
MH-ネットワークダウンロードコンテンツ記述子	ネットワークを用いてダウンロードされるコンテンツの属性情報を記述する。
MH-アプリケーション記述子	アプリケーションの情報を記述する。
MH-伝送プロトコル記述子	伝送プロトコルの指定と伝送プロトコルに依存したアプリケーションのロケーション情報を記述する。
MH-簡易アプリケーションロケーション記述子	アプリケーションの取得先の詳細を記述する。
MH-アプリケーション境界権限設定記述子	アプリケーションバンドリの設定、領域(URL)毎の放送リソースアクセス権限の設定を記述する。
MH-起動優先情報記述子	アプリケーションの起動優先度を記述する。
MH-キャッシュ情報記述子	アプリケーションを構成するリソースをキャッシュし保持しておくキャッシュ制御の情報を記述する。
MH-確率的適用遅延記述子	アプリケーション制御を行うタイミングを確率的に遅らせる遅延量の設定を記述する。
リンク先 PU 記述子	リンク先プレゼンテーションユニットの情報を記述する。
ロックキャッシュ指定記述子	キャッシュし且つロックする対象のファイルの指定を記述する。
アンロックキャッシュ指定記述子	アンロックするファイルの指定を記述する。
事業者が設定する記述子	

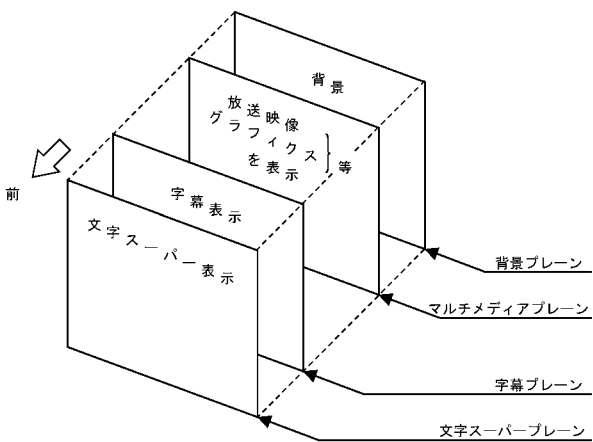
【図 6 E】

図 6E

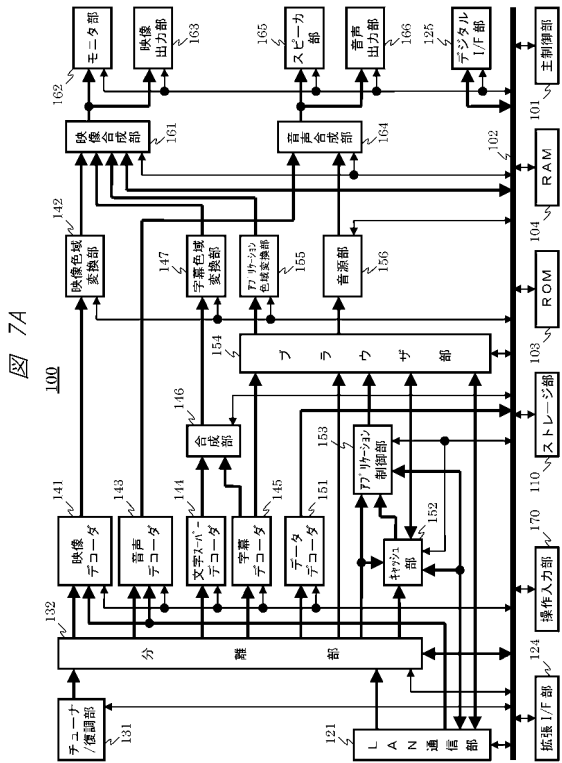


【図 7 B】

図 7B

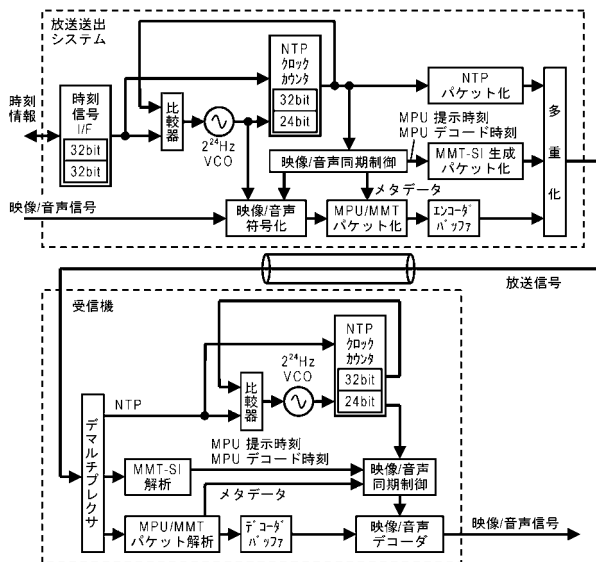


【図 7 A】

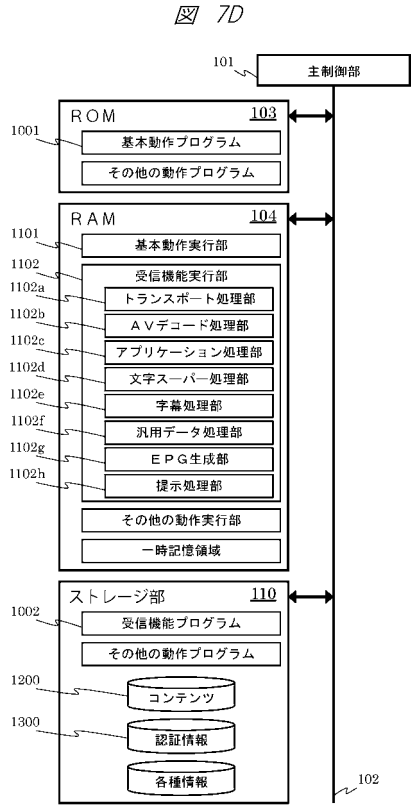


【図 7 C】

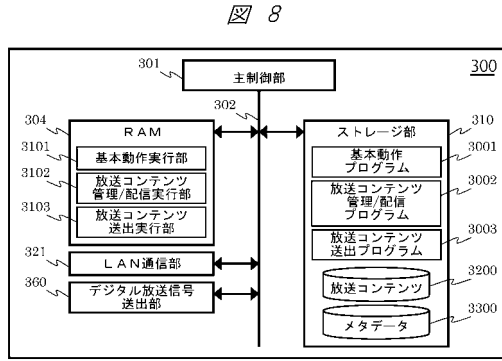
図 7C



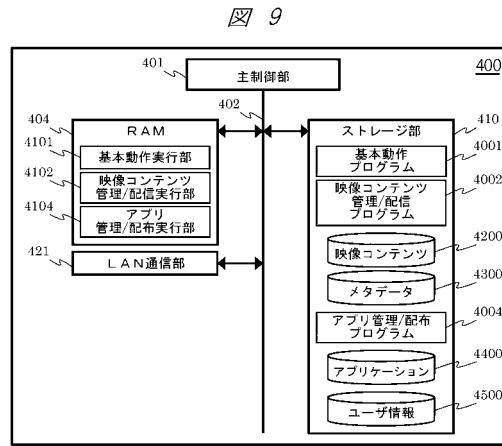
【図7D】



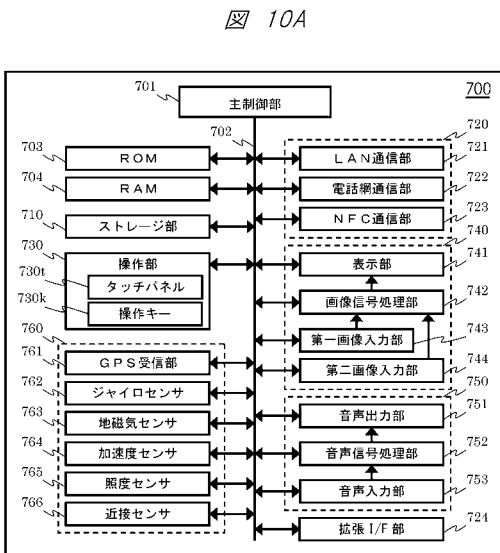
【図8】



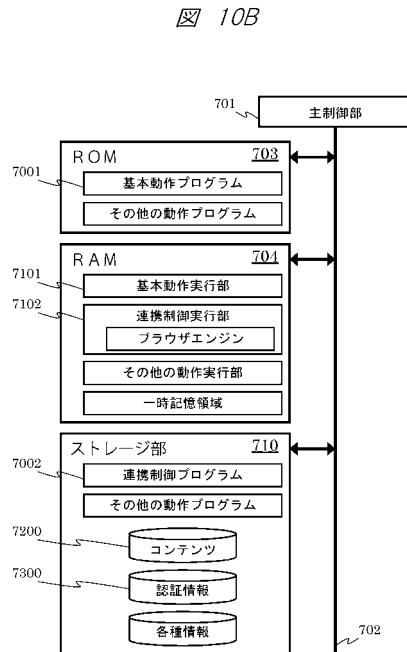
【図9】



【図10A】



【図10B】



【 図 1 1 A 】

図 11A

MH-TOT のデータ構造	ビット数	データ表記
MH_Time_Offset_Table()		
table_id	8	uimsbf
section_syntax_indicator	1	bslbf
reserved_future_use	1	bslbf
reserved	2	bslbf
section_length	12	uimsbf
JST_time	40	bslbf
reserved	4	bslbf
descriptors_loop_length	12	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
descriptor()		
}		
CRC_32	32	rpehof
}		

【 図 1 1 B 】

図 11B



【 図 1 2 】

図 12

第一の演算方法 (MJD が 32768 以上の場合)			
$Y = \text{int}[(\text{MJD} - 15078.2) / 365.25]$ $M = \text{int}[(\text{MJD} - 14956.1 - \text{int}(Y \times 365.25)) / 30.6001]$ $D = \text{MJD} - 14956 - \text{int}(Y \times 365.25) - \text{int}(M \times 30.6001)$			
但し、M = 14 or 15 の場合 : K = 1 それ以外の場合 : K = 0			
$Y = Y + K$ $M = M - 1 - K \times 12$			
<table border="1"> <tr><td>Y: 1900 年からの年数</td></tr> <tr><td>M: 月</td></tr> <tr><td>D: 日</td></tr> </table>	Y: 1900 年からの年数	M: 月	D: 日
Y: 1900 年からの年数			
M: 月			
D: 日			
第二の演算方法 (MJD が 32768 未満の場合)			
$Y = \text{int}[(\text{MJD} + 65536) - 15078.2) / 365.25]$ $M = \text{int}[(\text{MJD} + 65536) - 14956.1 - \text{int}(Y \times 365.25)) / 30.6001]$ $D = (\text{MJD} + 65536) - 14956 - \text{int}(Y \times 365.25) - \text{int}(M \times 30.6001)$			
但し、M = 14 or 15 の場合 : K = 1 それ以外の場合 : K = 0			
$Y = Y + K$ $M = M - 1 - K \times 12$			
<table border="1"> <tr><td>Y: 1900 年からの年数</td></tr> <tr><td>M: 月</td></tr> <tr><td>D: 日</td></tr> </table>	Y: 1900 年からの年数	M: 月	D: 日
Y: 1900 年からの年数			
M: 月			
D: 日			

【 図 1 3 C 】

図 13C

TMCC 拡張情報領域の時刻情報のデータ構造	ビット数	データ表記
TMCC_Time_Information ()		
reserved	6	bslbf
common_time_indicator	1	bslbf
extended_payload_indicator	1	bslbf
if(common_time_indicator==0){		
time_flag	16	bslbf
for(i=0; i<16; i++){		
delta	32	simsbf
transmit_timestamp	64	uimsbf
}		
}		
if(common_time_indicator==1){		
reserved	16	bslbf
delta	32	simsbf
transmit_timestamp	64	uimsbf
}		
next_extended_payload_indicator	16	uimsbf
}		

【 図 1 3 A 】

図 13A

NTP 形式の構成	ビット数	データ表記
Network_Time_Protocol_Data()		
leap_indicator	2	uimsbf
version	3	uimsbf
mode	3	uimsbf
stratum	8	uimsbf
poll	8	uimsbf
precision	8	uimsbf
root_delay	32	uimsbf
root_dispersion	32	uimsbf
reference_identification	32	uimsbf
reference_timestamp	64	uimsbf
origin_timestamp	64	uimsbf
receive_timestamp	64	uimsbf
transmit_timestamp	64	uimsbf
}		

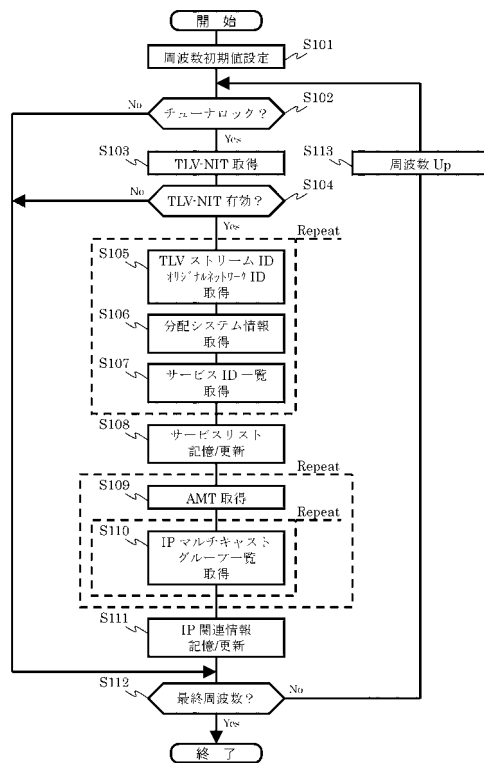
【 図 1 3 B 】

図 13B

MPU タイムスタンプ記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
MPU_Timestamp_Descriptor()		
descriptor_tag	16	uimsbf
descriptor_length	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
mpu_sequence_number	32	uimsbf
mpu_presentation_time	64	uimsbf
}		
}		

【 図 1 4 】

図 14



【 図 1 5 A 】

図 15A

TLV-NIT のデータ構造	ビット数	データ表記
TLV_Network_Information_Table{		
table_id	8	uimsbf
section_syntax_indicator	1	bslbf
'1'	1	bslbf
'11'	2	bslbf
section_length	12	uimsbf
network_id	16	uimsbf
'11'	2	bslbf
version_number	5	uimsbf
current_next_indicator	1	bslbf
section_number	8	uimsbf
last_section_number	8	uimsbf
reserved_future_use	4	bslbf
network_descriptors_length	12	bslbf
for(i=0; i<N; i++){		
descriptor()		
}		
reserved_future_use	4	bslbf
TLV_stream_loop_length	12	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
tlv_stream_id	16	uimsbf
original_network_id	16	uimsbf
reserved_future_use	4	bslbf
tlv_stream_descriptors_length	12	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
descriptor()		
}		
}		
CRC_32	32	rpchof
}		

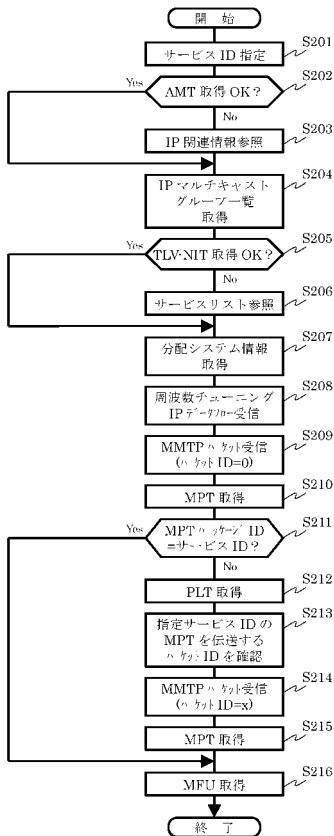
【 図 1 5 B 】

図 15B

衛星分配システム記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Satellite_Delivery_System_Descriptor{		
descriptor_tag	8	uimsbf
descriptor_length	8	uimsbf
frequency	32	bslbf
orbital_position	16	bslbf
west_east_flag	1	bslbf
polarisation	2	bslbf
modulation	5	bslbf
symbol_rate	28	bslbf
FEC_inner	4	bslbf
}		

【 図 1 6 】

図 16



【 図 1 5 C 】

図 15C

サービスリスト記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Service_List_Descriptor{		
descriptor_tag	8	uimsbf
descriptor_length	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
service_id	16	uimsbf
service_type	8	uimsbf
}		
}		

【 図 1 5 D 】

図 15D

AMT のデータ構造	ビット数	データ表記
Address_Map_Table{		
table_id	8	uimsbf
section_syntax_indicator	1	bslbf
'1'	1	bslbf
'11'	2	bslbf
section_length	12	uimsbf
table_id_extension	16	uimsbf
'11'	2	bslbf
version_number	5	uimsbf
current_next_indicator	1	bslbf
section_number	8	uimsbf
last_section_number	8	uimsbf
num_of_service_id	10	uimsbf
reserved_future_use	6	bslbf
for(i=0; i<num_of_service_id; i++){		
service_id	16	uimsbf
ip_version	1	bslbf
reserved_future_use	5	bslbf
service_loop_length	10	uimsbf
if(ip_version==0){		
src_address_32	32	bslbf
src_address_mask_32	8	uimsbf
dst_address_32	32	bslbf
dst_address_mask_32	8	uimsbf
}		
else if(ip_version==1){		
src_address_128	128	bslbf
src_address_mask_128	8	uimsbf
dst_address_128	128	bslbf
dst_address_mask_128	8	uimsbf
}		
for(j=0; j<M; j++){		
private_data_byte	8	bslbf
}		
}		
CRC_32	32	rpchof
}		

【 図 1 7 】

図 17

MPT のデータ構造	ビット数	データ表記
MMT_Package_Table{		
table_id	8	uimsbf
version	8	uimsbf
length	16	uimsbf
reserved	6	bslbf
MPT_mode	2	bslbf
MMT_package_id_length	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
MMT_package_id_byte	8	bslbf
}		
MPT_descriptors_length	16	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
MPT_descriptors_byte	8	bslbf
}		
number_of_assets	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
identifier_type	8	uimsbf
asset_id_scheme	32	uimsbf
asset_id_length	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
asset_id_byte	8	uimsbf
}		
asset_type	32	char
reserved	7	bslbf
asset_clock_relation_flag	1	bslbf
location_count	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
MMT_general_location_info()		
}		
asset_descriptors_length	16	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
asset_descriptors_byte	8	bslbf
}		
}		
}		

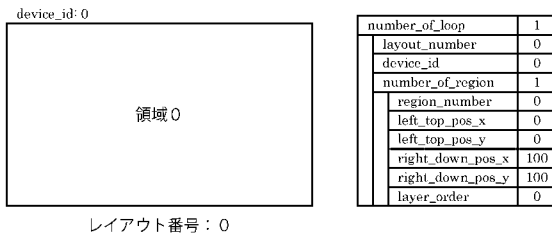
【図 18】

図 18

LCT のデータ構造	ビット数	データ表記
Layout_Configuration_Table0{		
table_id	8	uimsbf
version	8	uimsbf
length	16	uimsbf
number_of_loop	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
layout_number	8	uimsbf
device_id	8	uimsbf
number_of_region	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
region_number	8	uimsbf
left_top_pos_x	8	uimsbf
left_top_pos_y	8	uimsbf
right_down_pos_x	8	uimsbf
right_down_pos_y	8	uimsbf
layer_order	8	uimsbf
}		
}		
descriptor0		
}		

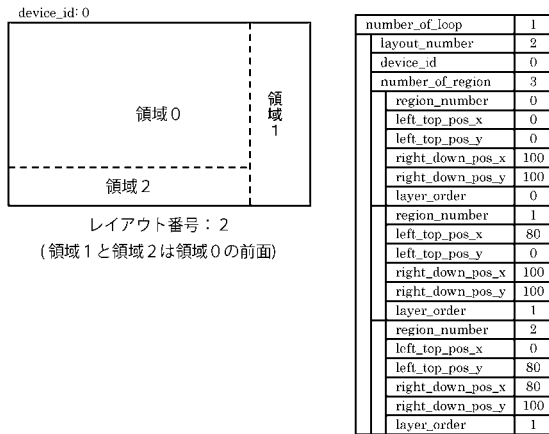
【図 19 A】

図 19A



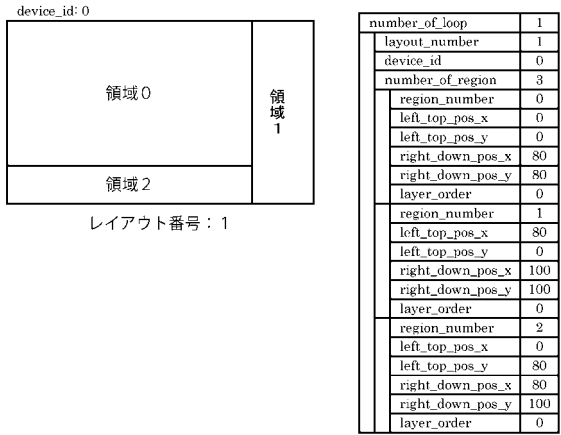
【図 19 C】

図 19C



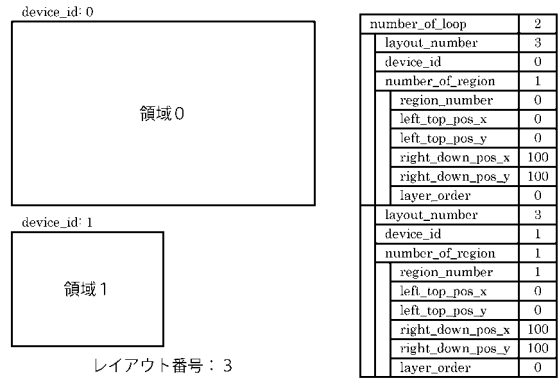
【図 19 B】

図 19B

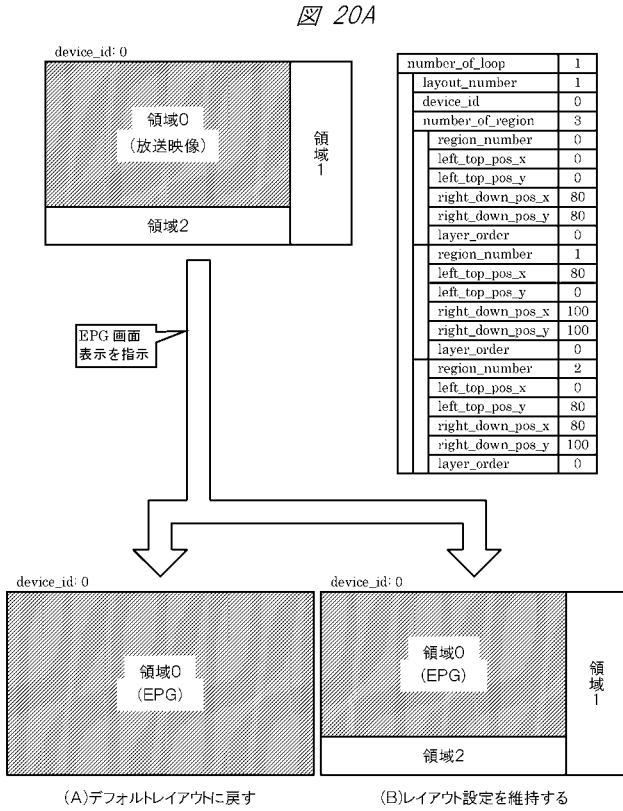


【図 19 D】

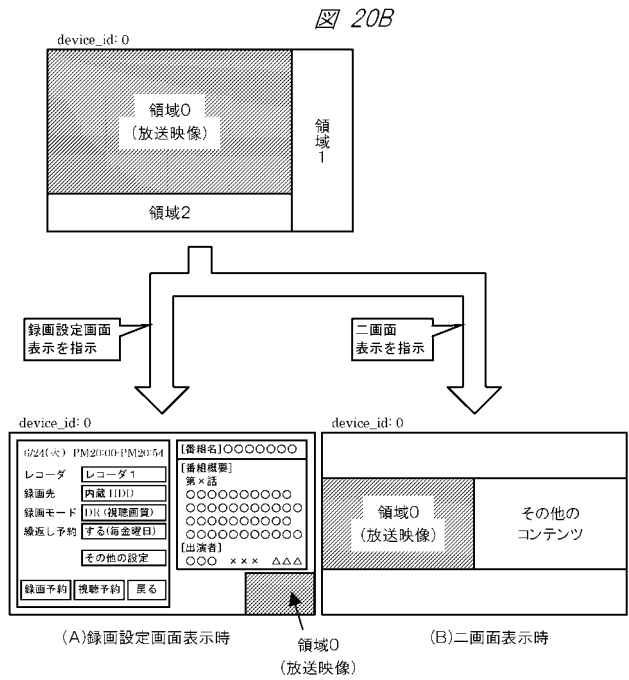
図 19D



【図20A】



【図20B】

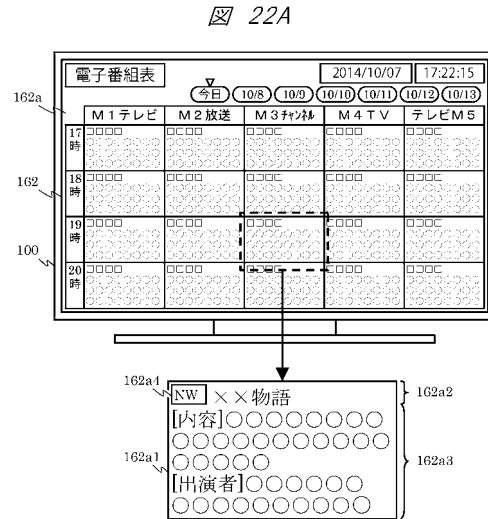


【図21】

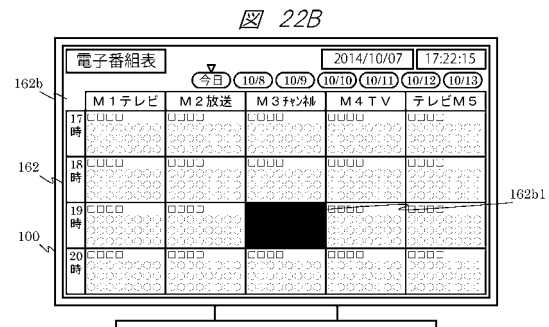
図 21

MH-EITのデータ構造	ビット数	データ表記
MH-Event_Information_Table0!		
table_id	8	uimsbf
section_syntax_indicator	1	bslbf
reserved_future_use	1	bslbf
reserved	2	bslbf
section_length	12	uimsbf
service_id	16	uimsbf
reserved	2	bslbf
version_number	5	uimsbf
current_next_indicator	1	bslbf
section_number	8	uimsbf
last_section_number	8	uimsbf
tv_stream_id	16	uimsbf
original_network_id	16	uimsbf
segment_last_section_number	8	uimsbf
last_table_id	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
event_id	16	uimsbf
start_time	40	bslbf
duration	24	uimsbf
running_status	3	uimsbf
free_CA_mode	1	bslbf
descriptors_loop_length	12	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
descriptor()		
}		
}		
CRC_32	32	rpchof

【図22A】

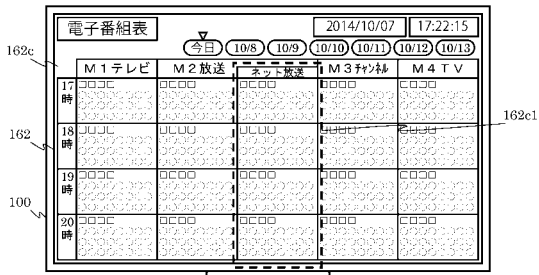


【図22B】



【図 2 2 C】

図 22C



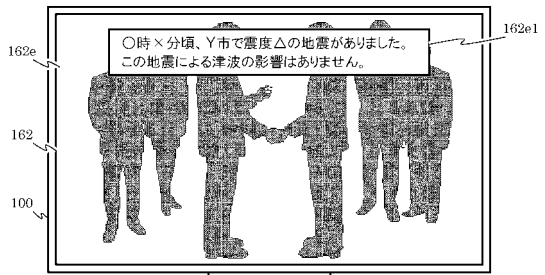
(A) ネットワーク接続有りの場合



(B) ネットワーク接続無しの場合

【図 2 3】

図 23



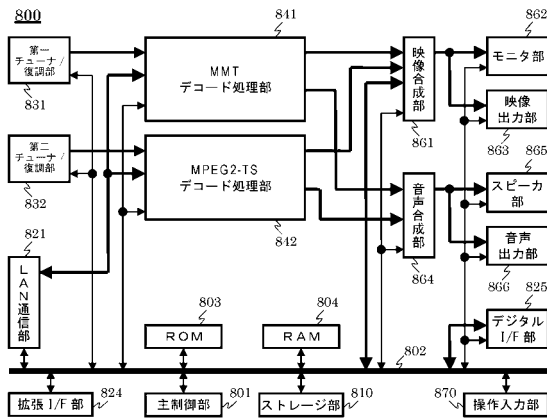
(A) 放送番組表示時の緊急放送表示



(B) EPG画面表示時の緊急放送表示

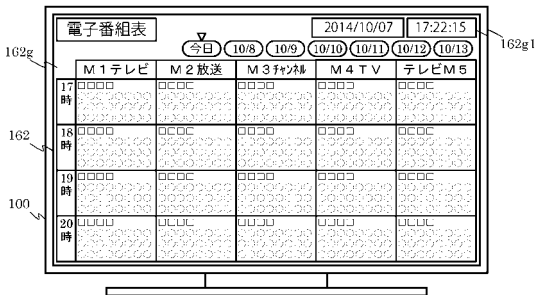
【図 2 4】

図 24

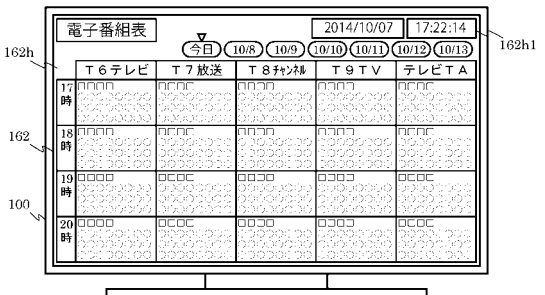


【図 2 5】

図 25



ネットワーク切替を指示



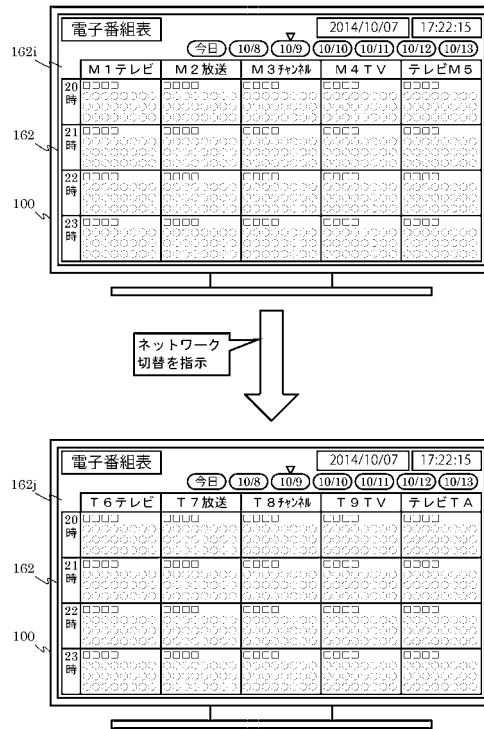
【図 26】

図 26

	放送サービスの受信状況			
MMT 放送サービス	不可	可	不可	可
MPEG2-TS 放送サービス	不可	不可	可	可
現在時刻情報の参照元	—	MH-TOT	TOT	TOT

【図 27 A】

図 27A



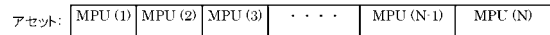
【図 27 B】

図 27B



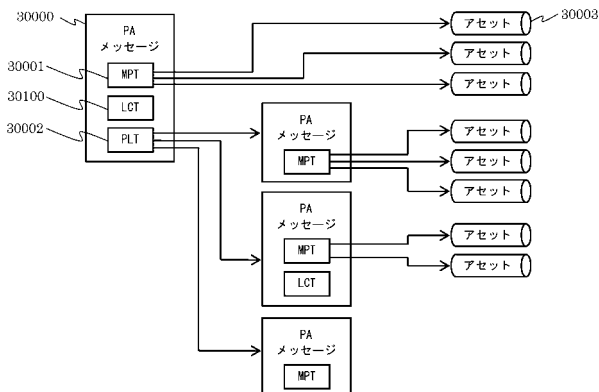
【図 29】

図 29



【図 28】

図 28



【図 30】

図 30

PA メッセージのデータ構造	ビット数	データ表記
PA_Message0{		
message_id	16	uimshf
version	8	uimshf
length	32	uimshf
extension{		
number_of_tables	8	uimshf
for(i=0; i<N; i++){		
table_id	8	uimshf
table_version	8	uimshf
table_length	16	uimshf
}		
message_payload{		
for(i=0; i<N; i++){		
table0		
}		
}		
}		

【 図 3 1 】

図 31

MMT_general_location_info のデータ構造	ビット数	データ表記
MMT_general_location_info{		
location_type	8	uimsbf
iflocation_type == 0x00{		
packet_id	16	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x01{		
ipv4_src_addr	32	uimsbf
ipv4_dst_addr	32	uimsbf
dst_port	16	uimsbf
packet_id	16	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x02{		
ipv6_src_addr	128	uimsbf
ipv6_dst_addr	128	uimsbf
dst_port	16	uimsbf
packet_id	16	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x03{		
network_id	16	uimsbf
MPEG_2_transport_stream_id	16	uimsbf
reserved	3	bslbf
MPEG_2_PID	13	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x04{		
ipv6_src_addr	128	uimsbf
ipv6_dst_addr	128	uimsbf
dst_port	16	uimsbf
reserved	3	bslbf
MPEG_2_PID	13	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x05{		
URL_length	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
URL_byte	8	char
}		
}		

【 図 3 2 】

図 32

PLT のデータ構造	ビット数	データ表記
Package_List_Table{		
table_id	8	uimsbf
version	8	uimsbf
length	16	uimsbf
num_of_package	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
MMT_package_id_length	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
MMT_package_id_byte	8	bslbf
}		
MMT_general_location_info0		
}		
num_of_ip_delivery	8	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
transport_file_id	32	uimsbf
location_type	8	uimsbf
iflocation_type == 0x01{		
ipv4_src_addr	32	uimsbf
ipv4_dst_addr	32	uimsbf
dst_port	16	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x02{		
ipv6_src_addr	128	uimsbf
ipv6_dst_addr	128	uimsbf
dst_port	16	uimsbf
}		
iflocation_type == 0x05{		
URL_length	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
URL_byte	8	char
}		
}		
}		
descriptor_loop_length	16	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
descriptor0		
}		
}		

【 図 3 3 】

図 33

値	ロケーションタイプの意味
0x00	この general_location_info を含むテーブルが伝送される IP データフローと同一の IP データフローの MMTP ハケットを示す。
0x01	IPv4 データフローの MMTP ハケットを示す。
0x02	IPv6 データフローの MMTP ハケットを示す。
0x03	MPEG-2 TS の放送ネットワークの MPEG-2 TS ハケットを示す。
0x04	IPv6 データフローの MPEG-2 TS ハケットを示す。
0x05	URL を示す。

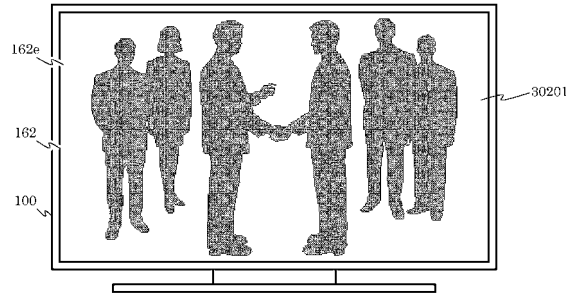
【 図 3 4 】

図 34

MPU 提示領域指定記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
MPU_Presentation_Region_Descriptor{		
descriptor_tag	16	uimsbf
descriptor_length	16	uimsbf
for(i=0; i<N; i++){		
mpu_sequence_number	32	uimsbf
layout_number	8	uimsbf
region_number	8	uimsbf
length_of_reserved	8	uimsbf
for(j=0; j<M; j++){		
reserved_future_use	8	bslbf
}		
}		
}		

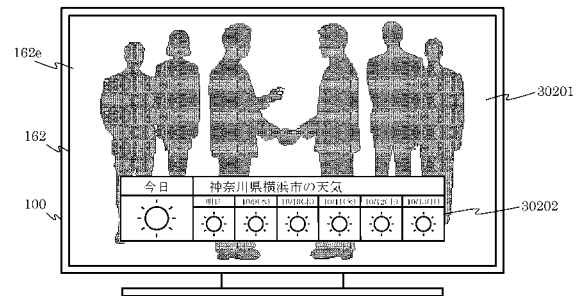
【 図 3 5 A 】

図 35A



【 図 3 5 B 】

図 35B



【図 36 A】

図 36A

LCT 有効期限記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
LCT_Ending_Time_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length ending_time }	16 8 64	uimsbf uimsbf uimsbf

【図 36 B】

図 36B

レイアウト有効期限記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Layout_Ending_Time_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length number_of_loop for(i=0; i<N; i++){ layout_number device_id } ending_time }	16 16 8 8 8 64	uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf

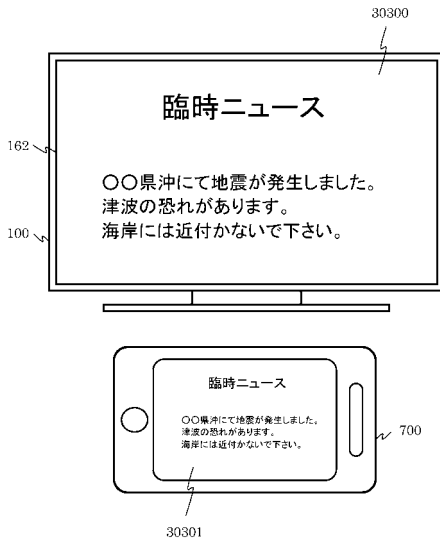
【図 36 C】

図 36C

提示領域有効期限記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Region_Ending_Time_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length number_of_loop for(i=0; i<N; i++){ layout_number device_id region_number } ending_time }	16 16 8 8 8 8 64	uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf

【図 40】

図 40



【図 37】

図 37

共通提示領域情報記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Common_Layout_Configuration_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length service_id beginning_time ending_time reserved full_set_flag number_of_loop for(i=0; i<N; i++){ layout_number device_id } }	16 16 16 64 64 7 1 8 8 8	uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf bsbf bsbf uimsbf uimsbf uimsbf

【図 38】

図 38

値	full_set_flag の意味
0	共通提示領域情報の一部分を記載する。
1	共通提示領域情報の全てを記載する。

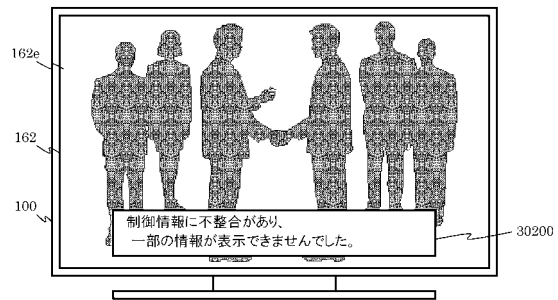
【図 39】

図 39

重複提示領域指定記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Duplicative_Layout_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length for(i=0; i<N; i++){ layout_number } }	16 16 8	uimsbf uimsbf uimsbf

【図 41】

図 41



【図 42】

図 42

依存関係記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Dependency_Descriptor(){ descriptor_tag descriptor_length num_dependencies for(i=0; i<N; i++){ asset_id_scheme asset_id_length for(j=0; j<M; j++){ asset_id_byte } } }	16 16 8 32 8 8	uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf

【 図 4 3 】

図 43

アセット ID	依存関係のアセット	アセットの取得先	レイアウト番号	領域番号	種類	提示許可
1	3	放送波	1	0	映像	許可
2	4	放送波	1	0	音声	許可
3	1	通信回線 1	1	0	映像	許可
4	2	通信回線 1	1	0	音声	許可
5	なし	通信回線 2	1	1	映像	許可
6	なし	通信回線 2	1	1	音声	許可
7	なし	通信回線 3	1	0	映像	禁止
8	なし	通信回線 3	1	0	音声	禁止

【 図 4 6 】

図 46

アセット ID	従属先のアセット	依存タイプ	アセットの取得先	レイアウト番号	領域番号	種類	提示許可
1	なし	単独	放送波	1	0	映像	許可
2	なし	単独	放送波	1	0	音声	許可
3	1	従属	通信回線 1	1	0	映像	許可
4	2	従属	通信回線 1	1	0	音声	許可
5	なし	単独	通信回線 2	1	1	映像	許可
6	なし	単独	通信回線 2	1	1	音声	許可
9	7	従属	通信回線 4	1	2	映像	禁止
10	8	従属	通信回線 4	1	2	音声	禁止
11	12	相互従属	通信回線 5	1	3	映像	許可
12	11	相互従属	通信回線 5	1	3	映像	許可
14	13	相互従属	通信回線 6	1	4	映像	禁止

【 図 4 4 】

図 44

依存関係記述子のデータ構造	ビット数	データ表記
Dependency_Descriptor{		
descriptor_tag	16	uimbsf
descriptor_length	16	uimbsf
num_dependencies	8	uimbsf
for(i=0; i<N; i++){		
asset_id_scheme	32	uimbsf
asset_id_length	8	uimbsf
for(j=0; j<M; j++){		
asset_id_byte	8	uimbsf
}		
reserved	7	bslbf
dependency_type	1	bslbf
}		

【 図 4 5 】

図 45

値	dependency_type の意味
0	記載したアセットに従属する。
1	記載したアセットに従属される。

フロントページの続き

- (72)発明者 益岡 信夫
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
- (72)発明者 栗田 俊之
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
- (72)発明者 清水 宏
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
- (72)発明者 内山 佑介
大阪府茨木市丑寅1丁目1番88号 日立マクセル株式会社内
- Fターム(参考) 5C164 FA11 TA14S UB10S UB83P